

目 次

第1章 HD 革命 /BackUp Next の使用開始にあたって

- ・ ご利用いただける動作環境（システム要件）……………Next 1-2
- ・ **BackUp Next** のインストール ……………Next 1-4
- ・ **BackUp Next** のアンインストール ……………Next 1-6
- ・ Windows PE 起動用ディスクの作成 ……………Next 1-7
- ・ Windows PE 起動用ディスクでコンピューターを起動 ……………Next 1-12
- ・ **BackUp Next** のメイン画面 ……………Next 1-13
- ・ 設定メニューの各機能……………Next 1-18
- ・ **BackUp Next** をご利用時の注意事項・制限事項 ……………Next 1-26

第2章 バックアップ

- ・ バックアップ方式について……………Next 2-2
- ・ Welcome バックアップ ……………Next 2-4
- ・ バックアップの選択……………Next 2-6
- ・ 簡単バックアップ……………Next 2-8
- ・ 詳細バックアップ（セクターバックアップ方式）……………Next 2-11
- ・ 詳細バックアップ（ファイルバックアップ方式）……………Next 2-15
- ・ 項目から選択……………Next 2-20
- ・ ファイルの絞り込み……………Next 2-21
- ・ ファイルの除外……………Next 2-24
- ・ FTP サーバーにバックアップ ……………Next 2-26
- ・ ネットワークドライブにバックアップ……………Next 2-27
- ・ スケジュールの設定……………Next 2-28
- ・ バックアップの種類……………Next 2-32
- ・ オプションの設定……………Next 2-35
- ・ タスクとログ……………Next 2-37
- ・ タスクとログのエクスポート……………Next 2-46
- ・ タスクとログのインポート……………Next 2-47
- ・ バックアップファイルからタスクを再構成……………Next 2-49
- ・ タイムスライスバックアップ……………Next 2-51
- ・ 実行されなかったスケジュールを選択して実行……………Next 2-53

第3章 復元

- ・ 復元方式について Next 3-2
- ・ 簡単復元 Next 3-4
- ・ 詳細復元 (セクターバックアップ方式で「ディスク単位」) Next 3-7
- ・ 詳細復元 (セクターバックアップ方式で「パーティション単位」) Next 3-10
- ・ 詳細復元 (ファイルバックアップ方式) Next 3-18
- ・ 差分、増分バックアップの復元 Next 3-22
- ・ 復元オプションの設定 (ファイルバックアップ方式の復元) Next 3-24
- ・ バックアップファイルの内容確認 (バックアップファイルのマウント) .. Next 3-28

第4章 Windows PE 起動用ディスクで起動してバックアップ・復元

- ・ Windows PE 起動用ディスクで起動してバックアップ Next 4-2
- ・ Windows PE 起動用ディスクで起動して復元 Next 4-5

第5章 ツール

- ・ バックアップファイルの検査 Next 5-2
- ・ バックアップファイルから ISO ファイルを作成 Next 5-4
- ・ ISO ファイルの書き込み Next 5-6
- ・ メディアの消去 Next 5-8
- ・ パーティションツール Next 5-9
- ・ ドライブ情報の取得 Next 5-12
- ・ コンピュータ情報の取得 Next 5-13
- ・ アップデータの確認 Next 5-15
- ・ ネットワークドライブの割り当てと IP アドレスの設定 Next 5-17

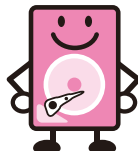
第6章 参考資料

- ・ ネットワークドライブの割り当て Next 6-2
- ・ ディスクの初期化とパーティションの作成 Next 6-3
- ・ USB メモリーのフォーマット Next 6-5
- ・ 回復ドライブの作成 Next 6-6

第 1 章

HD 革命 /BackUp Next の使用開始にあたって

(動作環境・インストール・注意事項 / 制限事項)



ここでは、HD 革命 /BackUp Next の動作環境、インストール方法、ご利用いただくにあたってあらかじめお読みいただきたい注意事項や制限事項について説明しています。

ご利用いただける動作環境 (システム要件)

HD 革命 /BackUp Next (本マニュアルでは以降「**BackUp Next**」といいます) をご利用いただくためには、次のコンピューターハードウェアおよびオペレーティングシステムが必要です。

インストールして使用する場合

オペレーティングシステム (いずれも日本語版)	Windows 11 (バージョン 23H2) 64bit 版 Windows 10 (バージョン 22H2) 32bit/64bit 版 ※Arm 版 Windows 11/10 には対応していません。 ※アドミニストレータ権限 (管理者権限) が必要です。 ※2024 年 3 月 1 日現在の対応 OS となります。Windows の大型アップデートについての最新情報は、Web サイトでご確認ください。 ※マイクロソフト社がサポートを終了したオペレーティングシステムは、本製品のサポート対象外となります。Windows 8.1 においてはサポート対象外のオペレーティングシステムとなりますが、本製品をインストール後に起動用ディスクを作成して起動できる環境であればバックアップ、復元を行うことができます。
コンピューター	上記のオペレーティングシステムが稼働するコンピューター ※PC/AT 互換機のみ、Macintosh (Mac) には対応していません。
メモリー	Windows 11/10 64bit 版: 4GB 以上 (8GB 以上を推奨) Windows 10 32bit 版: 2GB 以上
CD ドライブ	CD を読み込めるドライブ ※CD/DVD/BD メディアへバックアップを行うためには、それぞれのメディアへの書き込みに対応したドライブが必要です。
ハードディスク・SSD	150MB 以上の空き領域 (インストール用として) ※このほかにバックアップファイルを保存するための空き容量が必要。
対応ファイルシステム	FAT32、NTFS、exFAT ※対応ファイルシステムであっても、ダイナミックディスクの環境では使用できません。
モニター	画面解像度が 1280 × 1024 以上のモニター
その他	インターネット接続環境 ※Windows PE 起動用ディスクの作成、アップデートのダウンロードで使います。その他、ユーザー登録や一部ヘルプの閲覧を Web 上で行う際に必要となります。 Windows PE 起動用ディスクを作成する環境 ※CD/DVD/BD に作成するには、それぞれのメディアへの書き込みに対応したドライブが必要です。 ※USB メモリーに作成するには、1GB 以上 32GB 以下の USB メモリーが必要です。 ※USB 外付けハードディスクに作成するには、「空 (未割り当て)」のハードディスクが必要です (Professional 版のみ)。

Point

BackUp Next は、ハードディスクのほかに SSD も使用できますが、本マニュアルではデバイスを区別する場合を除き「ハードディスク」または「ディスク」と記載します。

Windows PE 起動用ディスクから起動して使用する場合

オペレーティングシステム	Windows PE を起動するため、オペレーティングシステムに依存しません。
コンピューター	インストールして使用する場合と同様 ※ Windows PE 起動用ディスクから起動するには、コンピューターの設定変更が必要な場合があります。 ※ Windows PE 起動用ディスクを USB メモリー / USB 外付けハードディスク (Professional 版のみ) に作成した場合は、USB 起動できる環境が必要です。
メモリー	512MB 以上 (ビデオメモリーと兼用の場合は 1GB 以上)
CD ドライブ	Windows PE 起動用ディスクを CD/DVD/BD で作成した場合、それぞれのメディアに対応したドライブ ※ Windows PE 起動用ディスクを USB メモリー / USB 外付けハードディスク (Professional 版のみ) に作成する場合は不要です。 ※ CD/DVD/BD メディアへバックアップを行うには、それぞれのメディアへの書き込みに対応したドライブが必要です。
ハードディスク・SSD	バックアップ、復元を行うためのハードディスク・SSD
ファイルシステム	FAT32、NTFS、exFAT ※対応ファイルシステムであっても、ダイナミックディスクの環境では使用できません。
モニター	画面解像度が 1280 × 1024 以上のモニター
その他	ハードディスクを認識するためのドライバ ※ RAID/SCSI 環境等でハードディスク / SSD が認識されない場合に必要です。



起動デバイスの優先順位について

最近のコンピューターの多くは CD や USB デバイス中の OS も起動可能ですが、多くの場合、初期状態ではハードディスクからの起動設定になっており、そのままでは起動できないことがあります。CD や USB デバイスから OS を起動するためには下に示した例のように、起動時にファンクションキーを押してメニューを呼び出しデバイスの選択、BIOS と呼ばれる設定画面での設定変更などが必要です。

ただし、起動するデバイスの変更方法はメーカーや機種に依存してさまざまであるため、その具体的な方法は弊社ではお答えすることはできません。コンピューター付属のマニュアルやヘルプを参照するか、ハードウェアメーカーにお問い合わせください。

《起動デバイスの設定例》

● SONY VAIO SVT13119

- ①電源が切れている状態で「ASSIST」ボタンを押す。
- ②表示されたメニューの中で「USB メモリーやディスクから起動」を選択する。

● DELL Vostro/OptiPlex

- ①電源を入れた後に BIOS が表示されるまで「F12」キーを何度も押す。
- ②リストの中から、起動するデバイスを選択する。

● NEC VALUESTAR VW770/J

- ①電源を入れた後に BIOS が表示されるまで「F2」キーを何度も押す。
- ②BIOS のメニューで「BOOT」を選択する。
- ③「1st Boot」で「Enter」キーを押し、「CD/DVD」を選択する。
- ④「Exit」→「Save changes and Reset」を選択する。

BackUp Next のインストール

インストールは、以下の手順で行います。旧バージョンの **BackUp Next** がインストールされている場合は、アンインストールしてからインストールを始めてください。

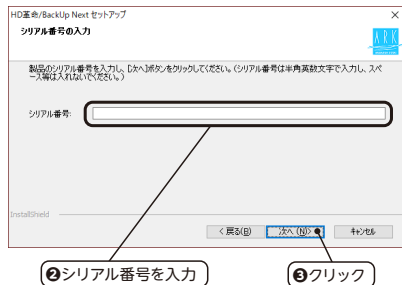
1 インストール開始

「インストール開始」をクリックします。



2 シリアル番号の入力

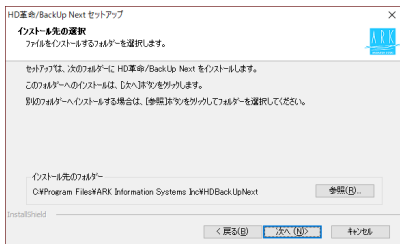
シリアル番号を入力します。



- ⚠
- シリアル番号は、半角英字の大文字と半角数字で入力してください。ハイフン（-）も必要です。（例）ABCD - E12 - FGH345JK67
 - 受け付けられないときは、全角文字や小文字になっていないかどうかを確認してください。

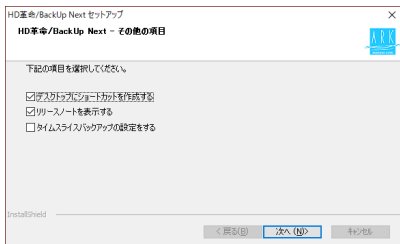
3 インストール先の選択

インストール先を指定します。特に問題がない場合は、インストール先は変更しないでください。



4 タイムスライスバックアップの設定

インストール時にタイムスライスバックアップの設定を行うことができます。ここで行ななくてもインストール後に設定することができます。タイムスライスバックアップについては、Next 2-51 ページを参照してください。



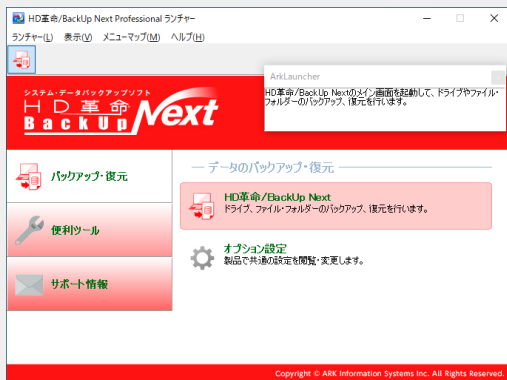
5 再起動

インストール後はコンピューターを再起動します。



Ark ランチャーについて

インストール後、デスクトップに「Arkランチャー」のアイコンが作成されます。Arkランチャーから **BackUp Next** のメイン画面や各種ツールを起動することができます。



スライド機能

インストール後に製品の紹介を行うスライド機能が表示されます。「ログオン(サインイン)時にスライド機能を表示しない」にチェックが入った状態で画面を閉じると、次回以降は表示されません。このスライド機能は、メイン画面の「機能」メニューから呼び出すことができます。



BackUp Next のアンインストール

アンインストールは、以下の手順で行います。

1 アプリの選択

Windows 10 では、「スタート」ボタン→「設定」→「アプリ」と選択します。Windows 11 では、「スタート」ボタン→「設定」→「アプリ」→「インストールされているアプリ」と選択します。

2 革命製品の選択

● Windows 10 の場合

Windows 10 では、アプリ一覧の中から「HD 革命 /BackUp Next」を表示して選択します。下にスライドしてボタンが表示されますので、「アンインストール」ボタンをクリックします。



● Windows 11 の場合

Windows 11 では、アプリ一覧の中から「HD 革命 /BackUp Next」を表示し、右側にある「…」をクリックします。メニューが開きますので、「アンインストール」をクリックします。



3 アンインストールの確認

確認ダイアログが表示されますので、「アンインストール」をクリックします。



4 アンインストールの実行

アンインストールを実行するかどうかのダイアログが表示されますので、「はい」をクリックします。

アンインストール後は、コンピュータを再起動してください。



Point

BackUp Next は、バックアップの実行履歴や設定ファイルを以下フォルダーに保存しています。隠しフォルダーとなっていますので、ファイルを参照する場合は Windows の「PC」画面で「表示」メニューを開き、「隠しファイル」にチェックを入れてください。

C:\ProgramData\ARK Information Systems Inc\HDBackUpNext

Windows PE 起動用ディスクの作成

BackUp Next の Ark ランチャーから、Windows PE で操作を行うための起動用ディスクを作成することができます。ただし、Windows PE 起動用ディスクで起動した状態では作成できません。

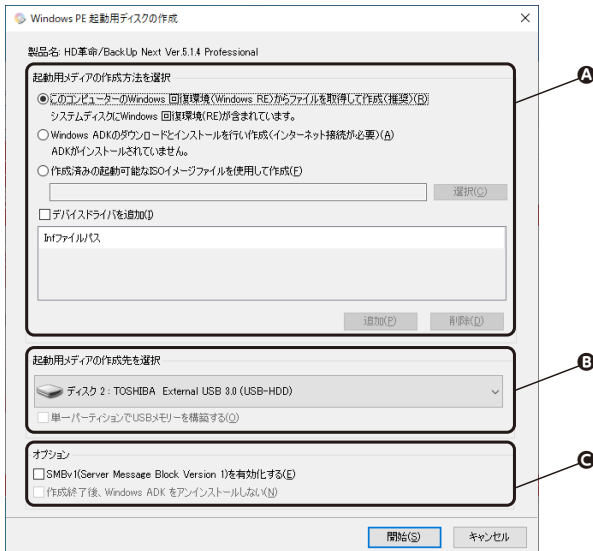
Windows PE 起動用ディスクは、基本的に操作を行うコンピューターで作成します。Windows のバージョンや bit 数が異なる他のコンピューターで作成すると、操作を行うコンピューターでは起動できない場合があります。Windows PE 起動用ディスクを作成する環境と使用する環境に注意してください。

1 「Windows PE 起動用ディスクの作成」を選択

Ark ランチャーで「便利ツール」→「Windows PE 起動用ディスクの作成」とクリックします。



「Windows PE 起動用ディスクの作成」が表示されます。



2 起動用メディアの作成方法を選択

最初に「起動用メディアの作成方法を選択」から、Windows PE 起動用ディスクを作成する際に必要なファイルをどこから取得するかを選択します。

A 各項目の詳細

●このコンピューターの Windows 回復環境 (Windows RE) からファイルを取得して作成 (推奨)

システムディスクに存在する Windows 回復環境 (Windows RE) から、ファイルを取得して Windows PE 起動用ディスクを作成する方法です。ノート PC では、Windows ADK を使用して作成する方法だとタッチパッドなどが動作しないことがあります。この方法で作成した Windows PE 起動用ディスクで起動すると動作することがあります。特殊な環境でない場合は、最も推奨される作成方法となります。ただし、Windows 回復環境が存在しない、破損しているなど環境に問題があるとこの方法は使用できません。

●Windows ADK のダウンロードとインストールを行い作成

Windows ADK (アセスメント&デプロイメントキット) とアドオンをダウンロードしてインストールを行い、Windows PE 起動用ディスクを作成する方法です。この方法では、インターネット接続が必要となります。

●作成済みの起動可能な ISO イメージファイルを使用して作成

ISO イメージファイルから Windows PE 起動用ディスクを作成する方法です。通常は、後述の起動用メディアの作成先で「ISO イメージファイル」を指定して作成した ISO イメージファイルを指定しますが、起動可能な ISO イメージファイルであれば、他のアプリケーションで作成したものでも使用可能です。

■デバイスドライバを追加

デバイスが認識されていない場合に、Intel VMD (Intel RST) やネットワークアダプター用のデバイスドライバを追加することができます。「作成済みの起動可能な ISO イメージファイルを使用して作成」を選択して Windows PE 起動用ディスクを作成する場合は選択できません。

このオプションであらかじめデバイスドライバを追加しておく、Windows PE 起動用ディスクで起動後に Ark ランチャーからデバイスドライバをインストールする必要がなくなります。

3 起動メディアの作成先を選択

次に、Windows PE 起動用ディスクの作成先とするメディアを選択します。

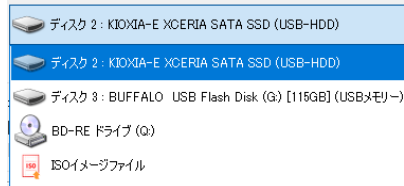
B メディアの作成先とオプションの詳細

●メディアの作成先を選択

リストの中から Windows PE 起動用ディスクを作成したいメディア (CD-R/RW、DVD ± R/RW、BD-R/RE、USB メモリー) を選択します。また、ISO イメージファイルとして保

存する場合は「ISO イメージファイル」を指定します。あらかじめ、書き込み用メディアは光学ドライブに挿入、USB メモリーは USB ポートに接続しておいてください。

起動用メディアの作成先を選択



■単一パーティションで USB メモリーを構築する

USB メモリーを Windows PE 起動用ディスクとする場合、通常は起動用のファイルが保存される先頭のパーティション(ボリューム名: ARKPEETOOL)と、バックアップファイルを保存できる後方のパーティション(ボリューム名: ARKPEDATA)の2つのパーティション構成となります。先頭のパーティションには隠し属性がついているため、ボリューム名とドライブ文字は見えません。



- Windows 回復環境からファイルを取得する場合、CD-R/RW メディアには取まりませんので、DVD-R/RW、BD-R/RE メディアを使用するようにしてください。
- 起動用 USB メモリーを作成する場合、1GB 以上の USB メモリーが必要です。4GB 以下の場合は、チェックがついていなくても単一パーティションとなります。

このオプションにチェックすることで、従来と同じ全体が1つのパーティションとして構築されます。ただし、64GB 以上の USB メモリーを使用した場合は、パーティション全体が NTFS でフォーマットされてしまうため、Windows PE 起動用ディスクから起動することはできません。

チェックありで作成した USB メモリーのパーティション構成

ディスク 2 リムーバブル 115.43 GB オンライン	HDBSNP10X64 (E) 115.43 GB NTFS 正常 (フアティブ、プライマリ パーティション)
----------------------------------------	---------------------------------------------------------------



USB ハードディスクを起動用ディスクとする

BackUp Next の Professional 版は、USB ハードディスクを Windows PE 起動用ディスクとすることができますが、いくつかの注意事項・制限事項があります。

- USB ハードディスクは、パーティションが存在しない空のハードディスク(ディスク全体が未割り当て)が必要です。空でない場合は作成できませんので、あらかじめパーティションをうべて削除してください。
- USB ハードディスクは、起動中の Windows 環境(OS、ディスクスタイルなど)から判断して自動的にフォーマットされるため、MBR 環境では 2TB を超える領域が使用できません。
- USB メモリーと同様に2つのパーティションが作成され、後方のパーティションにはバックアップファイルを保存できます。
- 一度「Windows PE 起動用ディスク」とした

USB ハードディスクは、パーティションが存在していても使用できます。後方のパーティションに存在するデータはそのまま残りますので、製品のアップデートを適用したような場合は、ファイル更新のため「Windows PE 起動用ディスクの作成」ツールで再作成を行ってください。

使用可能な USB ハードディスクの状態

ディスク 1 パーティション 223.96 GB オンライン	223.96 GB 未割り当て
-----------------------------------------	--------------------

「Windows PE 起動ディスク」作成後のディスクの状態

ディスク 1 パーティション 223.96 GB オンライン	ARKPEETOOL 400 GB FAT32 正常 (フアティブ、プライマリ パーティション)	ARKPEDATA (F) 219.96 GB NTFS 正常 (フアティブ、プライマリ パーティション)
-----------------------------------------	--------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------

C オプションの詳細

必要に応じてオプションを選択します。

■ SMBv1 (Server Message Block Version 1) を有効化する

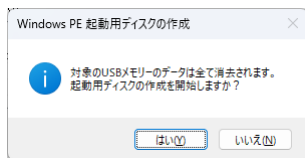
SMB (Server Message Block) は、ファイル共有するためのプロトコル (規約) ですが、脆弱性の観点から使用が推奨されなくなりました。しかし、古い NAS では SMBv1 を使用していることがあり、その場合、無効のままでは NAS にアクセスができません。

このオプションを使用すると Windows PE 起動用ディスクの作成時に SMBv1 を有効にしますので、古い NAS にもアクセスできるようになります。

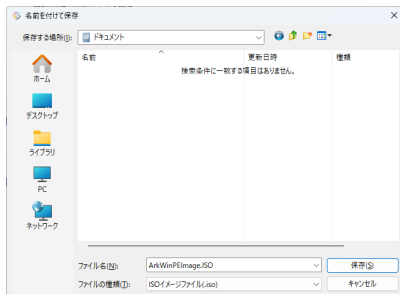
■ 作成終了後、Windows ADK をアンインストールしない

従来は、Windows PE 起動用ディスクの作成終了後に Windows ADK (アドオンも含む) を必ずアンインストールしていましたが、このオプションを使用することでアンインストールを行わないようにします。このオプションにチェックを入れることで、毎回 Windows ADK のインストールとアンインストールを行うことによる問題を防ぎ、作成時間を短縮する効果があります。

USB メモリーを指定した場合は、以下のメッセージが表示されます。USB メモリー内のデータは削除され元に戻すことはできませんので、必要なデータが残っていないことを確認してから作成を開始してください。



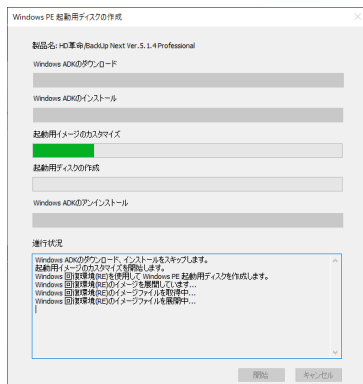
ISO イメージファイルとして保存する場合は、保存場所を指定します。



Windows PE 起動用ディスクの作成中は以下の画面が表示され、操作ごとの状況が確認できます。

ただし、「回復環境」からファイルを取得して作成する場合は Windows ADK がダウンロードしないので、実際の操作を伴わないプログレスバーはグレー表示となります。

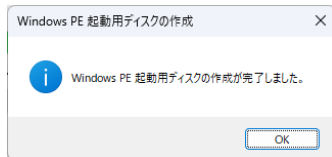
USB メモリーを作成先とした場合、途中で「ドライブ X: をフォーマットする必要があります。」とメッセージが表示されることがありますが、「キャンセル」をクリックし、フォーマットはしないでください。



7

作業の完了

Windows PE 起動用ディスクの作成が完了すると次のメッセージが表示されますので、「OK」をクリックします。

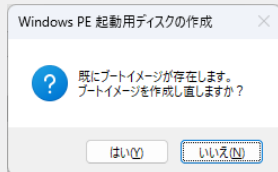
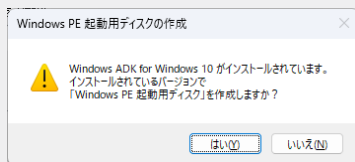


バージョンの異なる Windows ADK

バージョンの異なる Windows ADK (アセスメント & デプロイメント キット) が既にインストールされていると、次のようなメッセージが表示されます。このまま作成することは可能ですが、インストールされているバージョンで作成されてしまいます。**BackUp Next** が指定するバージョンで Windows PE 起動用ディスクを作成する場合は、「いいえ」をクリックし、インストールされている Windows ADK とアドオンをアンインストール後に、再度作成を行ってください。

ブートイメージの再作成

「Windows PE 起動用ディスクの作成」で一度起動用 CD/DVD/BD メディアを作成すると、インストールフォルダーにブートイメージファイルが作成されます。次の作成からこのブートイメージをメディアに書き込みますので作成時間が短くなります。ただし、製品のアップデートを適用した場合は、更新したファイルでブートイメージを作成し直す必要がありますので、「はい」をクリックしてください。



Windows PE 起動用ディスクでコンピューターを起動

BackUp Nextで作成したWindows PE 起動用ディスクでコンピューターを起動し、バックアップ・復元を行うことができます。

1 コンピューターを起動

起動用 CD をドライブに挿入（起動用 USB メモリーと USB ハードディスクは USB ポートに接続）した状態でコンピューターを起動します。

2 起動の選択（CD/DVD/BD の場合）

次のメッセージが表示されている間に、キーボードで何かキーを押します。

Press any key to boot from CD or DVD. . .



Windows PE 起動用ディスクから起動できない場合は、起動できるようにコンピューターの設定を変更する必要があります。Next 1-3 ページのコラムを参考にしてください。なお、変更方法が不明な場合は、ご使用のコンピューターメーカーにお問い合わせください。



デバイスドライバのインストールとドライブレターの割り当て

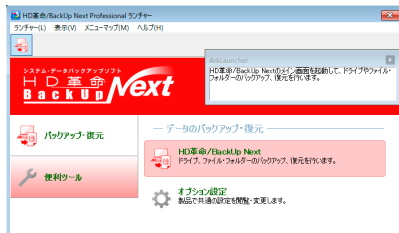
Ark ランチャーで、「便利ツール」→「デバイスドライバのインストール」と選択し、ドライバ情報ファイル（inf ファイル）を選択して RAID や SATA などのドライバを追加できます。ディスクが認識できている場合はこの操作は不要です。

デバイスドライバのインストール後にデバイスが認識されていてもドライブレターが表示されていない場合は、「便利ツール」→「ドライブレターの割り当て」と選択してください。ドライブレターが割り当てられます。なお、この操作を行う際にメッセージや画面は表示されません。

3 Ark ランチャーの起動

Ark ランチャーが起動しますので、操作を選択します。操作手順は各機能のページを参照してください。

なお、ディスクが認識されていない場合は、左下のコラムを参照し、デバイスドライバをインストールしてください。



Windows PE 起動用ディスクの制限

Windows PE 起動用ディスクで起動して操作を行う場合、Windows 上で操作を行う場合と異なり、すべての機能が使用できず、以下の機能が制限されます。

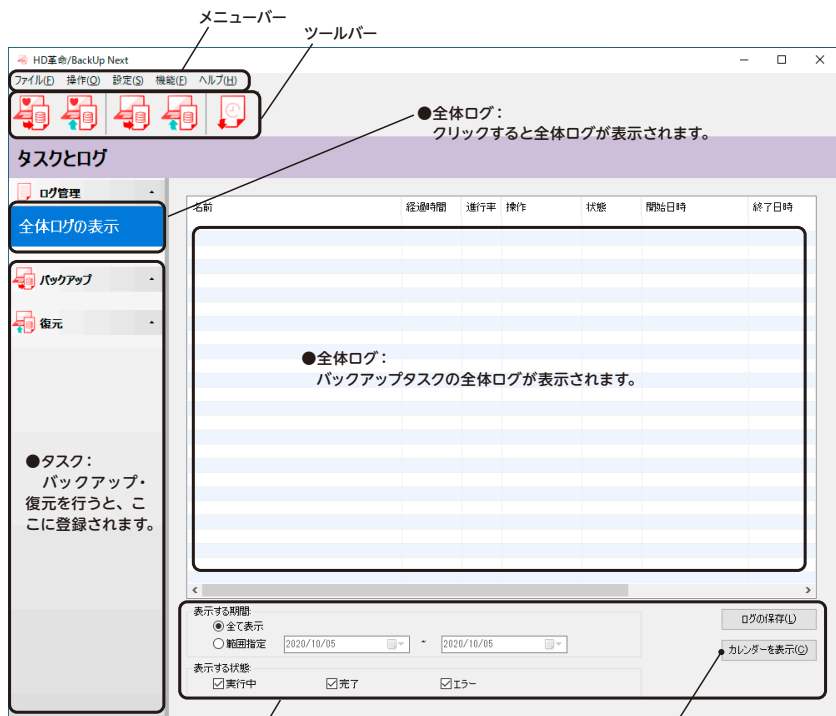
- ・タイムスライスバックアップ
- ・バックアップ時の差分、増分の選択
- ・スケジュールの設定
- ・バックアップ方式の選択
- ・バックアップ完了後に実行する動作のスリープと休止状態
- ・Windows PE 起動用ディスクの作成
- ・タスクのインポート、エクスポート
- ・バックアップファイル名やフォルダー名の日本語入力
- ・メイン画面のメニューでグレー表示となり選択できない機能

BackUp Next のメイン画面

メイン画面は、**BackUp Next** の各操作機能を一元管理する画面となっています。バックアップや復元のタスク、ログの確認のほか各種機能呼び出し、実行することができます。

「HD 革命 /BackUp Next」を選択 ―― メイン画面

Ark ランチャーで「バックアップ・復元」→「HD 革命 /BackUp Next」を選択します。
BackUp Next のメイン画面が起動します。



●ログの表示と保存:
ログの表示を期間や状態に応じて変更できます。
「ログの保存」をクリックすることで、表示されているログを保存できます。

●カレンダーを表示:
バックアップの状況を確認できます。

＜バックアップタスク選択時の画面＞

バックアップタスクを選択すると、そのタスクの個別ログが表示されます。

●バックアップの詳細:
バックアップタスクの詳細が表示されます。

名前: バックアップタスク
バックアップの種類: フルバックアップ
バックアップファイル保存先: F*
最終の実行日時: 2020-10-05 14:42:37
次回の実行日時:

詳細設定(D)

名前	経過時間	進捗率	操作	状態	開始日時	終了日時
バックアップタスク	00:05:43	100%	フルバックアップ	完了	2020/10/05 14:42:37	2020/10/05

●個別ログ:
選択したバックアップタスクの個別ログが表示されます。

ツールバーの各機能

ツールバーから、バックアップ、復元の各機能呼び出すことができます。



簡単バックアップ

簡単バックアップの操作画面を呼び出します。



簡単復元

簡単復元の操作画面を呼び出します。

簡単バックアップ

バックアップ対象:

システムディスク
使用領域: 27.0 GB

システムドライブ
使用領域: 26.9 GB

対象ディスク:

ディスク 0: INTEL SSD6C2BW120A4 (システム)

バックアップの保存先:

USB-HDD (F:) 1862.7 GB 空き

☐ 直ぐ一回、バックアップを自動的に行う(U)

スケジュール設定: 毎週月曜日の14時に開始

開始(B) キャンセル

簡単復元

復元するバックアップデータ

タスク名	最終の実行日時	種類	バック
------	---------	----	-----

検索(S) 参照(R)

復元先のディスク・ドライブ:

1 復元するバックアップを選択してください。

詳細復元に移動(M) 復元開始(B) キャンセル



バックアップ/リカバリ - バックアップ対象の選択

バックアップ対象の選択

バックアップの保存先

スケジュールの設定

オプションの設定

バックアップする対象を選択するディスク単位で選択する
バックアップする対象を選択した後に再選択する

ディスク 0: INTEL SSDSC2BH104

- EFIシステムパーティション/ディスク 0
- マシナリ/予約パーティション/ディスク 0
- Windows (C)
- (D)
- 回復パーティション/ディスク 0

ディスク 1: TOSHIBA DT11ACA100

- マシナリ/予約パーティション/ディスク 1
- (E)

ディスク 2: WD My Book 1140

- マシナリ/予約パーティション/ディスク 2
- USB HDD (F)

次へ(N) > キャンセル

[illegible]

タイムスライスバックアップ

タイムスライスバックアップ

タイムスライスによる自動バックアップを行う **オフ** [バックアップの対象を変更する](#)

バックアップの対象

- バチ
- C:\Users\Mark\Contacts
- C:\Users\Mark\Favorites
- C:\Users\Mark\Downloads
- C:\Users\Mark\Desktop
- C:\Users\Mark\Documents

[バックアップの対象を変更する](#)

バックアップの保存先

バックアップ先	空き領域	合計サイズ
USB(DD (F))	1862.70GB	1862.86GB

[バックアップの保存先を変更する](#)

スケジュール

[スケジュールを設定する](#)

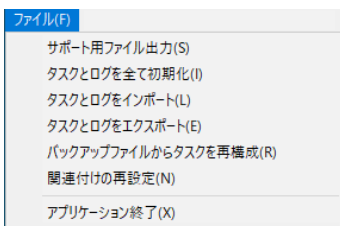
• 時間設定

OK キャンセル

メニューバーの各機能

メニューバーでは、タスクとログに関する各操作と、設定画面を呼び出します。

「ファイル」メニュー



●サポート用ファイル出力

このメニューを選択すると、サポートに必要なコンフィグファイルとログファイルが圧縮されて ZIP ファイルとして出力されます。ユーザーサポートにて要請があった場合に、出力されたファイルを送付することで問題が解決できる場合があります。

なお、出力する情報に個人情報は含まれていません。

●タスクとログを全て初期化

このメニューを選択すると、メイン画面上に登録されているバックアップや復元のタスクとログがすべて削除されます。また、設定されているバックアップのスケジュールも削除されます。

ただし、作成したバックアップファイルは削除されませんので、バックアップファイルを直接指定して復元は可能です。

一度初期化を行うと元の状態に戻すことはできませんので、よく確認してから実行するようにしてください。

●タスクとログをインポート

このメニューを選択すると、後述の「タス

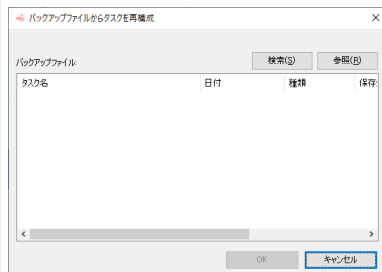
クとログをエクスポート」で出力したファイルから、タスクとログを復元することができます。

●タスクとログをエクスポート

このメニューを選択すると、メイン画面上に登録されているバックアップのタスクとログの情報をエクスポート（ファイルを出力）することができます。

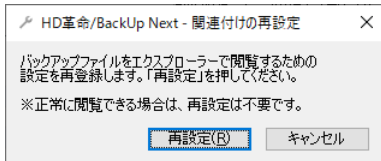
●バックアップファイルからタスクを再構成

このメニューを選択すると、以下の画面が表示されます。「検索」または「参照」ボタンをクリックし、再構成を行いたいタスクを追加します。ただし、タイムスライスバックアップで作成したタスクと旧バージョンで作成したタスクは再構成することができません。



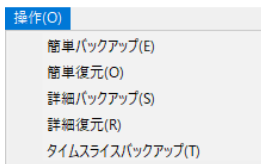
●関連付けの再構成

このメニューは、Windows のエクスプローラーにおけるバックアップファイル（HDB ファイル）の関連付けを、インストール時の状態に再設定します。バックアップファイルのマウントができなくなった場合に使用します。



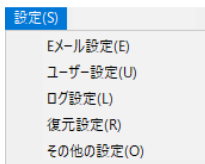
「操作」メニュー

ツールバーのボタンと同じ「バックアップ」と「復元」の機能呼び出します。



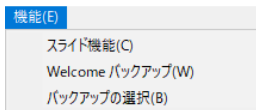
「設定」メニュー


「オプション設定」から呼び出す設定画面でタブを指定して表示します。



「機能」メニュー

「スライド機能」、「Welcome バックアップ」、「バックアップの選択」の操作画面を呼び出します。



 Ark ランチャーの「オプション設定」

「設定」メニューの画面は、Ark ランチャーの「オプション設定」からも呼び出すことができます。



設定メニューの各機能

「設定」メニューでは、メールの通知やバックアップの起動、表示などを設定することができます。

E メールの設定

「状態をメールで送信する」にチェックを入れると、このタブで設定した内容でメールを送信することができます。

ただし、メール送信機能は、プロバイダーやメールソフトによっては利用できない場合があります。Windows PE 起動用ディスクで起動した場合は、Eメールの設定はできません。

a メールアドレス

送信元と送信先のメールアドレスを入力します。送信元と送信先が、同じメールアドレスでもかまいません。

b サーバー

・SMTP サーバー

SMTP サーバーのアドレスを入力します。設定内容は、プロバイダーや管理者の方に確認してください。

・暗号化

暗号化は、以下の 3 方式から選択できます。変更時にポート番号が方式ごとの既定値に更新されます。

方式を変更後にポート番号を変更することで、既定値以外のポート番号を設定できます。

なし：暗号化なしのメール送信を行います。ポート番号は 25 となります。

SSL：OpenSSL の「SSL」方式を使用してメール送信を行います。ポート番号は 465 となります。

TLS：OpenSSL の「TLS」方式を使用してメール送信を行います。ポート番号は 587 となります。

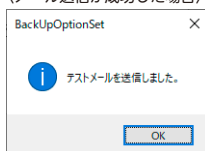
・SMTP 認証を行う

SMTP のアカウント名とパスワードを入力します。設定内容は、プロバイダーや管理者の方に確認してください。

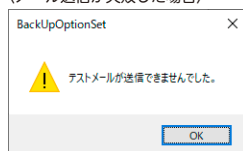
・送信テスト

「送信テスト」ボタンをクリックすると、設定したメールアドレスに対してテストメールを送信します。

〈メール送信が成功した場合〉



〈メール送信が失敗した場合〉



⑥ 送信するタイミング（トリガー）

チェックを入れたタイミングでメールを送信します。

・処理開始時

バックアップや復元の開始時にメールを送信します。

・処理終了時

バックアップや復元の終了時にメールを送信します。ただし、システムドライブの復元のように、再起動して復元を行うような復元方法では、メールの送信は行われません。

・エラー発生時

エラーまたはキャンセルを行った時にメールを送信します。

・バックアップの空き領域が少なくなった時

バックアップファイルの保存先領域が、指定したサイズ以下となった場合にメールを送信します。

〈送信されるメールの例〉

--Ark Information Systems Inc.「HD 革命 /BackUp Next」ログ
ファイル --

HDBackUp Next - BackUp Start -

コンピューター名：ARK

IP アドレス：111.11.11.11

タスク名：C ドライブのフルバックアップ

バックアップファイル名：C ドライブのフルバックアップ .hdb

タスク種類：バックアップ

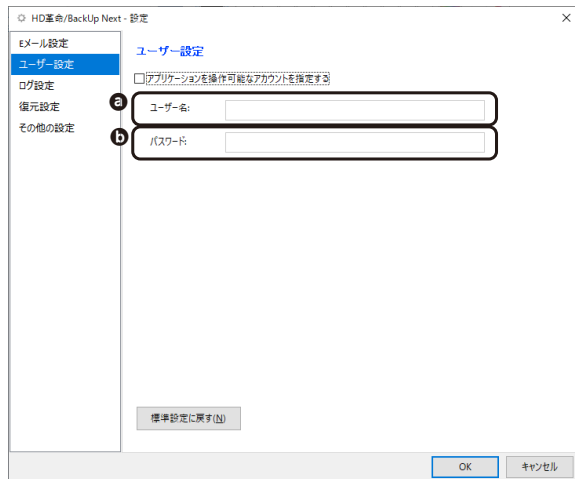
バックアップ種類：フルバックアップ

開始日時：2020-11-01 12:00:00

ユーザー設定

「アプリケーションを操作可能なアカウントを指定する」にチェックを入れると、指定したユーザー以外は **BackUp Next** を起動することができなくなります。

Windows PE 起動用ディスクで起動した場合は、ユーザー設定はできません。



a ユーザー名

管理者権限を持つローカルアカウントを入力します。マイクロソフトアカウントでサインインしている場合は、ユーザーフォルダー名として指定されている文字（マイクロソフトアカウントの最初の 5 文字）を入力します。

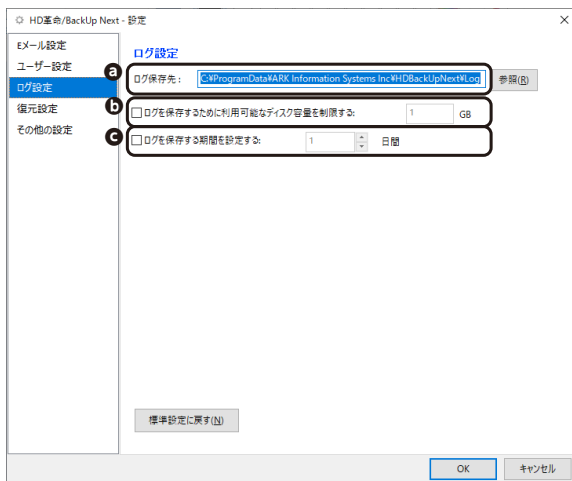
b パスワード

ユーザー名で入力したユーザーのログオン（サインイン）パスワードを入力します。マイクロソフトアカウントの場合でも PIN は使用できません。

ログ設定

BackUp Nextで作成するログファイルに関する設定を行います。ログファイルはサポートを受ける際に使用する場合があります。

Windows PE 起動用ディスクで起動した場合は、ログ設定はできません。



① ログ保存先

ログファイルの保存先を指定します。既定では「ProgramData」フォルダーに作成されます。

② ログを保存するために利用可能なディスク容量を制限する

ログファイルは、**BackUp Next**を使用するほどサイズが大きくなります。このファイルを作成するディスク領域を制限することで、空き領域が不足するのを防ぐことができます。

③ ログを保存する期間を設定する

ログを保存する期間を設定します。指定した期間を超えると、ログファイルの内容がクリアされ、新たなログの記録が始まります。

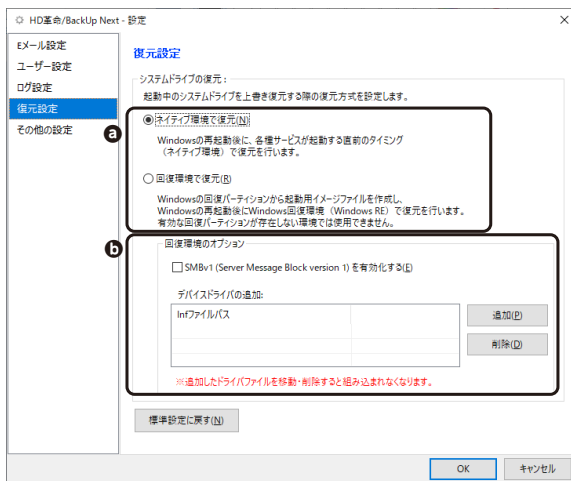
Point

ログをシステムドライブに保存している場合、選択した復元動作によってはログファイルが更新されてしまい、過去の情報が消えてしまうことがあります。

ログを別のドライブに保存することで、このようなことを回避することができます。

復元設定

BackUp Next で復元を行う際の復元方式を設定します。回復環境で復元を行う場合は、SMBv1 (Server Message Block version 1) の有効化とデバイスドライバの追加を行うことができます。



① システムドライブの復元

ここでは、Windows 上から起動中のシステムドライブを上書き復元する際の復元方式を設定します。

・ネイティブ環境で復元

従来の復元方式で、復元中は次のような画面で進行状況が表示されます。**BackUp Next** では、サービスが起動する直前のこの画面が表示される状態を「ネイティブ環境」といいます。

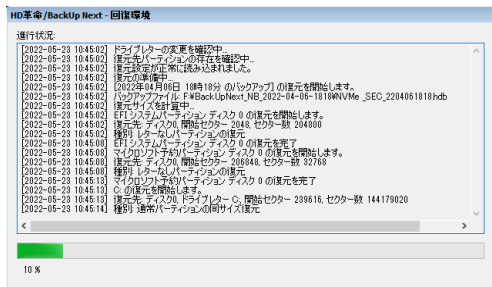
```
Restore
F:\BackUpNext_NB_2020-10-25-1030\BackUpNext_SEC_2010251030.hdb
To
C:
D:
E:
Calc restore size...
Start Restore...
Restore No = 1/6, Disk = 0, StartSector = 2048, SectorNum = 204800
Restore...
100% elapsed: 00:00:02      BackUpNext_SEC_2010251030.hdb
Restore F:\BackUpNext_NB_2020-10-25-1030\BackUpNext_SEC_2010251030.hdb to Partit
ion[POS:2048] finish....

Restore No = 2/6, Disk = 0, StartSector = 206848, SectorNum = 32768
Restore...
100% elapsed: 00:00:01      BackUpNext_SEC_2010251030.hdb
Restore F:\BackUpNext_NB_2020-10-25-1030\BackUpNext_SEC_2010251030.hdb to Partit
ion[POS:206848] finish....

Restore No = 3/6, Disk = 0, StartSector = 239616, SectorNum = 103981026
Restore...
5% elapsed: 00:00:29      BackUpNext_SEC_2010251030.hdb
```

- ・回復環境で復元

新しい復元方式で、復元中は次のような画面で進行状況が表示されます。**BackUp Next**では、この環境を「回復環境」といいます。Windows の回復パーティションから起動用イメージを作成するため、システムディスクに回復パーティションが存在しない場合は選択できません。



⑥ 回復環境のオプション

- ・ SMBv1 (Server Message Block version 1) を有効化する

このオプションは、SMBv1 にしか対応していない古い NAS をバックアップ先とした場合にチェックを入れます。

・デバイスドライバの追加

復元先の環境がバックアップ時の環境と異なり、ハードディスクや SSD、その他ハードウェアを認識させるためのデバイスドライバを追加する必要がある場合に、そのセットアップ情報ファイル (inf ファイル) を指定します。ここで指定したデバイスドライバは、起動用イメージを作成する際に自動的にインストールされます。指定するファイルは inf ファイルですが、inf ファイル単体では動作しませんので sys ファイルなど必要なファイルを inf ファイルと同じ場所に置いてください。

その他の設定

BackUp Next を使用する際のウィンドウとメッセージの表示に関する設定を行います。

Windows PE 起動用ディスクで起動した場合は、「ウィンドウの表示設定」の各チェックボックスは使用できません。



① タスクトレイにアイコンを表示する

タスクトレイにアイコンが表示され、バックアップや復元の進行状況を確認できます。また、バックアップ開始や終了時にポップアップメッセージがスライドして表示されます。

このメッセージは、Windows のアクションセンターにも通知されます。



② ログオフ・シャットダウン時のバックアップでメイン画面を表示しない

ログオフやシャットダウン時にスケジュールでバックアップを行うように設定している場合に、**BackUp Next** のメイン画面を表示するかを設定します。

ただし、ログオフやシャットダウン時はロック画面が表示されて実行されるため、ログオン（サインイン）しなければ確認ができません。

③ HD 革命 /BackUp Next 起動時に「Welcome バックアップ」画面を表示しない

BackUp Next の起動時の「Welcome バックアップ」画面を毎回表示するかを設定します。

④ HD 革命 /BackUp Next 起動時に「バックアップの選択」画面を表示しない

BackUp Next の起動時の「バックアップの選択」画面を毎回表示するかを設定します。

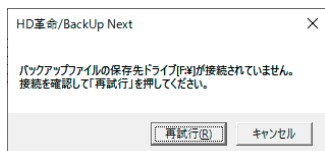
⑥ ログオン時に「スライド機能」画面を表示しない

インストール後の初回ログオン時に表示された「スライド機能」画面を毎回表示するかを設定します。

⑦ バックアップ先が接続されていないときに確認メッセージを表示する（ローカルHDDのみ）

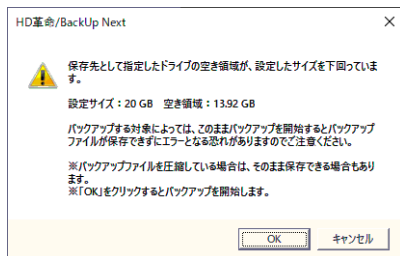
外付けのUSBハードディスクにバックアップを行うような場合、バックアップ先ハードディスクが接続されていないときに確認メッセージが表示されます。

ただし、表示の対象はローカル接続のハードディスクのみで、ネットワークドライブの場合は接続されていない状態であってもメッセージは表示されません。



⑧ バックアップファイルの保存先空き領域が少ない場合に確認メッセージを表示する

バックアップファイルの保存先として指定したドライブの空き領域が、指定したサイズ以下となった場合にメッセージが表示されます。

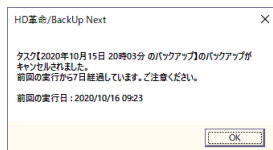


Point

この情報メッセージは、5分経過すると自動的に閉じ、バックアップを開始します。

⑨ エラー／キャンセル時に確認メッセージを表示する

バックアップ時にエラーが発生した場合や処理をキャンセルしたときに、次のような情報メッセージが表示されます。



Point

この情報メッセージは、3分経過すると自動的に閉じます。

⑩ バックアップ終了時に確認メッセージを表示する

バックアップが終了したときに、メッセージが表示されます。



Point

この情報メッセージは、3分経過すると自動的に閉じます。

BackUp Next をご利用時の注意事項・制限事項

安全にご利用いただくために

BackUp Next を安全にご利用いただくためには、以下の点に注意して操作を行ってください。

- ・バックアップ・復元には、ドライブの容量、ファイル（フォルダー）の数、ハードウェアの速度によっては大変時間がかかることがありますので、あらかじめご了承ください。
- ・ノート型コンピューターをご利用の場合はバックアップ・復元中のバッテリー切れ防止のため AC アダプターの使用をおすすめします。
- ・ハードディスク（ドライブ）にエラーや不良セクターが存在する場合、正常にバックアップ・復元ができないことがあります。Windows の「チェックディスク」などでエラーチェックを行い、正常な状態で使用してください。
- ・バックアップ・復元、各ツールの処理が実行されている間は、周辺機器（ハードディスク、USB メモリーなど）の接続・取り外しは行わないようにしてください。
- ・バックアップ中にコンピューターの電源を切ったりリセットボタンを押したりすると、データが失われる可能性がありますので、行わないようにしてください。
- ・操作完了や再起動の選択メッセージが表示されたときに、ハードディスクのアクセスランプが点滅しているような場合は、点滅が収まるまで待ってから操作を行ってください。
- ・お使いの環境やインストールされているソフトウェアによっては、正常に動作しないことがあります。このような場合は、常駐ソフトウェアの停止や周辺機器の取り外しを行うことで、動作するようになることがあります。
- ・不測の事態に備え、バックアップは定期的に行い、複数のバックアップファイルを保存しておくことをおすすめします。特に大切な

データは個別に別のハードディスクや USB メモリーなどに保存するとより安全です。

バックアップ時

BackUp Next でバックアップを行う場合に、以下の注意・制限事項があります。

●ファイルシステムについて

- ・対応ファイルシステムは FAT32、NTFS、exFAT となります。ReFS は非対応となります。
- ・ファイルシステムが ReFS の場合、バックアップファイルの保存先ドライブとしても選択できません。
- ・対応ファイルシステムであっても、ダイナミックディスクの環境では使用できません。

●バックアップ元のディスクについて

- ・USB メモリーや各種メモリーカードのようなリムーバブルドライブは、バックアップ元として選択できません。
- ・NAS などのネットワークドライブは、バックアップ元として選択できません。
- ・HPA (Hidden Protected Area) や DtoD や、その他の隠し領域をバックアップすることはできません。
- ・システムドライブ（通常は C ドライブ）をバックアップする場合、Windows が起動するために必要な「システムで予約済み」、「回復パーティション」、「EFI ファイルシステム」、「MSR ディスク」も一緒に選択されバックアップします。
- ・512 バイトエミュレーションを行っていない 4K セクター（4K ネイティブ）フォーマットのハードディスクをバックアップすることはできません。
- ・仮想ハードディスクドライブ（VHD など）

のバックアップ／復元については、動作保証外となりサポートは行いません。

●バックアップ対象データについて

バックアップされるのは、バックアップ開始前（開始した時点）のデータです。バックアップ開始後に作成・変更したデータはバックアップされません。

●バックアップ中の使用領域と使用メモリの関係について

バックアップ中は、バックアップを行うドライブの使用領域 1GB に対し、約 1MB のメモリを使用します（例：100GB 使用している場合は 100MB）。

バックアップ元ドライブで使用されている領域と、コンピューターに搭載されているメモリの使用状況によっては、メモリが不足してバックアップができない場合があります。

●EWF 方式でバックアップを行う場合の注意事項

「セクターイメージを作成する」のオプションにチェックを入れてバックアップを行う場合に、バックアップ方式で EWF 方式を選択できます。EWF 方式に関して以下の注意事項があります。

- ・バックアップ中に一時ファイル（Next 2-36 ページ）が指定した容量に達するとバックアップがキャンセルされ、一時ファイルの内容を破棄しコンピューターを再起動します。再起動後、バックアップ中だったパーティションは、バックアップタスクとログを含めバックアップを開始した時点のデータに戻されます。
- ・バックアップ終了後は、一時ファイルの内容がディスクに書き戻されます。書き戻し作業中は、絶対にコンピューターの電源を切る、リセットを行うことはしないでください。このような操作を行った場合、Windows が

起動できなくなる可能性があります。

●システムドライブをバックアップするときの注意事項

システムドライブをバックアップするときに、Windows を起動するために必要なパーティション（「システムで予約済み」や「回復パーティション」、「EFI システム」など）やファイル、フォルダーを除外すると、復元したときに正常に Windows が起動できません。システムドライブをバックアップする場合は、注意して選択を行うようにしてください。

なお、「ファイルバックアップ方式」では、システムドライブのルートディレクトリを選択して丸ごとバックアップすることはできません。

●リライタブルメディアの消去について

書き換え可能メディア（リライタブルメディア）を使用する場合は、バックアップ前にすべてのメディアを「メディアの消去」で消去してから使用してください。なお、BD-RE は新品のメディアでも必ず消去を行ってください。

●メディアへのバックアップについて

BD-R/RE、DVD-R/RW、CD-R/RW メディアを直接指定してバックアップを行う場合は、フルバックアップのみとなります。差分、増分バックアップは選択できません。また、スケジュールやサイクル設定などの一部オプションも指定できません。

なお、BD-R/RE メディアは 2 層（DL）までの対応となり、3 層と 4 層（XL）には対応していません。

●USB メモリーへのバックアップについて

USB メモリーにバックアップを行う場合は、複数の USB メモリーに分割してバックアップすることはできません。

バックアップする容量に対して十分な容量の USB メモリーを使用してください。

●スケジュールを設定してバックアップを行う ときの動作について

バックアップタスクのスケジュールが重なった場合、後から起動したバックアップタスクは待機中となり、はじめに起動したバックアップタスクが終了後に次のバックアップタスクが開始されます。これは、実行されなかったスケジュールを選択して実行する「実行するタスクの選択」画面で複数のタスクを選択した場合も同様です。

ただし、バックアップタスクを手動で開始した場合のように、バックアップ実行中にそのタスクのスケジュールが開始時刻になった場合は、スケジュールは待機中にはならずスキップされます。

なお、「ログオン時」と「コンピューター起動時」、「ログオフ時」と「シャットダウン時」を同時にスケジュール設定した場合は、どちらか片方のスケジュールのみ実行され両方のタスクスケジュールを実行することができません。Windows の起動時または終了時のスケジュールは、どちらか1つを選択するようにしてください。

●シャットダウン時のバックアップについて

スケジュールで「シャットダウン時」にバックアップを行うように設定している場合、Windows のシャットダウンを実行しようとしたタイミングでバックアップが開始されます。バックアップは、ロック画面が表示された状態で行われていますので、電源ボタンを押すなどしてシャットダウンは行わないようにしてください。

Windows のバージョンによっては、青い画面でバックアップ中であることが表示されます。この場合でも「強制的にシャットダウン」ボタンを押すことや、電源ボタンを押すなどしてシャットダウンを行うことはしないようにしてください。

●差分、増分バックアップを行う場合の制制限事項

差分、増分バックアップを行う場合は、バックアップ方式により以下のような制制限事項があります。その他の制制限事項は、Next 2-2、Next 2-3 ページを参照してください。

セクターバックアップ方式

- ・差分、増分を行うことができるファイルシステムは FAT32 と NTFS となります。
- ・設定できるバックアップタスクの数は、差分、増分を合わせて 10 個までとなります。11 個目のタスクを作成しようとした場合、バックアップウィザードでメッセージが表示され作成できません。
- ・バックアップ対象のディスクに対してパーティションサイズの変更や、パーティション数の増減、ドライブ文字の変更を行うとバックアップを継続することができなくなります。

ファイルバックアップ方式

- ・ドライブ文字を変更したときなど、バックアップ対象のパスが変更（例：D:\abc から E:\abc）されるとバックアップは継続できなくなります。

●バックアップ時に処理できなかったファイルについて

ファイルバックアップ方式でバックアップする際に、バックアップ対象のファイルが読み込めなかった場合は、バックアップ完了後のログに「完了（警告あり）」と表示されます。この警告は Windows により特殊な権限で作成されたファイルをバックアップするような場合に表示されますが、ファイルを読み込んでいる途中でそのファイル自体が削除されてしまうような場合も該当します。

「完了（警告あり）」と表示されているログの「情報」列を見ると、「処理できなかったファイルがあります。」と表示されていますので、ログを右クリックして「タスクログ」を選択し、処理できなかったファイルの内容を確認してく

ださい。

なお、該当ファイルが Windows や他社製アプリケーションによって一時的に作成されるファイル（テンポラリファイル）であれば「完了（警告あり）」と表示されていても問題ありません。

●サイクルバックアップにおけるファイル削除時の表示について

「サイクルの設定」(Next 2-31 ページ)で「保持するサイクル数」を設定している場合、指定した回数に達すると古いサイクルのバックアップファイルから順に削除されます。ファイルが削除されるタイミングは、指定した回数のフルバックアップが完了した後となり、ファイルが削除されると同時にそのサイクルバックアップに対応するログも削除されます。

新しく作成されたバックアップのログには、「完了（情報あり）」と表示され、「情報」列には、「古いサイクルのバックアップファイルを削除（サイクル設定）」と記載されます。

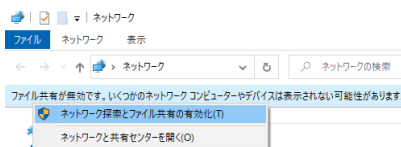
●スケジュールを設定したネットワークドライブへのバックアップについて

スケジュールを設定してネットワークドライブにバックアップを行う場合、ログオン（サインイン）していないとバックアップはエラーとなり実行されません。なお、このように一度エラーとなったバックアップタスクは、次のスケジュール開始時刻となってもバックアップを実行できなくなります。こちらを解決するには、一度コンピュータを再起動する必要があります。

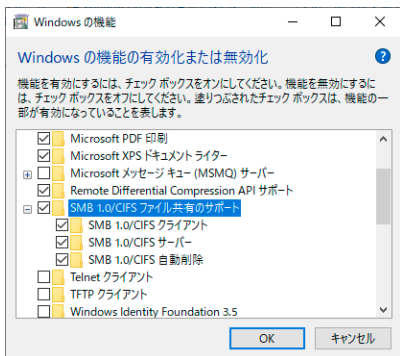
●バックアップ先をネットワークドライブにする場合の注意事項

バックアップ先をネットワークドライブとする場合、ネットワーク探索を有効にする必要があります。Windows の「ネットワーク」を開いた時に次の画面のような「ファイル共有が無効です・・・」というメッセージが表示され

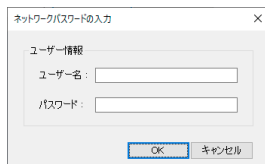
た場合は、その文字部分をクリックして有効化してください。この設定は、コントロールパネルの「ネットワークと共有センター」でも変更できます。



環境により SMB 1.0 の設定を有効にする必要があります。「コントロールパネル」→「プログラム」→「Windows の機能の有効化または無効化」と選択し、「SMB 1.0/CIFS ファイル共有のサポート」にチェックを入れて有効化してください。



また、ネットワークドライブの設定によっては、アクセスするためのユーザー名とパスワードの入力が必要となることがあります。以下の画面が表示されますので、ユーザー名とパスワードを入力してください。



復元時

BackUp Next で復元を行う場合に、以下の注意・制限事項があります。

●システムドライブを復元するときの注意事項

「セクターバックアップ方式」でバックアップした「システムドライブ」を復元対象とする場合、必要なシステムパーティション（「システムで予約済み」、「回復パーティション」、「EFI システムパーティション」、「マイクロソフト予約パーティション」）も同時に選択されますので、そのまま復元を行うようにしてください。

●ネイティブ環境で復元する場合の制限事項

復元方式を「ネイティブ環境で復元」に設定して復元を行う場合、復元終了時に「Press any key to reboot!」とメッセージが表示され、キーボードで何れかのキーを押すことでコンピューターを再起動します。しかし、環境によってはメッセージが表示されずに再起動してしまうことがあります。この時、復元後のメイン画面のログに終了日時が表示されず、情報欄に「ネイティブ環境で復元時に終了日時が取得できませんでした。」と表示されます。復元方式を「回復環境で復元」に設定することができるのであれば、そちらで復元を行ってみてください。

状態	開始日時	終了日時	情報
完了	2022/05/18 1...	2022/05/18 1...	
完了	2022/05/18 1...	2022/05/18 1...	
完了(情報あり)	2022/05/18 1...		ネイティブ環境で復元時に終了日時が取得できませんでした。
完了	2022/05/18 1...	2022/05/18 1...	

●回復環境で復元する場合の制限事項

復元方式を「回復環境で復元」に設定して復元を行う場合、USB メモリーや SD カードなどのリムーバブルディスク接続したまま復元を行うと、復元後の Windows 環境でドライブ文字の順番が変わってしまうことがあります。このようなことを避けるため、「回復環境で復元」を行う場合はリムーバブルディスクを外してから復元を開始してください。なお、バック

アップファイルが保存されているドライブの文字が変更されると、メイン画面のタスクがグレー表示となり操作できなくなります。ドライブ文字をタスクの保存先に記載されている文字に戻してください。

●「Windows」フォルダーを選択して復元することについて

「ファイルバックアップ方式」は、「システムドライブ」のルートディレクトリは選択できないため丸ごとバックアップすることはできませんが、「Windows」フォルダーを個別に選択してバックアップすることは可能です。「Windows」フォルダーをバックアップしたバックアップファイルから、現在起動中の「システムドライブ」にある「Windows」フォルダーに対して復元を行うと Windows が正常に起動しなくなる恐れがあります。このような方法で Windows の修復やほかのコンピューターへの Windows の環境移行はできませんので、復元は行わないようにしてください。

●特定のアプリケーションフォルダーのみ選択して復元することについて

アプリケーションをインストールすると、ほとんどの場合「Program Files」フォルダーにファイルが保存されます。「Program Files」フォルダー丸ごと、または特定のアプリケーションフォルダー（例：Microsoft Office など）のみバックアップし、バックアップ時とは異なる環境（Windows を初期状態に戻した環境や別のコンピューター環境）に復元しても、復元したアプリケーションが正しく起動できません（アプリケーションによってはまれに動作するものもあります）。これは、アプリケーションが使用するレジストリーや別の場所に作成されている設定ファイルを復元していないために起こります。特定のアプリケーションのみバックアップして、別の Windows 環境にアプリケーションを移行するような引越し機能はあり

ませんのでご了承ください。

●異なるディスクスタイルへの復元について

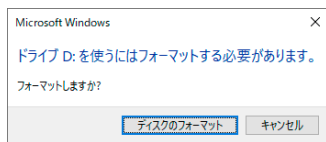
GPT 環境のパーティションをバックアップし、MBR 環境のパーティションに対して「パーティション単位」で復元を行うことはできません。その逆も同様です。ただし、選択した復元先が「未割り当て」の場合に限り、ディスクを初期化して復元を行うことができます。

「ディスク単位」での復元は復元前にディスクを初期化しますので、パーティションスタイルが異なっても復元は可能です。このとき、復元先ディスクのデータはすべて消去されてしまいますので注意してください。

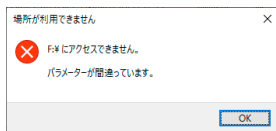
●復元時のフォーマットダイアログについて

Windows 上で起動中のシステムドライブ以外に復元を行う場合、復元先として指定したドライブをフォーマットするかどうかのダイアログが表示されます。

なお、複数のパーティションが同時に復元対象となっている場合は、このダイアログが繰り返し表示されます。復元後はコンピューターを再起動しますので、ダイアログが表示されたまま何もせずにそのままにしておいてください。



環境によっては、さらに以下のダイアログも表示されますので、同様にダイアログが表示されたまま何もせずにそのままにしておいてください。



●別のコンピューターへの復元について

- バックアップを行ったコンピューターとは別のコンピューターにシステムドライブを復元する場合、必ずしも復元先のコンピューターの OS が正常に起動できるとは限りません。また、インストールされているアプリケーションについても正常に使用できないことがあります。すべての環境における動作保証はできませんのでご了承ください。
- 復元先のコンピューターでライセンスの再認証が必要です。ライセンス認証においては、マイクロソフトまたはコンピューターのメーカーにお問い合わせください。ライセンス規約に違反することがないように十分に注意してください。

●復元時にスキップされたファイルについて

ファイルバックアップ方式でバックアップしたファイルを復元する際に、復元対象のファイルがロックされているとファイルを上書きできません。このような場合は、復元完了後のログに「完了 (警告あり)」と表示されます。

「完了 (警告あり)」と表示されているログの「情報」列を見ると、「スキップされたファイルがあります。」と表示されていますので、ログを右クリックして「タスクログ」を選択し、スキップされたファイルの内容を確認してください。

Windows PE 起動用ディスクから起動してバックアップ・復元する場合

あらかじめ Windows PE 起動用ディスクを作成することで、Windows PE 上でインストールしたのと同様にバックアップ／復元を行うことができます。このとき、以下の注意・制限事項があります。

- Windows PE は、起動から 72 時間後に自動的にコンピューターを再起動します。バックアップ／復元操作中でも強制的に再起動されますので、起動時間にご注意ください。

- ・Secure Boot（セキュアブート）が有効な環境では、Windows 8 以降の 64bit 版 OS 上で作成した Windows PE 起動用ディスクでなければコンピューターを起動できません。
- ・Windows PE 起動用ディスクで起動した場合、差分、増分のバックアップとスケジュールを設定してバックアップを行うことができませんので、関連するオプションは表示されません。
- ・Windows PE 起動用ディスクで起動して復元する場合、「項目から選択」機能を使用することはできません。
- ・ハードディスクの認識する順番やドライブ文字が、Windows 上とは異なる場合があります。ドライブをよく確認してから復元を行ってください。
- ・UASP に対応している USB メモリー、ハードディスク／SSD（Professional 版のみ）を Windows PE 起動用ディスクとする場合、デバイスによっては USB3.x のポートに接続しているとデバイスが認識できない場合があります。この場合は、USB2.0 のポートに接続してみてください。
- ・RAID や SCSI の環境では、ハードディスクを認識するためのドライバが必要になる場合があります。CD から起動後にハードディスクが認識されていない場合は、ドライバをインストールしてください。ドライバの入手方法はコンピューターのメーカーにお問い合わせいただくか、コンピューターに付属しているマニュアルなどをご確認ください。
- ・CD/USB デバイスから起動するためには、BIOS の設定変更が必要になる場合があります。起動の方法については、ご使用されているコンピューターのメーカーにお問い合わせいただくか、コンピューターに付属しているマニュアルなどをご確認ください。
- ・Windows PE 起動用ディスクで起動した場合も「バックアップファイルからタスクを再構成」することはできますが、タスクの詳細

設定を変更しても設定は保存されず、コンピューターを再起動すると元に戻ります。

タスクとログのインポート時

あらかじめエクスポートしておいたタスクとログの情報が記録された hdt ファイルをインポートする際には、以下の注意・制限事項があります。

- ・インポートを行うと現在登録されているタスクとログ、バックアップのスケジュール設定などがすべて破棄され、エクスポートを行ったときの状態に戻ります。
- ・差分、増分バックアップを行っているタスクでは、次のバックアップはフルバックアップの取り直しとなり、その次から設定に従って差分、増分バックアップが行われます。
- ・タイムスライスバックアップにより作成されたタスクは、インポートを行うとタイムスライスの ON/OFF もエクスポートを行ったときの状態に戻ります。ただし、次のバックアップはフルバックアップの取り直しとなります。
- ・「タスクの削除」（Next 2-38 ページ）で、タスクの削除を行う際にログと一緒に削除しなかった場合、ログのみが登録されている状態となりますが、この状態をエクスポートするとインポート時もログのみが戻ります。
- ・Ver.5.1.0 以降は、Ver.5.0.4 以前（旧バージョンも含む）で作成したバックアップタスクのインポートを行っても、そのタスクでバックアップを継続（メイン画面で右クリックして「バックアップ」）することはできません。また、スケジュールの設定をしている場合は、指定した時刻になってもバックアップは実行されなくなります。

バックアップファイルからタスクを再構成時

メイン画面の「ファイル」メニューで、「バックアップファイルからタスクを再構成」を選

折することで、メイン画面にタスクを再登録することができません。このとき、以下の注意・制限事項があります。

- ・同じ ID を持つタスクがすでにメイン画面に登録されている場合、上書きするかどうかのメッセージが表示されます。上書きを行う場合は、既存のタスクを削除してからタスクの再構成が行われます。
- ・バックアップファイルをコピーするなどして、同じバックアップファイルが複数の場所に存在する場合、「検索」を行うと同じ ID をもつタスクが複数表示されることがあります。同じ ID を持つタスクは同時に登録できませんので、どれか 1 つを選択するようにしてください。
- ・差分、増分バックアップの場合は、初回のフルバックアップで作成された HDB ファイルを指定してタスクを再構成してください。
- ・タスクの再構成はエクスポート、インポートと異なり、ドライブ文字など一部のタスク情報が現在のバックアップファイルの保存環境に合わせて変更されます。
- ・差分、増分バックアップを行っているタスクを再構成すると、次のバックアップの際はフルバックアップの取り直しが行われます。
- ・タイムスライズバックアップと旧バージョンで作成したバックアップファイルは、タスクを再構成することができません。
- ・Ver.5.1.0 以降は、Ver.5.0.0 から Ver.5.0.4 で作成したバックアップファイルからタスクの再構成を行っても、そのタスクでバックアップを継続(メイン画面で右クリックして「バックアップ」)することはできません。また、スケジュールの設定をしている場合は、指定した時刻になってもバックアップは実行されなくなります。

外部タスクとログファイルについて

バックアップファイルの保存先には、拡張子

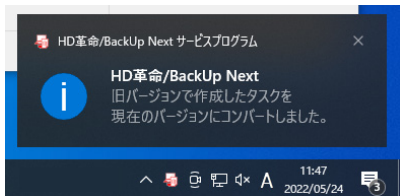
が「.hdb」と「.hdx」のバックアップファイルの他に、拡張子が「.etx」のファイルがあります。このファイルは「外部タスクファイル」といい、バックアップや復元を行うごとに更新されます。メイン画面に登録されているタスクの詳細設定や履歴が記録されていますので、削除しないようにしてください。なお、メイン画面で「バックアップファイルからタスクを再構成」を行うことで再作成することができますが、詳細設定や履歴は初期化されます。

また、拡張子が「.log」のファイルは、復元方式で「回復環境で復元」を選択して復元を行った場合に作成されるログファイルとなります。ユーザーサポートを受ける際に必要となる場合がありますので、こちらも削除しないようにしてください。

名前	更新日時	種類
105887E00-7F32-45E4-9099-849C15D22CBf.etx	2022/05/18 19:47	ETXファイル
AG1256G06A1138_SEC_2205131122.hdb	2022/05/13 11:28	HDBackUpNextFile
AG1256G06A1138_SEC_2205131122.hdx	2022/05/13 11:28	HDXファイル
Restore_2022-05-16.log	2022/05/16 18:49	テキストコメント

Ver.5.0.5 以前で作成されたタスクの動作について

Ver.5.1.0 以降にインストール（アップデート）を行うと、メイン画面に登録されている Ver.5.0.5 以前で作成したタスクは、メイン画面の初回起動時に新しい仕様に合わせてコンバートを行います。この時、Windows のアクションセンターにも通知されます。



Ver.5.0.5 で作成したタスクは、メイン画面でタスクを右クリックして「バックアップ」を

選択することで継続してバックアップは可能です。しかし、Ver.5.0.4 以前（旧バージョンも含む）で作成したタスクは、バックアップを継続できず復元のみ可能となります。また、スケジュールの設定をしている場合は、指定した時刻になってもバックアップが実行されなくなります。あらためて Ver.5.1.0 以降でバックアップを行い、タスクを登録してください。

暗号化ソフトウェアとの共存について

BitLocker やその他の暗号化ソフトウェアでデータが暗号化されている場合は、**BackUp Next** でバックアップ・復元を行うことはできません。

アンインストール時のタスクとログについて

BackUp Next をアンインストールするときに、ログとタスクを削除するか選択できます。タスクとログを残しておくと、再インストールしてもタスクとログはアンインストール時の状態に戻ります。ただし、アンインストールを行うことでスケジュールの設定が削除されてしまうため、スケジュールを設定しているタスクは、スケジュールの再設定 (Next 3-27 ページ) をする必要があります。

革命シリーズとの共存について

BackUp Next は、IHD 革命 /BackUp Ver.1 ～ Ver.12 (Ver.12s も含む) と同時にインストールすることはできません。セクターバックアップ方式における差分、増分バックアップの監視機能が共通のため、正しくバックアップを行うことができなくなります。

第2章

バックアップ



ここでは、Windowsが通常に起動した状態でバックアップする方法について説明しています。
BackUp Nextには、バックアップ対象の詳細な設定、差分・増分バックアップ、サーバーへのバックアップ、スケジュール設定ほか、多くの機能があります。

バックアップ方式について

BackUp Nextで行うバックアップには、

①ファイル、フォルダー単位で行うバックアップ（以下「**ファイルバックアップ方式**」）

②セクター単位で行うバックアップ（以下「**セクターバックアップ方式**」）

があります。

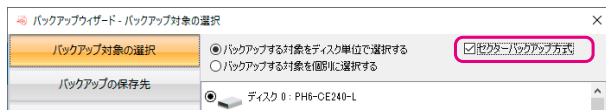
バックアップ対象の選択画面において、

・「セクターバックアップ方式」にチェックなし→ファイルバックアップ方式

・ 同 上 にチェックあり→セクターバックアップ方式

となります。2つのバックアップ方式には長所、短所があり、またそれぞれに制限事項があります。

ここでは、バックアップ方式の違いについて説明します。



ファイルバックアップ方式

ファイルバックアップ方式では、バックアップ対象のドライブに存在するファイル、フォルダーの属性や権限を確認しながらひとつひとつバックアップします。

■長所

- ・バックアップしたいファイルをフォルダーツリーの中から任意に選択してバックアップすることができますので、バックアップ対象を「ドキュメント」や「ピクチャ」フォルダーなどに絞ることも可能です。

■短所

- ・ファイル、フォルダーの個数が多くなればなるほど、それに比例してバックアップに時間がかかるようになります。ファイル、フォルダーの個数が多いドライブを丸ごとバックアップするにはあまり適していません。

■制限事項

- ・Windows がインストールされている「システムドライブ」が含まれる場合、そのディスクはディスク単位でバックアップできません。また、「システムドライブ」は、ルートディレクトリを指定してバックアップできません。
- ・他のユーザーがアクセス権を設定したファイル、フォルダーがある場合、そのファイル、フォルダーをバックアップ、復元することはできません。
- ・バックアップできるパスの長さは260文字までとなり、260文字を超えたファイル、フォルダーは、バックアップ対象としていてもバックアップされません。
- ・暗号化されたファイル、フォルダーをバックアップした場合、Windows PE 起動用ディスクで起動して復元を行うとフォルダーの暗号化が解除されて復元されます。また、復元時のオプションで、「再起動後に復元する」を選択して復元を行うと、暗号化されたファイルは復元されません。フォルダーは暗号化が解除されて復元されます。

- ・圧縮されたファイル、フォルダーは、復元時のオプションで、「再起動後に復元する」を選択して復元を行うと、圧縮されていない状態となります。

セクターバックアップ方式

セクターバックアップ方式では、ハードディスクの最小記憶単位であるセクターを1セクターごとにバックアップします。

■長所

- ・ファイルバックアップ方式に比べ、比較的高速にバックアップが可能です。システムドライブのように、ファイル、フォルダーの個数が多いドライブのバックアップに適しています。

■短所

- ・バックアップ対象がディスク全体、またはパーティションとなりますので、任意のフォルダーのみ選択してバックアップするようなことはできません。
- ・差分バックアップや増分バックアップを行う場合、ディスクの最適化などが行われてディスク上のファイルの位置が変更されてしまうと、そのファイルの内容が変更されていなくてもバックアップ対象となります。
- ・バックアップファイルにインデックスを付加するため、同じ環境をバックアップしても、ファイルバックアップ方式と比べてバックアップファイルのサイズは大きくなります。

■制限事項

- ・複数のディスクを同時にバックアップ対象とする（例：ディスク0のCドライブとディスク1のDドライブを同時に選択する）ことはできません。
- ・差分バックアップ、増分バックアップを設定したタスクは、10個まで登録できます。既に10個のタスクが登録されている場合、それ以上差分バックアップ、増分バックアップのタスクを作成できません。
- ・バックアップ、復元時に、「項目から選択」、「ファイルの絞り込み」、「ファイルの除外」の機能を使用することはできません。
- ・バックアップ時のオプションで、「暗号化」を選択することはできません。
- ・バックアップファイルのマウントでバックアップファイルを参照する場合、exFATのドライブをバックアップしたファイルの中身を参照することはできません。
- ・バックアップの保存先に、FTPサーバーを選択することはできません。
- ・複数のメディアに分割してバックアップした場合、バックアップ時とはサイズが異なるドライブへ復元することはできません。この場合は、ハードディスクにフォルダーを作成し、そのフォルダーへバックアップファイルをすべてコピーしてから復元を行ってください。
- ・復元後にディスクの中を参照するには、コンピューターの再起動が必要となる場合があります。

Welcome バックアップ

「Welcome バックアップ」画面では、Windowsがインストールされ起動している「システムディスク」を、丸ごと別のディスクにフルバックアップすることができます。バックアップに関する設定はできませんが、最も簡単なバックアップ方法となります。

「次回から、この画面を表示しない」のチェックボックスにチェックを入れると、次回起動時からこの画面は表示されなくなります。

1 Welcome バックアップの起動

Arkランチャーで「バックアップ・復元」→「HD 革命/BackUp Next」を選択します。初回起動時は、「Welcome バックアップ」画面が起動します。

次回起動時からは、チェックボックスのチェック状況により、表示されるかが決まります。

「閉じる」をクリックすると、「バックアップ」の選択画面に移動します。



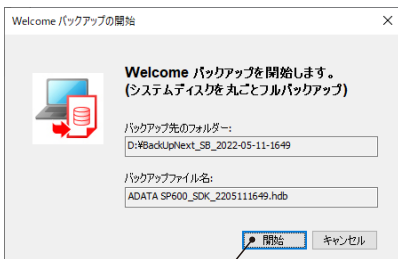
BackUp Nextの起動時に表示するかを選択します。

①今すぐ丸ごとバックアップを行う場合にクリック

2 バックアップの開始

次の画面が表示され、バックアップ先のフォルダーとバックアップファイル名が確認できます。

「開始」をクリックすると実際にバックアップが開始します。



②クリック



- 「Welcome バックアップ」を行うには、バックアップを行う「システムディスク」とは別のディスクが接続されている必要があります。

Point

バックアップファイルは、「システムディスク」以外で空き領域が一番大きなドライブ（パーティション）に作成されます。フォルダー名とファイル名は、使用環境を元に自動的に作成され変更はできません。

3 バックアップの実行

バックアップが開始すると、メイン画面でバックアップの「タスク」が新規に作成され、ログの「状態」列には「バックアップ実行中」と表示されます。バックアップ中のタスクとログは、赤色で表示されます。

タスクとログ				
ログ管理				
全体ログの表示				
バックアップ				
2022年05月11日 16時52分 のバックアップ				
保存先: D:\BackupNext_SB_2022-05-11-1649\				
名前	経過時間	進行率	操作	状態
2022年05月11日 16時52分 のバックアップ	00:01:40	15%	フルバックアップ	バックアップ実行中

Point

バックアップを途中でキャンセルするには、ログの中で実行中のタスクを「右クリック」して「タスクをキャンセル」を選択します。

2022年05月	バックアップ(B)
保存先: D:\Backu	詳細画面(R)
復元	削除(D)
	タスクをキャンセル(C)
	バックアップ終了後シャットダウン[1回のみ](S)

4 バックアップの完了

バックアップが完了すると、ログの「状態」列には「完了」と表示されます。

タスクとログ				
ログ管理				
全体ログの表示				
バックアップ				
2022年05月11日 16時52分 のバックアップ				
保存先: D:\BackupNext_SB_2022-05-11-1649\				
名前	経過時間	進行率	操作	状態
2022年05月11日 16時52分 のバックアップ	00:05:08	100%	フルバックアップ	完了

Point

ログの「状態」列には、バックアップの動作についての情報が表示されます。「キャンセル」や「エラー」と表示されている場合は、バックアップが正常に完了していません。また、バックアップが完了しても「完了（警告あり）」や「完了（情報あり）」と表示されることがあります。このような場合は、ログを右にスクロールして、「情報」列の表記を確認してください。

バックアップの選択

「バックアップの選択」画面は、「簡単バックアップ」または「詳細バックアップ」を起動するランチャー画面となります。メイン画面を起動せずに各操作画面を起動できます。

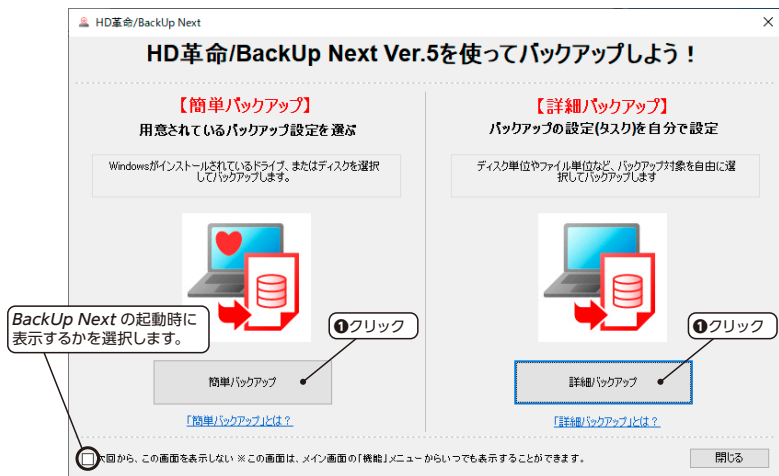
チェックボックスにチェックを入れると、次回起動時からこの画面は表示されなくなります。

1 「バックアップの選択」画面の起動

Arkランチャーで「バックアップ・復元」→「HD 革命/BackUp Next」を選択します。

初回起動時は、「Welcome バックアップ」画面で「閉じる」ボタンをクリックするとこの画面が起動します。次回起動時からは、チェックボックスのチェック状況により、表示されるかが決まります。

「閉じる」をクリックすると、*BackUp Next*のメイン画面が表示されます。



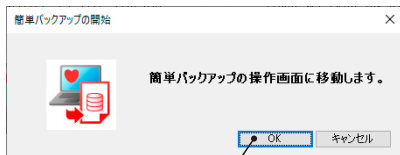
Point

「Welcome バックアップ」と「バックアップの選択」画面は、メイン画面の「機能」メニューから表示することができます。

また、表示の有無に関しては、メイン画面で「設定」メニューで「その他の設定」タブの中で変更できます。

【簡単バックアップ】

確認画面が表示されますので、「OK」をクリックします。



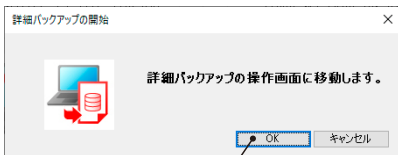
②クリック

「簡単バックアップ」の操作画面が起動します。



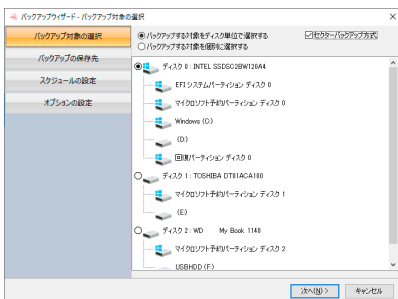
【詳細バックアップ】

確認画面が表示されますので、「OK」をクリックします。



②クリック

「詳細バックアップ」の操作画面が起動します。



簡単バックアップ

「簡単バックアップ」は、「システムディスク（Windows がインストールされているディスク全体）」、または「システムドライブ（Windows がインストールされているドライブ）」を簡単にフルバックアップする機能です。

詳細な設定はできませんが、バックアップ先を選択するだけで簡単にバックアップを行うことができます。

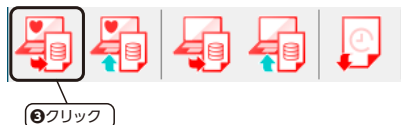
1 BackUp Nextの起動

Ark ランチャーで「バックアップ・復元」→「HD革命/BackUp Next」を選択します。



2 「簡単バックアップ」の選択

ツールバーで一番左の「簡単バックアップ」ボタンをクリックします。



「バックアップの選択」画面からも、「簡単バックアップ」の操作画面を呼び出すことができます。

3 バックアップ対象の選択

バックアップ対象として、「システムディスク」または「システムドライブ」の画像ボタンをクリックします。



①システムディスク

Windowsがインストールされているディスク全体をバックアップします。バックアップを行うには、バックアップ先となる別のディスクが必要です。

②システムドライブ

Windowsがインストールされているドライブ（パーティション）をバックアップします。

③対象ディスク

バックアップ元のディスクが表示されます。Windows上でバックアップを行う場合は、ディスクが自動的に選択され変更できません。

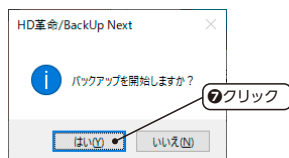
④バックアップの保存先

空き領域が一番大きなドライブ（パーティション）が最初に指定されますが、変更は可能です。

⑤週に一回、バックアップを自動的に行う

バックアップを開始した曜日と時間を起点として、週に一回選択したバックアップ対象をスケジュールでフルバックアップします。

「はい」をクリックすると、実際にバックアップが開始します。



4 バックアップの実行

バックアップが開始すると、メイン画面でバックアップの「タスク」が新規に作成され、ログの「状態」列には「バックアップ実行中」と表示されます。

バックアップ中のタスクとログは、赤色で表示されます。

タスクとログ

ログ管理
全体ログの表示

バックアップ
2020年10月05日 19時01分 のバックアップ
保存先: F:\BackUpNext_SB_2020-10-05-1901\

名前	経過時間	進行率	操作	状態
2020年10月05日 19時01分 のバックアップ	00:08:11	35%	フルバックアップ	バックアップ実行中

Point

バックアップを途中でキャンセルするには、ログの中で実行中のタスクを「右クリック」して「タスクをキャンセル」を選択します。

2020年10月05日 19時01分 のバックアップ
保存先: F:\BackUpNext_SB_2020-10-05-1901\

復元

- バックアップ(B)
- 詳細復元(R)
- 削除(D)
- タスクをキャンセル(C)
- バックアップ終了後シャットダウン[1回のみ](S)

5 バックアップの完了

バックアップが完了すると、ログの「状態」列には「完了」と表示されます。

タスクとログ

ログ管理
全体ログの表示

バックアップ
2020年10月05日 19時01分 のバックアップ
保存先: F:\BackUpNext_SB_2020-10-05-1901\

名前	経過時間	進行率	操作	状態
2020年10月05日 19時01分 のバックアップ	00:05:18	100%	フルバックアップ	完了



簡単バックアップのスケジュール設定

「簡単バックアップ」で「週に一回、バックアップを自動的に行う」にチェックを入れるとスケジュールにより自動的にバックアップが行われます。

このバックアップは特殊なサイクルバックアップとなり、初回のバックアップファイルは削除されずにそのまま残り、2回目以降は直近2回分のバックアップファイルが保存される仕組みとなっています。

以降、新たにバックアップを行うと、古いバックアップファイルから順に削除されます。

初回のバックアップ (削除されずに残る)
 2回目のバックアップ (4回目のバックアップ終了後に削除される)
 3回目のバックアップ (5回目のバックアップ終了後に削除される)
 4回目のバックアップ (6回目のバックアップ終了後に削除される)
 ⋮
 最新の1回前のバックアップ } 初回と、直近2回分のバックアップ
 最新のバックアップ } ファイルだけが保存される。

一度設定したスケジュールのオン、オフは、メイン画面で簡単バックアップのタスクを選択して「タスクの詳細設定」から変更可能です。

なお、チェックボックスのチェックを外して一度スケジュールをオフにしてから、再度チェックを入れてオンにした場合は、新たに初回のバックアップからサイクルバックアップが開始されます。

削除されずに残る初回のフルバックアップファイルが増えていきますので、バックアップ先の容量が不足するような場合は手動で削除するようにしてください。

タスクの詳細設定

基本情報 スケジュール オプション

スケジュール設定:

週単位で実行 設定日: 2020/10/06 開始時刻: 10:00
 大塚区に実行 毎週
 スリープ/休止状態を解除してスケジュールを実行

サイクル設定:
 保存するサイクル数: 5
 (初回フルバックアップと直近4回のフルバックアップ)

☒ 週に一度、バックアップを自動的に行う

スケジュールを実行

最終の実行日時: 2020-10-06 10:53:53

次の実行日時: 2020-10-13 10:00:00

このタスクは、実行実行されています。
 実行の結果: 成功

閉じる

詳細バックアップ (セクターバックアップ方式)

「詳細バックアップ」は、ウィザードによりオプションやスケジュールを設定してバックアップを行う機能です。

ここでは、「セクターバックアップ方式」でバックアップを行う手順を説明します。

1 BackUp Nextの起動

Arkランチャーで「バックアップ・復元」→「HD革命/BackUp Next」を選択します。



2 「詳細バックアップ」の選択

ツールバーで左から3番目の「詳細バックアップ」ボタンをクリックします。

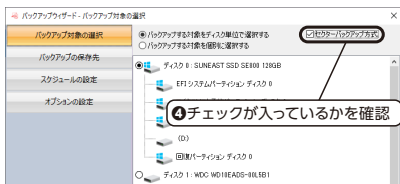


「バックアップの選択」画面からも、「詳細バックアップ」の操作画面を呼び出すことができます。

3 バックアップ対象の選択

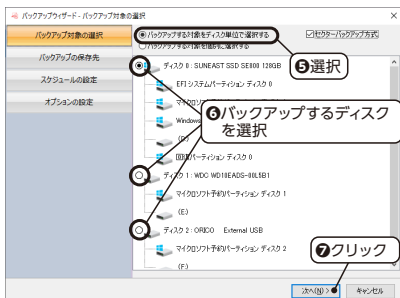
「バックアップ対象の選択」タブでは、バックアップ対象をディスク単位やパーティション単位で選択します。

この例では、セクターバックアップ方式でバックアップを行いますので、「セクターバックアップ方式」のチェックボックスにチェックが入っているかを確認します。



●バックアップする対象をディスク単位で選択する

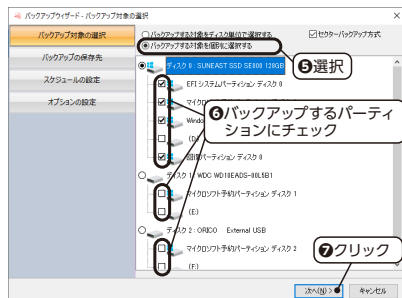
ラジオボタンの「バックアップする対象をディスク単位で選択する」を選択し、バックアップ対象のディスクを選択します。異なるディスクを同時にバックアップすることはできません。



●バックアップする対象を個別に選択する

ラジオボタンの「バックアップする対象を個別に選択する」を選択し、バックアップ対象とするパーティションにチェックを入れます。

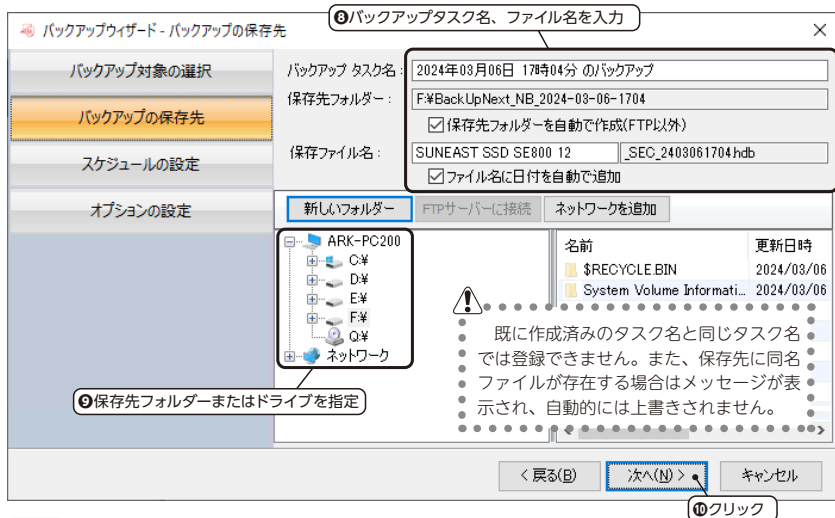
異なるディスクにあるパーティションを同時に選択することはできません。



4 バックアップの保存先

「バックアップの保存先」タブでは、バックアップタスク名、保存先フォルダー、ファイル名を指定します。

名前は環境に応じて自動的に入力されていますので、必要場合はそれぞれの項目を任意の内容に変更してください。

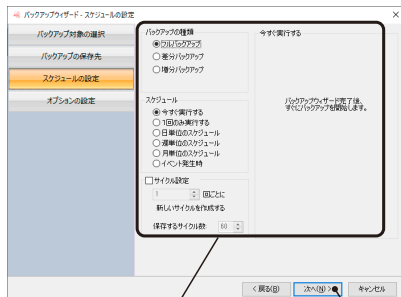


Point

「バックアップ タスク名」は、メイン画面左側に登録されるタスク名となります。「保存ファイル名」は実際に作成されるバックアップファイル名となります。入力できる「保存先フォルダー名」は200文字まで、「保存ファイル名」として入力可能な文字数は22文字まで（スペースも1文字としてカウント）となり、「保存ファイル名」はこの画面で指定した名称を後から変更できません。

5 スケジュールの設定

「スケジュールの設定」タブでは、バックアップの種類とスケジュールを指定します。詳細については、Next 2-28 ページを参照してください。

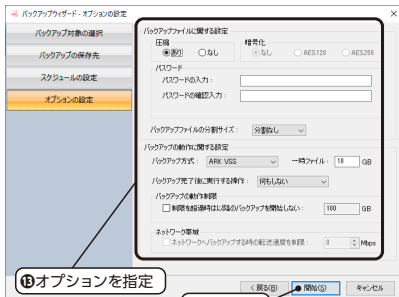


11 バックアップの種類とスケジュールを指定

12 クリック

6 オプションの設定

「オプションの設定」タブでは、圧縮の設定やバックアップファイルの分割サイズなどを設定します。詳細については、Next 2-35 ページを参照してください。



13 オプションを指定

14 クリック

7 バックアップの開始

バックアップ前に確認メッセージが表示されます。「はい」をクリックするとバックアップが開始します。



15 クリック

8 バックアップの実行

バックアップが開始すると、メイン画面でバックアップの「タスク」が新規に作成され、ログの「状態」列には「バックアップ実行中」と表示されます。バックアップ中のタスクとログは、赤色で表示されます。

タスクとログ

ログ管理

全体ログの表示

バックアップ

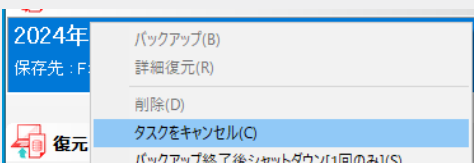
2024年03月06日 17時04分 のバックアップ

保存先: F:\BackUpNext\NB_2024-03-06-1704W

名前	経過時間	進行率	操作	状態	開始日時	終了日時
2024年03月06日 17時04分	00:01:06	5%	フルバックアップ	バックアップ実行中	2024/03/06 17:05:14	

Point


バックアップを途中でキャンセルするには、ログの中で実行中のタスクを「右クリック」して「タスクをキャンセル」を選択します。




9 バックアップの完了

バックアップが完了すると、ログの「状態」列には「完了」と表示されます。

タスクとログ

 ログ管理

全体ログの表示

 バックアップ

2024年03月06日 17時04分 のバックアップ

保存先 : F:\BackUpNext_NB_2024-03-06-1704W

名前	経過時間	進捗率	操作	状態	開始日時
2024年03月06日 17時04分 ...	00:07:50	100%	フルバックアップ	完了	2024/03/06 17:...

Point

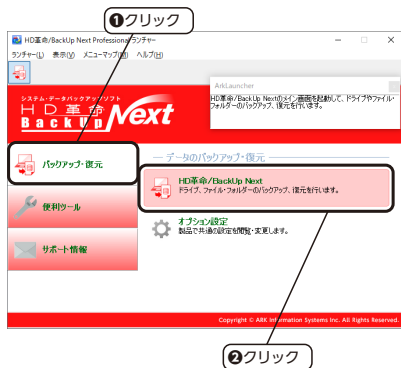
ログの「状態」列には、バックアップの動作についての情報が表示されます。「キャンセル」や「エラー」と表示されている場合は、バックアップが正常に完了していません。また、バックアップが完了しても「完了（警告あり）」や「完了（情報あり）」と表示されることがあります。このような場合は、ログを右にスクロールして、「情報」列の表記を確認してください。

詳細バックアップ (ファイルバックアップ方式)

「詳細バックアップ」は、ウィザードによりオプションやスケジュールを設定してバックアップを行う機能です。ここでは、「ファイルバックアップ方式」でバックアップを行う手順を説明します。

1 BackUp Nextの起動

Arkランチャーで「バックアップ・復元」→「HD革命/BackUp Next」を選択します。



2 「詳細バックアップ」の選択

ツールバーで左から3番目の「詳細バックアップ」ボタンをクリックします。「詳細バックアップ」は「バックアップの選択」画面からも呼び出すことができます。



「バックアップの選択」画面からも、「詳細バックアップ」の操作画面を呼び出すことができます。

3 バックアップ対象選択方式の指定

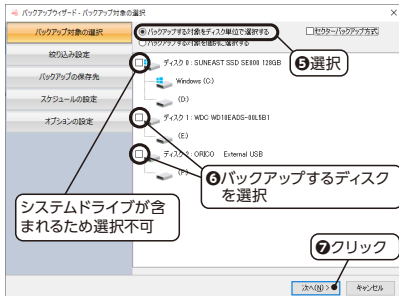
「バックアップ対象の選択」タブでは、バックアップ対象をディスク単位やパーティション単位で選択します。

この例では、ファイルバックアップ方式でバックアップを行いますので、「セクターバックアップ方式」のチェックボックスのチェックを外します。



●バックアップする対象をディスク単位で選択する

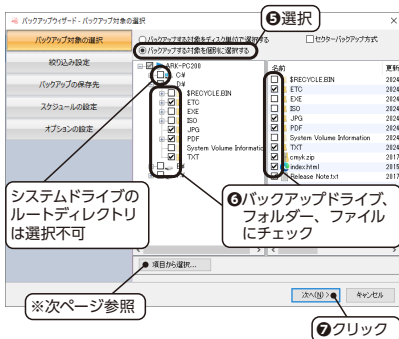
ラジオボタンの「バックアップする対象をディスク単位で選択する」を選択し、バックアップ対象のディスクを選択します。システムドライブが含まれるディスク（この例ではディスク0の左側にあるチェックボックス）は選択できません。「バックアップする対象を個別に選択する」にて対象を選択してください。



●バックアップする対象を個別に選択する

ラジオボタンの「バックアップする対象を個別に選択する」を選択し、バックアップ対象とするドライブ、フォルダー、ファイルにチェックを入れます。

システムドライブのルートディレクトリ（この例ではC:\の左側にあるチェックボックス）は選択できませんが、ツリーを展開して個別に選択することは可能です。

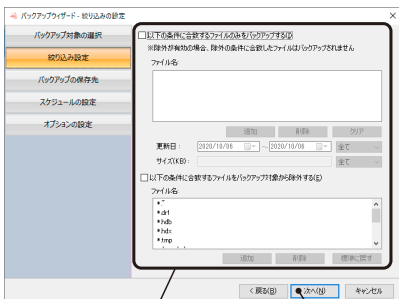


4

絞り込み設定

「ファイルバックアップ方式」では、バックアップ対象として選択した中から、ファイルの絞り込みと除外を行うことができます。

詳細については、Next 2-21、Next 2-24 ページを参照してください。

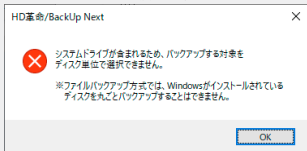


システムディスクをバックアップする際の制限

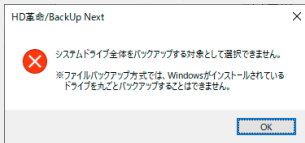
「システムドライブ」には、ストアアプリや特殊なアクセス権が設定されたシステムファイルが存在し、管理者権限をもったユーザーでもこのようなファイルをファイル単位で正常にバックアップすることができません。そのため、「ファイルバックアップ方式」では、「システムディスク」または「システムドライブ」を丸ごとバックアップすることを制限しています。

「システムディスク」または「システムドライブ」が選択された場合は、以下のようなメッセージが表示されます。

システムディスクを選択した場合



システムドライブを選択した場合



なお、個別に「システムドライブ」のファイルをすべて選択してバックアップすることは制限していませんが、そのバックアップファイルから元のパスを指定して（特に「Windows」や「Program Files」）に復元すると、Windowsが正常に動作しなくなる恐れがありますので行わないようにしてください。

5 バックアップの保存先を選択

「バックアップの保存先」タブでは、バックアップタスク名、保存先フォルダー、ファイル名を指定します。名前は環境に応じて自動的に入力されていますので、必要な場合はそれぞれの項目を任意の内容に変更してください。

⑩バックアップタスク名、ファイル名を入力

バックアップウィザード - バックアップの保存先

バックアップ対象の選択

バックアップの保存先

スケジュールの設定

オプションの設定

バックアップ タスク名: 2024年03月06日 18時05分 のバックアップ

保存先フォルダー: F:\BackUpNext_NB_2024-03-06-1805

☒ 保存先フォルダーを自動で作成(FTP以外)

保存ファイル名: SUNEAST SSD SE800 12 _FIL_2403061805hdb

☒ ファイル名に日付を自動で追加

新しいフォルダー

FTPサーバーに接続

ネットワークを追加

ARK-PC200

C:

D:

E:

F:

Q:

ネットワーク

⑪保存先フォルダーまたはドライブを指定

名前	更新日時
\$RECYCLE BIN	2024/03/06
BackUpNext_NB_2024-03...	2024/03/06
System Volume Informati...	2024/03/06

⚠

既に作成済みのタスク名と同じタスク名では登録できません。また、保存先に同名ファイルが存在する場合はメッセージが表示され、自動的に上書きされません。

< 戻る(B)

次へ(N)

キャンセル

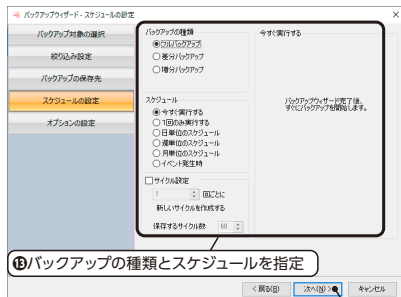
⑫フリック

Point

「バックアップ タスク名」は、メイン画面左側に登録されるタスク名となります。「保存ファイル名」は実際に作成されるバックアップファイル名となります。入力できる「保存先フォルダー名」は200文字まで、「保存ファイル名」として入力可能な文字数は22文字まで（スペースも1文字としてカウント）となり、「保存ファイル名」はこの画面で指定した名称を後から変更できません。

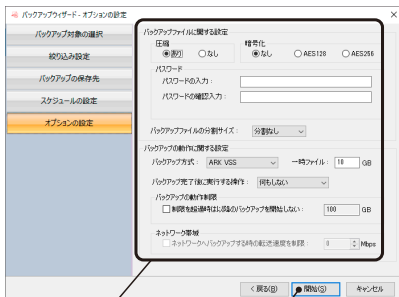
6 スケジュールの設定

「スケジュールの設定」タブでは、バックアップの種類とスケジュールを指定します。詳細については、Next 2-28ページ以降を参照してください。



7 オプションの設定

「オプションの設定」タブでは、圧縮の設定やバックアップファイルの分割サイズなどを設定します。詳細については、Next 2-35ページ以降を参照してください。



8 バックアップの開始

バックアップ前に確認メッセージが表示されます。「はい」をクリックするとバックアップが開始します。



9 バックアップの実行

バックアップが開始すると、メイン画面でバックアップの「タスク」が新規に作成され、ログの「状態」列には「バックアップ実行中」と表示されます。バックアップ中のタスクとログは、赤色で表示されます。

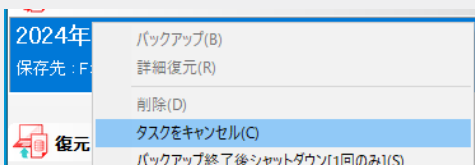


Point

ログの「状態」列には、バックアップの動作についての情報が表示されます。「キャンセル」や「エラー」と表示されている場合は、バックアップが正常に完了していません。また、バックアップが完了しても「完了（警告あり）」や「完了（情報あり）」と表示されることがあります。このような場合は、ログを右にスクロールして、「情報」列の表記を確認してください。

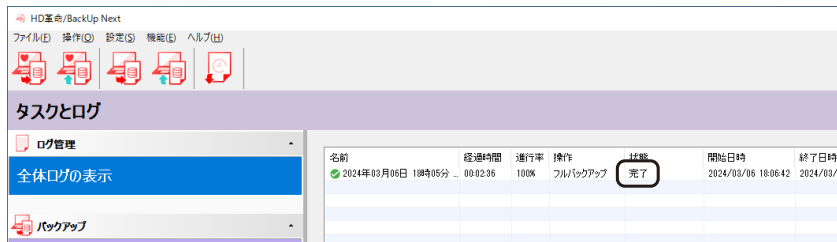
Point

バックアップを途中でキャンセルするには、ログの中で実行中のタスクを「右クリック」して「タスクをキャンセル」を選択します。



10 バックアップの完了

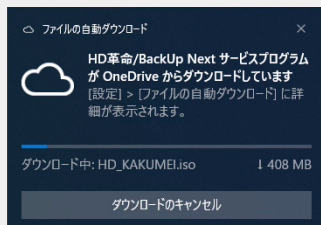
バックアップが完了すると、ログの「状態」列には「完了」と表示されます。



OneDrive のファイルをバックアップ

OneDrive のフォルダーをバックアップ対象とした場合、OneDrive で同期しているファイルでクラウドに存在するファイル（雲のマークがついているファイル）は、ダウンロードしてからバックアップされます。

このとき、右のような通知が表示されます。そのため、バックアップ終了後はローカルフォルダーに実態のファイルが存在することになりますので、必要に応じて Windows のメニューで「空き領域を増やす」を選択してください。

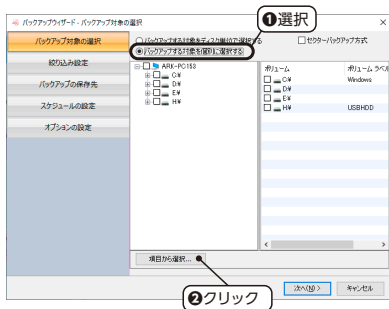


項目から選択

バックアップを行うフォルダーを登録することで、次回以降のバックアップ時に選択画面から呼び出すことができます。これにより、同じフォルダーを繰り返しバックアップするような場合に手順を省略することができますようになります。**BackUp Next**では、この登録するフォルダーを「項目」と呼びます。なお、復元時も同様に項目を選択して復元することができます。

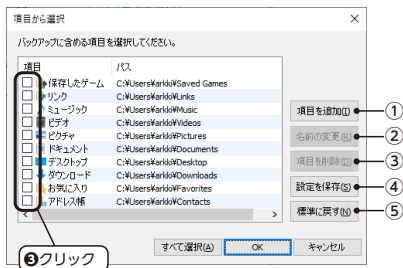
1 「項目から選択」を選択

「バックアップする対象を個別に選択する」を選択し、「項目から選択」ボタンをクリックします。



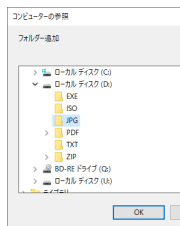
2 「項目」にチェックを入れて選択

次の画面が表示されますので、項目を選択します。標準設定では「Users」フォルダーの下にあるフォルダーが項目として登録されています。



①項目を追加

新しく任意のフォルダーを項目として登録するには、「項目を追加」ボタンをクリックします。右の画面で項目として追加するフォルダーを指定します。



②名前の変更

新しく任意のフォルダーを項目として登録するには、「項目を追加」ボタンをクリックします。

③項目を削除

選択されている項目を削除します。

④設定を保存

現在の項目の設定を保存します。次回「項目から選択」をクリックしたときに、設定された内容が表示されます。設定はユーザーアカウントごとに保存され、複数の設定を保存することはできません。なお、編集後に保存せず「OK」または「キャンセル」を押した場合、設定を保存するか確認を行うメッセージが表示されます。



- 項目を追加しただけでは設定は保存されません。
- 次回以降のバックアップ時もその項目を使用する場合は、必ず設定を保存するようにしてください。

⑤標準に戻す

BackUp Nextをインストールしたときの標準設定に戻します。「標準に戻す」をクリックすると任意に追加した項目はすべて削除されます。ただし、「標準に戻す」をクリックしただけでは表示内容が標準設定に戻るだけで確定されませんので、「設定を保存」をクリックしてください。

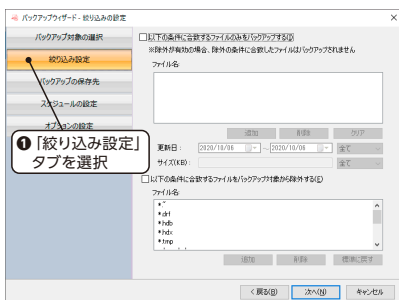
ファイルの絞り込み

ファイルバックアップ方式で「バックアップする対象を個別に選択する」を指定した場合、ファイルの種類や更新日によりファイルの絞り込みを行うことができます。これにより必要なファイルのみバックアップすることができますので、バックアップする容量を減らすことができます。

なお、復元時も同様にファイルを絞り込んで復元を行うことができます。

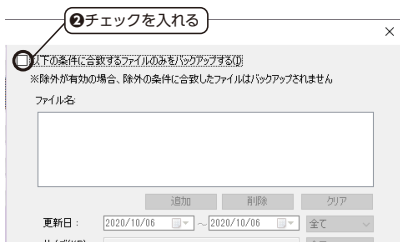
1 「絞り込み」設定を選択

ファイルバックアップ方式では、ウィザードで「絞り込み設定」タブが追加され、ファイルの絞り込みと除外を行うことができます。



2 絞り込みの選択

ファイルの絞り込みを行うには、「以下の条件に合致するファイルのみをバックアップする」のチェックボックスにチェックを入れます。チェックを外した場合、絞り込みの設定がされていても絞り込みは行われません。



ファイルのプロパティ

ファイルを右クリックしたときに表示されるメニューで「プロパティ」を選択すると、選択したファイルに関するプロパティ画面が表示されます。プロパティ画面では、ファイルの場所やサイズ、更新日時などを確認できます。

BackUp Nextでは、これらの情報を元にファイルの絞り込みを行います。絞り込みがうまく行われない場合は、ファイルのプロパティを確認し設定を変更してみてください。

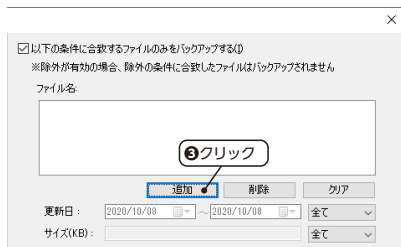


3 絞り込むファイルを指定

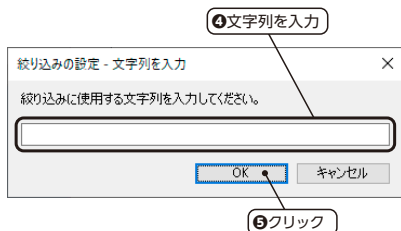
絞り込みを行うファイルを、「ファイル名」、「更新日」、「サイズ」から指定します。

●ファイル名による絞り込み

「追加」ボタンをクリックします。



空欄に絞り込みを行いたい文字列を直接入力します。入力する文字列については、ファイルのみ対象となりフォルダーは対象外となります。入力後は「OK」ボタンをクリックします。



〈文字列の入力例と条件〉

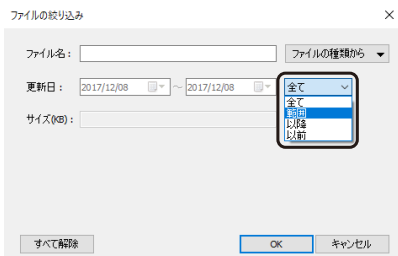
- ・ファイル名を指定して入力する場合は、ファイル名と拡張子を入力します（例：BackUp_Next.txt）。
- ・ワイルドカードは、記号「*」（半角のアスタリスク：0 個以上の任意の文字列）と「?」（半角のクエスチョンマーク：1 個の任意の文字）が使用可能です（例：*.jpg、???.zip、革命.*、??革命.pdf）。
- ・文字数の上限は256文字となり、登録でき

る数に制限はありません。

- ・ファイル名に使用できない文字は入力できません。
- ・登録した文字列は昇順にソートされます。
- ・ファイルの除外が有効の場合は、除外の条件に合致したファイルはバックアップされません。
- ・登録した文字列を削除する場合は、削除する文字列を選択して（青く反転させて）「削除」ボタンをクリックします。すべての文字列を削除する場合は、「クリア」ボタンで行います。

●更新日による絞り込み

ファイルの「更新日」による絞り込みを行います。西暦、月、日に直接数字を入力するか、カレンダーを表示して日付を指定することもできます。



全て：更新日による絞り込みは行わず、全てのファイルが対象となります。

範囲：選択した更新日の範囲内にあるファイルが対象となります。

以降：選択した更新日以降のファイルが対象となります。

以前：選択した更新日以前のファイルが対象となります。

●サイズによる絞り込み

ファイルサイズによる絞り込みを行います。
ファイルサイズはキロバイト（KB）で入力します（参考：1MB = 1024KB）。

全て：サイズによる絞り込みは行わず、全てのファイルが対象となります。

等しい：指定したサイズと一致するファイルが対象となります。

以上：指定したサイズ以上のファイルが対象となります。

以下：指定したサイズ以下のファイルが対象となります。

入力後の画面例

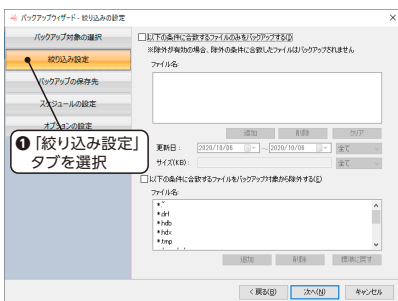
ファイルの除外

ファイルバックアップ方式で「バックアップする対象を個別に選択する」を指定した場合、入力した条件に合致したファイルを除外することができます。これにより必要なファイルのみバックアップすることができますので、バックアップする容量を減らすことができます。

なお、復元時も「復元対象の選択」画面で同様にファイルの除外を行うことができます。

1 「絞り込み設定」タブを選択

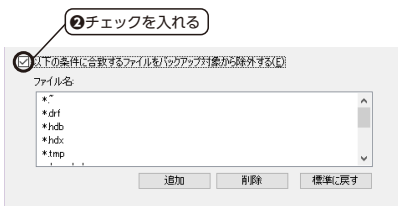
ファイルバックアップ方式では、ウィザードで「絞り込み設定」タブが追加され、ファイルの絞り込みと除外を行うことができます。



2 絞り込みの選択

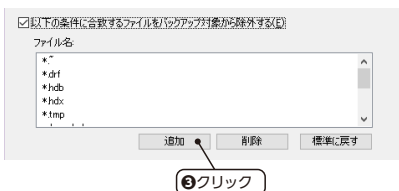
ファイルの除外を行うには、「以下の条件に合致するファイルをバックアップ対象から除外する」のチェックボックスにチェックを入れます。

チェックを外した場合、除外の設定がされていても除外は行われません。

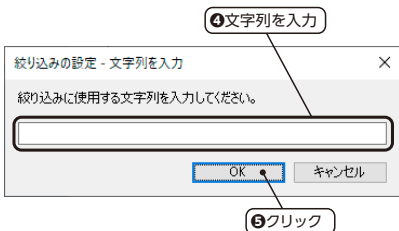


3 除外するファイルを指定

「追加」ボタンをクリックします。



空欄に除外を行いたい文字列を直接入力します。入力する文字列については、ファイルのみ対象となりフォルダーは対象外となります。入力後は「OK」ボタンをクリックします。



＜文字列の入力例と条件＞

- ファイル名を指定して入力する場合は、ファイル名と拡張子を入力します（例：BackUp_Next.txt）。
- ワイルドカードは、記号「*」（半角のアスタリスク：0 個以上の任意の文字列）と「?」（半角のクエスチョンマーク：1 個の任意の文字）が使用可能です（例：*.jpg、???zip、革命

.*.??革命.pdf)。

- ・文字数の上限は256文字となり、登録できる数に制限はありません。
- ・ファイル名に使用できない文字は入力できません。
- ・登録した文字列は昇順にソートされます。
- ・ファイルの除外が有効の場合は、除外の条件に合致したファイルはバックアップされません。
- ・除外するファイルには、初期設定でいくつかの文字列が登録されています。文字列を削除する場合は、削除する文字列を選択して（青く反転させて）「削除」ボタンをクリックします。初期設定に戻す場合は、「標準に戻す」ボタンをクリックします。

入力後の画面例

☒ 以下の条件に合致するファイルをバックアップ対象から除外する(E)

ファイル名

*.jpg
???zip
??革命.pdf
arkvss.bak
BackUp_Next.txt

↑
↓

追加

削除

標準に戻す

FTP サーバーにバックアップ

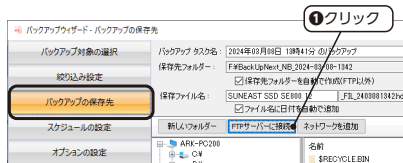
ファイルバックアップ方式では、バックアップの保存先としてFTPサーバーの共有フォルダーを指定し、バックアップを行うことができます。

1 バックアップ対象の選択

詳細バックアップ（ファイルバックアップ方式）で手順⑤（Next 2-17ページ）までの操作を行います。

2 FTPサーバーに接続

「FTPサーバーに接続」をクリックします。



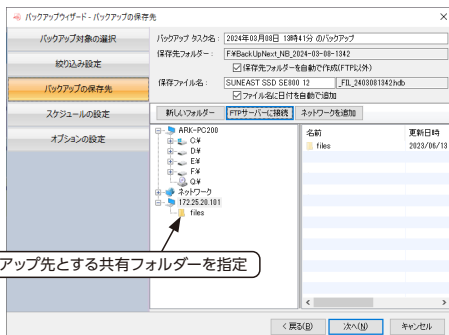
3 FTPの設定

次の画面が表示されますので、FTPサーバーに接続するためのユーザー名、パスワードを入力します。



4 バックアップの保存先を選択

フォルダツリーにFTPサーバーが表示されますので、バックアップ先となる共有フォルダーを選択します。以降は、詳細バックアップ（ファイルバックアップ方式）の手順⑥からの操作と同じになります。



スケジュールの設定

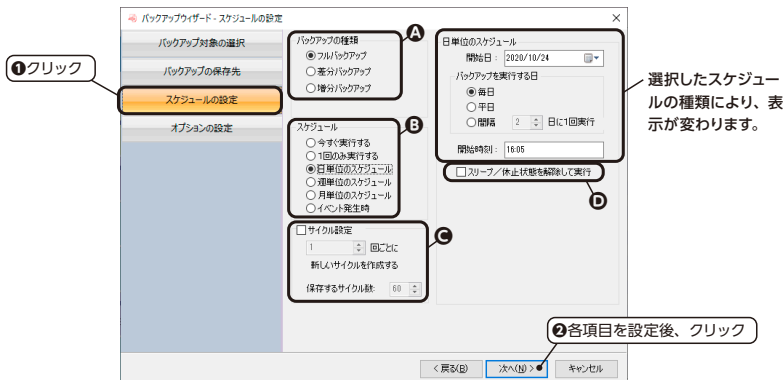
Windows の「タスク スケジューラ」にスケジュールを登録し、指定したタイミングでドライブのバックアップを行うことができます。スケジュールは日単位、月単位などのほかに、Windows のイベント発生時にも設定することができます。

1 「スケジュールの設定」を選択

バックアップ対象とバックアップ先を指定し、「スケジュールの設定」タブをクリックします。

2 各項目を設定

バックアップの種類、スケジュール内容を設定した後、「次へ」をクリックすると設定内容が有効になります。



A バックアップの種類

「フルバックアップ」、「差分バックアップ」、「増分バックアップ」の中からバックアップの種類を選択します。Windows PE 起動用ディスクで起動した場合は、「差分バックアップ」、「増分バックアップ」は選択できません。

セクターバックアップ方式で「差分バックアップ」または「増分バックアップ」を行う場合は、「タスク」は10個まで作成できます。「差分バックアップ」、「増分バックアップ」にはいくつかの制限がありますので、「バックアップの種類について」を参照してください。



BackUp Nextでは、設定した内容で「タスク」が作成され、以降のバックアップは「タスク」の内容に従ってバックアップが行われます。そのため、バックアップの種類で「フルバックアップ」を選択すると、次回以降のバックアップも「フルバックアップ」が行われることになります。

差分または増分でバックアップを行いたい場合は、必ずここで「差分バックアップ」または「増分バックアップ」に変更するようにしてください。

⑧ スケジュールの設定

バックアップを行うスケジュールを設定します。Windows PE 起動用ディスクで起動した場合は、「スケジュール」の選択はできません。

選択したスケジュールの種類により、画面右側の表示が変わります。

●今すぐ実行する

スケジュールを設定せずにバックアップウィザードの完了後すぐにバックアップが開始します。

●1回のみ実行する

開始日と開始時間を指定し1回のみスケジュールバックアップを行います。

1回のみ実行する

開始日: 2020/10/24

開始時刻: 03:00

☐ スリープ/休止状態を解除して実行

●日単位のスケジュール

開始日とバックアップを実行する日（「毎日」、「平日」、「間隔（2～365を指定）」のいずれか）、開始時刻を設定します。

日単位のスケジュール

開始日: 2020/10/24

バックアップを実行する日

☒ 毎日

☐ 平日

☐ 間隔 2 日に1回実行

開始時刻: 03:00

☐ スリープ/休止状態を解除して実行

●週単位のスケジュール

バックアップを実行する曜日と間隔（1～52を指定）、開始時刻を設定します。

週単位のスケジュール

バックアップを実行する曜日:

☒ 日 ☒ 月 ☒ 火 ☒ 水 ☒ 木 ☒ 金 ☒ 土

間隔: 1 週間ごとに1回実行

開始時刻: 03:00

☐ スリープ/休止状態を解除して実行

●月単位のスケジュール

バックアップを実行する月、実行日（1～31を指定）、間隔（週、曜日を指定）、開始時刻を設定します。

月単位のスケジュール

バックアップを実行する月:

☒ 1月 ☒ 2月 ☒ 3月 ☒ 4月

☒ 5月 ☒ 6月 ☒ 7月 ☒ 8月

☒ 9月 ☒ 10月 ☒ 11月 ☒ 12月

バックアップを実行する日

☒ 実行日 1

☐ 間隔 第1 月曜日

開始時刻: 03:00

☐ スリープ/休止状態を解除して実行

●イベント発生時

日時や曜日ではなく、Windowsの特定の動作が行われた際にバックアップを実行します。選択できる動作は、「ログオン時」、「ログオフ時」、「コンピューター起動時」、「シャットダウン時」の起動、終了に関するもの、USBデバイスの接続を監視して行うもの、Windowsの「イベントビューアー」に登録されるような警告やエラーの発生時に行うものに分けられます。

イベント発生時

バックアップを実行するタイミング:

☐ ログオン時

☐ ログオフ時

☐ コンピューター起動時

☐ シャットダウン時

☐ USBデバイスの接続時

☐ Windows イベントの発生時

ログ名	レベル	ソース
3件追加 削除		

バックアップ開始の遅延時間: 0 分

☒ 1日1回のみにする

・バックアップ開始の遅延時間

「ログオン時」と「コンピューター起動時」を選択した場合、「バックアップ開始の遅延時間」を1～60分間で指定できます。0分を指定した場合は、遅延せずにすぐバックアップが実行されます。

・1日1回のみにする

指定した実行タイミングでバックアップを行う回数を、1日1回とするように制限します。このオプションを指定した場合、一度バ

Point

Windowsの起動時はWindowsやアプリケーションなどがディスクへのアクセスを頻繁に行っているため、バックアップを行うと起動に時間を要するようになるなどの問題が発生することがあります。

このような場合には、遅延バックアップで時間をずらすことで、問題が改善できることがあります。

バックアップが実行されると午前0時までは再度バックアップは行われません。



USBデバイス接続時のバックアップ

バックアップを実行するタイミングを「USBデバイスの接続時」とした場合は、バックアップ先として指定したUSBデバイスが接続されたタイミングでバックアップが行われます。このバックアップには、以下のような注意事項、制限事項があります。

- ・「USBデバイスの接続時」のオプションは、バックアップファイルの保存先が、USBハードディスク、またはUSBメモリーの場合に選択可能となります。
- ・バックアップファイルの保存先となるUSBデバイスの型番とシリアルナンバー、ドライブ文字を記録していますので、そのUSBデバイスが接続され、同じドライブ文字の場合にのみバックアップが開始されます。バックアップ先として指定していないUSBデバイスが接続されても、バックアップは行われません。
- ・ハードディスク・SSDの交換が可能なUSBケースや変換コネクタを使用する場合、バックアップを設定したハードディスク・SSDとは別のハードディスク・SSDに交換しても、シリアルナンバーが同じになることがあります。このような場合は、同一と見なされてバックアップが実行されてしまいます。
- ・接続の検出は、ユーザーのログオン中のみとなります。コンピューターの電源を落としている間にデバイスを接続し、その後コンピューターを起動したとしてもログオン時にバックアップは行われません。
- ・USBデバイスが接続されてバックアップを開始する前に、以下の確認メッセージが表示されます。このメッセージが表示されてから30秒経過するか「はい」をクリックするとバックアップが開始されます。「いいえ」をクリックした場合は、バックアップは行われません。

HD革命/BackUp Next

バックアップが設定されたUSBデバイスが接続されました。
バックアップを開始しますか？

※30秒が経過すると自動的にバックアップを開始します。

はい(Y)

いいえ(N)



「Windows イベント発生時」設定について

スケジュールの設定項目のうち、「イベント発生時」中の「Windows イベントの発生時」を選択した場合、「追加」ボタンでバックアップを実行するイベントログを指定します。

Windows のさまざまなイベントを指定できますが、この項目の動作や意味については Windows の機能に関する内容となるため、サポート対象外とさせていただきます。Windows のヘルプやマイクロソフト社の Web サイトなどで確認してください。

㊦ サイクルの設定

「サイクル設定」は、定期的にフルバックアップを取り直す機能です。フルバックアップを行ってから、次のフルバックアップを行うまでの期間を、**BackUp Next**では「サイクル」といいます。新しいサイクルが作成されるまで（次のフルバックアップが行われるまで）のバックアップ回数は、最大100回まで指定できます。

例えば、「7」回ごとに新しいサイクルを作成するとした場合、「1つのフルバックアップファイル」と「6つの差分バックアップファイル」が作成され、これが1サイクルとなります。このとき作成されるバックアップファイル群をまとめて、「サイクルバックアップファイル」といいます。

「保存するサイクル数」では、いくつのサイクル（サイクルバックアップファイル）を残すかを指定します。サイクルは最大60まで指定でき、指定した数を超えてバックアップが行われた場合は、古いサイクルから順に削除されます。

ただし、バックアップの種類を「フルバックアップ」としてサイクル設定を行う場合、毎回フルバックアップが行われることとなりますのでサイクル回数の指定はできませんが、「保存するサイクル数」でいくつのフルバックアップファイルを残すかを指定できます。

(例)「差分バックアップ」で「3」回ごとに新しいサイクルを作成し、
保持するサイクル数を「2」と設定した場合

バックアップ回数	バックアップの種類	
1回目	フルバックアップ(1個目)	← 1回目の サイクル
2回目	差分バックアップ	
3回目	差分バックアップ	
4回目	フルバックアップ(2個目)	← 2回目の サイクル
5回目	差分バックアップ	
6回目	差分バックアップ	← 3回目の サイクル の開始
7回目	フルバックアップ(3個目)	



3回目のサイクルのフルバックアップ(3個目)が完了すると同時に、1回目のサイクルで作成されたバックアップファイル(.hdb,.hdx)がすべて削除されます。
以後、これが繰り返されます。

Point

バックアップの種類を「差分バックアップ」、スケジュールで「日単位のスケジュール」を「毎日」に設定した場合、「7回ごと」に新しいサイクルを作成することで、日曜日はフルバックアップし、それ以外の日は差分バックアップにするというような運用ができます。

スケジュールと組み合わせることで柔軟な運用が可能となります。

㊦ スリープ/休止状態を解除して実行

スケジュールバックアップを実行する際に、コンピューターがスリープ/休止状態であった場合、スリープ/休止状態を解除してバックアップを行います。スケジュールで「1回のみ実行する」、「日単位のスケジュール」、「週単位のスケジュール」、「月単位のスケジュール」が選択されている場合にオプションを指定できます。

「バックアップ完了後に実行する操作」(Next 2-36ページ)と組み合わせることで、スケジュールで指定した時間に休止状態から復帰し、バックアップ完了後に再び休止状態とすることもできます。

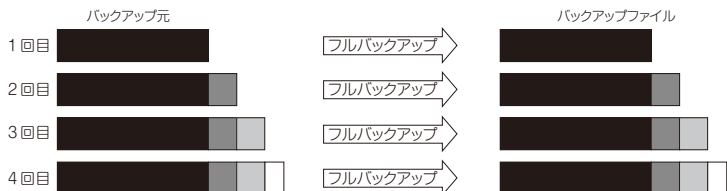
なお、スリープ/休止状態からの復帰は、コンピューター、およびWindowsの設定変更が必要となる場合があります。環境によっては、このオプションを使用できません。

バックアップの種類

BackUp Nextには3種類のバックアップ機能があります。
ここでは、それぞれのバックアップの特徴について説明します。

フルバックアップ

フルバックアップは選択したディスク、または選択したファイル、フォルダーをすべてバックアップする方式です。時間の経過とともにファイルが増えていくような環境を毎回フルバックアップする場合、バックアップファイルも少しずつ大きくなっていきます。また、よりバックアップに時間がかかるようになります。



フルバックアップしたときのファイル構成

バックアップを行うと、拡張子が.hdbのバックアップファイルと、拡張子が.hdxのインデックスファイルがペアで作成されます。

フルバックアップ.hdb フルバックアップファイル

フルバックアップ.001 } ファイルを分割する設定にした場合、指定した分割
フルバックアップ.002 } サイズで 001、002...とファイルが作成されます。
フルバックアップ.003 }

フルバックアップ.hdx バックアップファイルのインデックスファイル

このほかに拡張子が.etxのタスクファイルが作成されます。



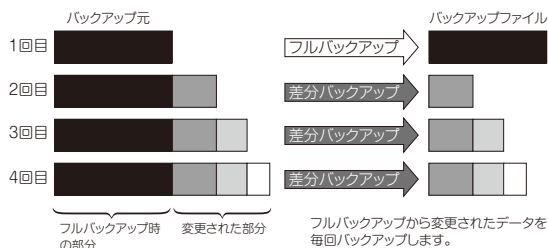
バックアップファイル (HDB ファイル)、インデックスファイル (HDX ファイル)、タスクファイル (ETX ファイル) は必ずセットにして同じフォルダーに保存してください。必要なファイルが存在しない場合は復元できません。

また、各ファイルのファイル名は変更しないでください。

差分バックアップ

差分バックアップは、初回にフルバックアップを行い、2回目以降は基準となるフルバックアップから変更されたファイルまたはセクターをバックアップする方式です。フルバックアップファイルと復元したい差分バックアップファイルの組み合わせで、どの状態で復元するかを選べます。

セクターバックアップ方式では、差分バックアップを行うことができるファイルシステムはFAT32とNTFSとなり、設定できるバックアップタスクの数は、差分、増分を合わせて10個までとなります。



Point

インデックスファイル（下のコラム参照）には、バックアップしたフォルダーやファイルの情報が記録されています。差分や増分バックアップを行うと、バックアップ終了後にフルバックアップファイルのインデックスファイルも同時に更新されます。



差分バックアップをしたときのファイル構成

差分バックアップでは最初にフルバックアップファイルが作成され、次回からはフルバックアップと同じファイル名の後ろにDIFの文字が入った差分バックアップファイルが作成されます。以降差分バックアップを行うごとに001、002・・・と差分バックアップファイルが作成され、上限は999（999回）となります。

差分バックアップ.hdb	フルバックアップファイル（指定した分割サイズを超えた場合は、ファイルが分割されます）
差分バックアップ.001	
差分バックアップ.002	
差分バックアップ.003	フルバックアップのインデックスファイル
差分バックアップ.hdx	
差分バックアップ.hdx.old	1つ前のインデックスファイルのバックアップ
差分バックアップ_DIF_001.hdb	1回目の差分バックアップファイル
差分バックアップ_DIF_001.hdx	1回目の差分バックアップファイルのインデックスファイル
差分バックアップ_DIF_002.hdb	2回目の差分バックアップファイル
差分バックアップ_DIF_002.hdx	2回目の差分バックアップファイルのインデックスファイル
差分バックアップ_DIF_003.hdb	3回目の差分バックアップファイル（指定した分割サイズを超えた場合は、フルバックアップと同様にファイルが分割されます。）
差分バックアップ_DIF_003.001	
差分バックアップ_DIF_003.002	
差分バックアップ_DIF_003.hdx	3回目の差分バックアップのインデックスファイル

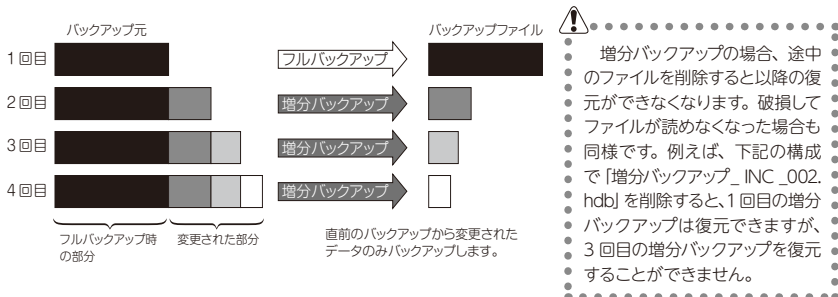
このほかに拡張子が.etxのタスクファイルが作成されます。

増分バックアップ

増分バックアップは、初回はフルバックアップを行い、2回目はフルバックアップから変更されたファイルまたはセクターのみ、3回目は2回目から変更されたファイルまたはセクターのみバックアップする方式です。以後、同様に直前に行ったバックアップファイルからの変更分をバックアップします。

最新の状態に復元するには、初回のフルバックアップから2回目、3回目……と順に復元を行っていく必要があります。

セクターバックアップ方式では、増分バックアップを行うことができるファイルシステムはFAT32とNTFSとなり、設定できるバックアップタスクの数は、差分、増分を合わせて10個までとなります。



増分バックアップをしたときのファイル構成

増分バックアップでは最初にフルバックアップファイルが作成され、次回からはフルバックアップと同じファイル名の後ろにINCの文字が入った増分バックアップファイルが作成されます。以降増分バックアップを行うごとに001、002・・・と増分バックアップファイルが作成され、上限は999（999回）となります。

増分バックアップ.hdb	}	フルバックアップファイル（指定した分割サイズを超えた場合は、ファイルが分割されます）
増分バックアップ.001		
増分バックアップ.002		
増分バックアップ.003		
増分バックアップ.hdx		フルバックアップのインデックスファイル
増分バックアップ.hdx.old		1つ前のインデックスファイルのバックアップ
増分バックアップ_INC_001.hdb		1回目の増分バックアップファイル
増分バックアップ_INC_001.hdx		1回目の増分バックアップファイルのインデックスファイル
増分バックアップ_INC_002.hdb		2回目の増分バックアップファイル
増分バックアップ_INC_002.hdx		2回目の増分バックアップファイルのインデックスファイル
増分バックアップ_INC_003.hdb	}	3回目の増分バックアップファイル（指定した分割サイズを超えた場合は、フルバックアップと同様にファイルが分割されます。）
増分バックアップ_INC_003.001		
増分バックアップ_INC_003.002		
増分バックアップ_INC_003.hdx		3回目の増分バックアップのインデックスファイル

このほかに拡張子が.etxのタスクファイルが作成されます。

オプションの設定

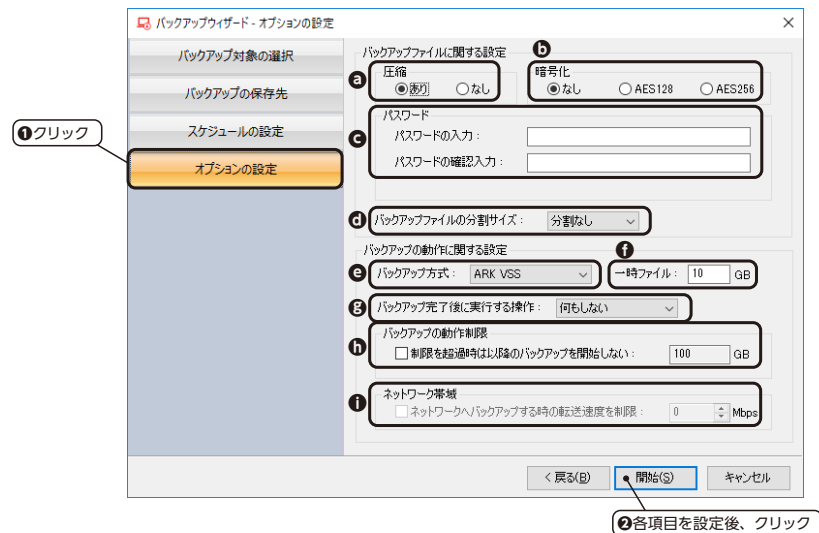
バックアップを行う際、作成されるバックアップファイルやバックアップ方式のほか、各種オプションを指定することができます。

1 「オプションの設定」を選択

バックアップ対象とバックアップ先を指定し、「オプションの設定」タブをクリックします。

2 各種項目を設定

各項目を設定した後、「開始」をクリックするとバックアップが開始します。



バックアップファイルに関する設定

③ 圧縮

バックアップファイルを圧縮するかどうかを選択します。

④ 暗号化 Professional版のみ

バックアップファイルを暗号化するかどうかを選択します。128ビットと256ビットが選択

でき、256ビットのほうが暗号化の強度は高くなりますが、バックアップ速度はやや低下します。

暗号化を行うにはパスワードの入力が必要です。セクターバックアップ方式では選択できません。

㉔ パスワード

バックアップファイルを復元するためのパスワードを設定します。パスワードは、英数字で16文字まで指定できます。

バックアップの動作に関する設定

㉕ バックアップ方式

バックアップの方式を変更することができます。標準では「ARK VSS」が指定されていますが、問題が生じた際に他のバックアップ方式に変更することでバックアップができる場合があります。Windows PE 起動用ディスクで起動した場合は変更できません。

VSS方式

ボリュームシャドウコピーサービス (VSS) を使用したバックアップ方式になります。マイクロソフト社のMicrosoft VSS か、アーク情報システムのARK VSS を選択できます。ARK VSS は、FAT32、exFAT の環境でもバックアップできます。

EFW方式

セクターバックアップ方式でバックアップを行う場合にEFW方式を選択できます。EFW方式には注意事項がありますので、バックアップを行う前にNext 1-25ページを確認してください。

㉖ 一時ファイル

「一時ファイル」は、バックアップ中に変更されたファイルを格納するファイルです。

ボリュームシャドウコピーサービス(VSS)を使用する場合、変更前のファイルを一時ファイルに格納します。EFW方式を使用する場合、変更されたファイルを一時ファイルに格納します。

この一時ファイルのサイズは1～100GBの間で指定できますが、指定した一時ファイルのサイズを変更量が超えると、バックアップは途

㉗ バックアップファイルの分割サイズ

バックアップファイルのサイズを変更できます。分割サイズは、分割なし、4GB、8GB、25GB、50GBから指定できます。

なお、分割する場合は、DVD/BDの各メディアに収まるサイズでファイルが分割されます。

中でキャンセルされエラーとなります。

Microsoft VSS を選択した場合、一時ファイルのサイズは変更できません。

㉘ バックアップ完了後に実行する操作

「スリープ」「休止状態」「シャットダウン」「再起動」の中から、バックアップが完了した後のコンピューターの動作を指定します。スケジュールを設定している場合は、スケジュールによるバックアップが完了するごとに毎回指定した動作が行われます。Windows PE 起動用ディスクで起動した場合は、「スリープ」と「休止状態」は選択できません。

㉙ バックアップの動作制限

バックアップ開始時に、既に作成されているバックアップファイルの総容量が、指定したサイズを超えている場合、バックアップを開始できないようにします。サイズを超えた場合はメッセージが表示され、バックアップを開始できません。容量を緩和するか、古いバックアップファイルを削除してください。

なお、バックアップファイルの容量はバックアップタスクごとに計算されるため、バックアップファイルの保存先に他のタスクで作成されたバックアップファイルがある場合、そのファイルは容量に含まれません。

㉚ ネットワーク帯域 Professional版のみ

転送速度を制限することでネットワークへの負荷を減らすことができます。

タスクとログ

メイン画面では、バックアップ・復元を行うとタスクとログが追加されます。タスクをクリックすることで、設定内容や動作状況を確認することができます。

タスクとログ

ログ管理

全体ログの表示

バックアップ

タイムスライスバックアップ
保存先: E:\BackupNext\TS

詳細バックアップ(ファイルバックアップ方式)
保存先: E:\BackupNext\JB_2020-10-15-2103W

詳細バックアップ(セクターバックアップ方式)
保存先: E:\BackupNext\JB_2020-10-15-2047W

2020年10月15日 20時29分 のバックアップ
保存先: E:\BackupNext_SB_2020-10-15-2029W

2020年10月15日 20時09分 のバックアップ
保存先: E:\BackupNext_SB_2020-10-15-2009W

復元

詳細バックアップ(ファイルバックアップ方式)
保存先: E:\BackupNext\JB_2020-10-15-2103W

タスクとログの表

名前	経過時間	進捗率	操作	状態	開始日時	終了日時
タイムスライスバックアップ	00:00:06	100%	増分の初回フルバックアップ	完了	2020/10/15 22:11:01	2020/10/15 22:11:07
タイムスライスバックアップ	00:00:05	100%	増分バックアップ	完了	2020/10/16 03:11:00	2020/10/16 03:11:05
タイムスライスバックアップ	00:00:05	100%	増分バックアップ	完了	2020/10/16 08:11:00	2020/10/16 08:11:05
詳細バックアップ(ファイルバックアップ方式)	00:06:14	100%	増分の初回フルバックアップ	完了	2020/10/15 21:04:29	2020/10/15 21:10:43
詳細バックアップ(ファイルバックアップ方式)	00:00:04	100%	増分バックアップ	完了	2020/10/15 21:17:00	2020/10/15 21:17:04
詳細バックアップ(ファイルバックアップ方式)	00:00:03	100%	増分バックアップ	完了	2020/10/16 08:11:39	2020/10/16 08:11:42
詳細バックアップ(ファイルバックアップ方式)	00:00:05	100%	増分バックアップ	完了	2020/10/16 11:42:35	2020/10/16 11:42:40
詳細バックアップ(セクターバックアップ方式)	00:13:36	100%	差分の初回フルバックアップ	完了	2020/10/15 20:48:19	2020/10/15 20:54:55
詳細バックアップ(セクターバックアップ方式)	00:13:42	100%	差分の初回フルバックアップ	完了	2020/10/16 10:00:00	2020/10/16 10:00:05
詳細バックアップ(セクターバックアップ方式)	00:01:09	100%	差分バックアップ	完了	2020/10/16 11:36:16	2020/10/16 11:37:25
2020年10月15日 20時29分 のバックアップ	00:13:37	100%	フルバックアップ	完了	2020/10/15 20:29:25	2020/10/15 20:42:62
2020年10月15日 20時09分 のバックアップ	00:17:58	100%	フルバックアップ	完了	2020/10/15 20:09:34	2020/10/15 20:27:32
詳細バックアップ(ファイルバックアップ方式)	00:03:45	100%	復元	完了	2020/10/16 11:51:03	2020/10/16 11:54:48

表示する期間

☒ 全て表示

☐ 範囲指定 2020/10/16 - 2020/10/16

表示する状態

☒ 実行中 ☒ 完了 ☒ エラー

ログの保存(D)

カレンダーを表示(C)

右クリック

選択

バックアップ(B)

詳細復元(R)

削除(D)

タスクをキャンセル(C)



手動で差分または増分バックアップを行う (スケジュールを設定せずに差分・増分バックアップ)

タスクとログの画面で、バックアップを行ったタスクを右クリックし、「バックアップ」を選択することにより、スケジュールを設定せずに差分または増分バックアップを行うことができます。

なお、フルバックアップを行ったタスクで同様の操作を行うと、オプションは同じ設定のまま、別のファイル名で新たにフルバックアップが行われます。

① 右クリック

② 選択

バックアップ(B)

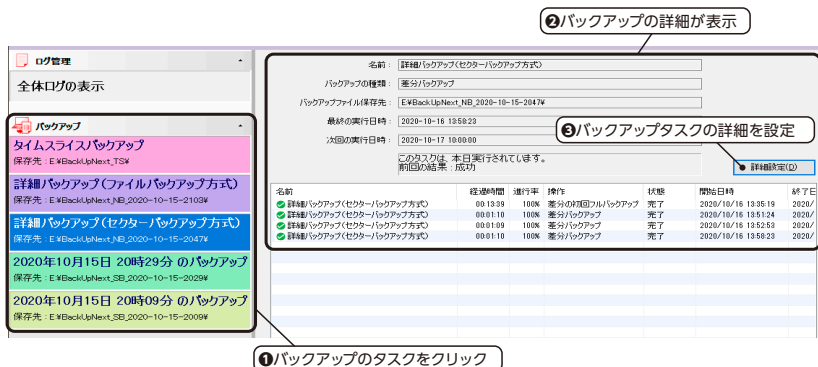
詳細復元(R)

削除(D)

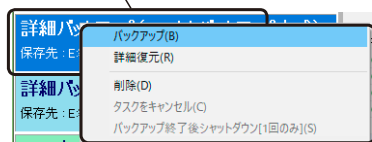
タスクをキャンセル(C)

④ 「バックアップ」のタスク

バックアップを行うとメイン画面左側のバックアップ欄にバックアップタスクが登録されます。
バックアップタスクを1つ選択すると、画面右側にそのタスクの詳細が表示され、バックアップの種類やスケジュール、指定したオプションなどを確認できます。



タスクを右クリックするとメニューが表示



Point

タスクのみ削除した場合は、バックアップファイル（HDB ファイル）は削除されずに残ります。

復元は、「バックアップファイルを直接選択」で復元したい HDB ファイルを指定することにより行うことができます。

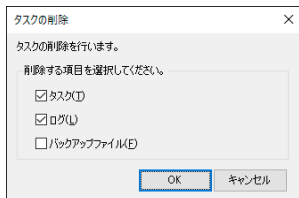
バックアップ:登録されたタスクの内容で再度バックアップを行います。

詳細復元: 復元ウィザードを起動し、復元を行うことができます。

削除：下の画面が表示されますので、削除する項目を選択します。

タスクをキャンセル：実行中のバックアップまたは復元を途中でキャンセルします。

バックアップ終了後シャットダウン[1回のみ]: バックアップ終了後にコンピューターをシャットダウンします (Next 2-44ページ参照)。



- !** 復元の途中でキャンセルを行うと、システムドライブではファイルの整合性が取れなくなり、Windowsに問題が発生する危険性があります。
- できる限り復元中のキャンセルは行わないようにしてください。

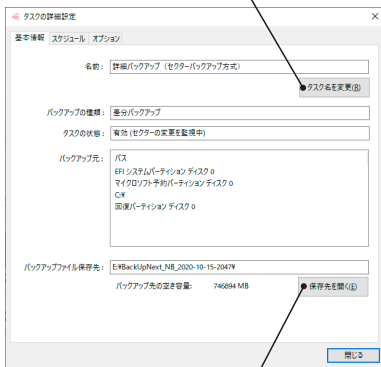
＜タスクの詳細設定＞

「詳細設定」ボタンをクリックすると、そのバックアップタスクの内容をさらに詳しく確認できます。また、後から設定を変更することもできます。

●「基本情報」タブ

「基本情報」タブでは、バックアップを行う際に指定したバックアップの名前、バックアップの種類、バックアップ元、バックアップの保存先の内容が確認できます。

タスク名を変更する場合にクリック



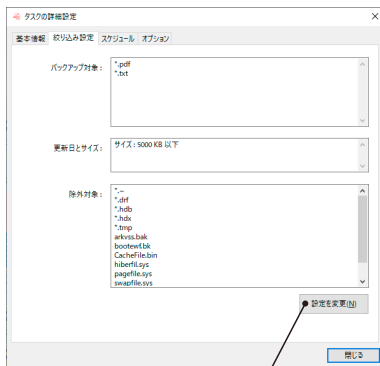
バックアップファイルの保存先が開きます。



- タスク名を変更しても、バックアップ
- ファイル内に記録されているタスク名は変
- 更されません。

●「絞り込み設定」タブ

「絞り込み設定」タブでは、ファイルバックアップ方式でバックアップを行う際に「ファイルの絞り込み」タブで設定した内容が確認できます。セクターバックアップ方式ではこのタブは表示されません。



バックアップ時の「絞り込み設定」タブと同じ画面が表示され、設定を変更できます。

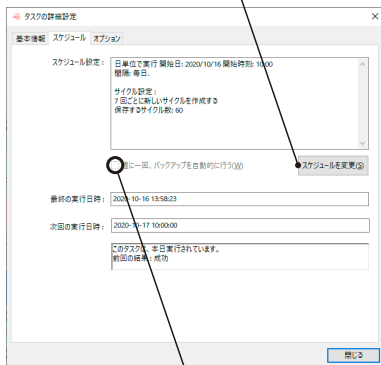


- 絞り込みの設定を変更すると、差分や増
- 分バックアップを行っている場合はフル
- バックアップの取り直しとなります。

●「スケジュール設定」タブ

「スケジュール設定」タブでは、バックアップを行う際に「スケジュールの設定」タブで設定した内容と実行状況が確認できます。

バックアップ時の「スケジュール設定」タブと同じ画面が表示され、設定を変更できます。



「簡単バックアップ」でバックアップしたタスクのみ設定できます。

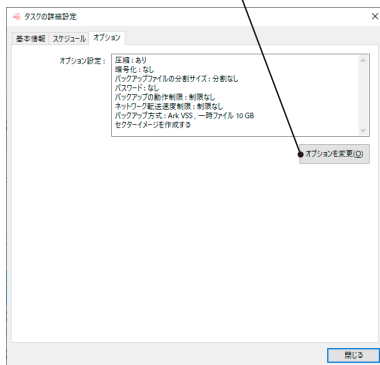


- ・「週に一回、バックアップを自動的に行う」のチェックボックスは、「簡単バックアップ」でバックアップしたタスクのみ選択可能です。動作については、Next 2-10 ページを参照してください。
- ・「スケジュールを変更」ボタンは、「簡単バックアップ」でバックアップしたタスクでは無効となります。
- ・スケジュールの設定を変更すると、差分や増分バックアップを行っている場合はフルバックアップの取り直しとなるパターンがあります。

●「スケジュール設定」タブ

「スケジュール設定」タブでは、バックアップを行う際に「スケジュールの設定」タブで設定した内容と実行状況が確認できます。

バックアップ時の「オプションの設定」タブと同じ画面が表示され、設定を変更できます。



- オプションの設定を変更すると、差分や増分バックアップを行っている場合はフルバックアップの取り直しとなるパターンがあります（例：「圧縮あり」を「圧縮なし」に変更）。



タスクの表示色

タスクの色はバックアップを行った方式により異なり、以下のような配色となっています。復元のタスクも同様の色となります。

バックアップ	
最新のバックアップ	保存先: F:\BackUpNext_NB_2022-05-25-1811\
タイムスライスバックアップ	保存先: F:\BackUpNext_TS\
詳細バックアップ(ファイルバックアップ方式)	保存先: F:\BackUpNext_NB_2022-05-25-1748\
詳細バックアップ(セクターバックアップ方式)	保存先: F:\BackUpNext_NB_2022-05-25-1738\
簡単バックアップ(システムドライブ)	保存先: F:\BackUpNext_SB_2022-05-25-1732\
簡単バックアップ(システムディスク)	保存先: F:\BackUpNext_SB_2022-05-25-1726\
HDBファイルにアクセスできないタスク	保存先: F:\BackUpNext_NB_2022-05-25-1636\
Ver.5.0.4以前でバックアップしたタスク	保存先: F:\BackUpNext_NB_2022-05-25-1626\

赤色 タスクの実行中は赤色となります。処理が終了すると、バックアップ方式に応じたタスクの色となります。

桃色 「タイムスライスバックアップ」を設定したタスクが桃色で表示されます。

紫色 詳細バックアップで「ファイルバックアップ方式」を選択したタスクが紫色で表示されます。

青色 詳細バックアップで「セクターバックアップ方式」を選択したタスクが青色で表示されます。

緑色 簡単バックアップで「システムドライブ」を選択したタスクが緑色で表示されます。

黄緑色 簡単バックアップで「システムディスク」を選択したタスクが黄緑色で表示されます。

灰色 保存先として指定されているフォルダーにバックアップファイルが存在しないか、アクセスできない場合は灰色で表示されます。また、旧バージョンで作成したタスクで継続して使用できないタスクも灰色で表示されます。

黄色 Ver.5.0.4以前で作成したタスクは黄色で表示されます。復元はできませんが、バックアップを継続して行うことはできません。

灰色のタスクが存在すると、メイン画面起動時に右のメッセージが表示されます。保存先が外付けハードディスクのような場合は、再接続するか電源をオンにしてください。バックアップの保存先を移動した(ドライブ文字の変更を含む)場合は、ドライブ文字を元に戻すか、そのタスクを削除して「バックアップファイルからタスクを再構成」(2-49ページ)を行い再登録してください。

HDB革命/BackUp Next

バックアップの保存先フォルダーにアクセスできないタスクがあります。
以下の内容を確認してください。

- ・保存先が外付けディスクの場合は再接続するか電源をオンにする
- ・ドライブ文字が変更されている場合は元に戻す
- ・タスクを削除して「バックアップファイルからタスクを再構成」を行う
- ・不要なタスクは削除する

☐ 今後、このメッセージを表示しない(N)

OK

①「復元」のタスク

復元を行うとメイン画面左側の復元欄に復元タスクが登録されます。

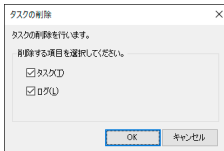
タスクには保存先や日時が表示され、バックアップタスクを1つ選択すると、画面右側でバックアップの種類やスケジュール、指定したオプションなどが確認できます。

The screenshot shows the main interface of the backup software. On the left, under the '復元' (Restore) tab, there is a list of backup tasks. One task, '2020年10月15日 20時09分 のバックアップ' (Backup on 2020-10-15 20:09), is highlighted. A callout box with the number 1 points to this task, with the text '①復元のタスクを1つクリック' (Click one restore task). On the right, a window titled '詳細バックアップ(ファイルバックアップ方式)' (Detailed Backup (File Backup Method)) is open. It shows details for a backup task named 'バス' (Bus). A callout box with the number 2 points to a button labeled '2 復元の詳細が表示' (2 Display backup details). The window also shows the backup date and time, the type of backup (増分バックアップ - Incremental Backup), and the source of the data (元のバスへ復元する - Restore from original bus).

タスクを右クリックするとメニューが表示

The screenshot shows a context menu that appears when a backup task is right-clicked. The menu has three options: '削除(D)' (Delete), 'タスクをキャンセル(C)' (Cancel task), and 'バックアップ終了後シャットダウン(1回のみ)(S)' (Shutdown after backup completion (one time only)).

削除: 右の画面が表示されますので、削除する項目を選択します。
タスクをキャンセル: 実行中のバックアップまたは復元を途中でキャンセルします。



⚠️
復元の途中でキャンセルを行うと、ファイルの整合性が取れなくなり、Windowsに問題が発生する危険性があります。
できる限り復元中のキャンセルは行わないようにしてください。

● ログ

ログでは、バックアップやWindows上で復元を行う場合の進行状況と状態が確認できます。バックアップ・復元でエラーが発生したような場合はその情報が表示されます。「状態」欄に「完了」と表示されていない場合は、ログを右にスクロールし「情報」欄で内容を確認してください。

進行率	操作	状態	開始日時	終了日時	情報
100%	増分の初回フル...	完了	2020/10/16 02:08:01	2020/10/16 02:08:24	
100%	増分バックアップ	完了	2020/10/16 08:08:00	2020/10/16 08:08:23	
100%	フルバックアップ	完了	2020/10/15 20:09:37	2020/10/15 20:07:06	
100%	フルバックアップ	完了	2020/10/16 09:12:00	2020/10/16 09:19:07	
1%	フルバックアップ	エラー	2020/10/16 09:19:24	2020/10/16 09:20:08	保存先ドライブが見つかりませんでした。エラ
1%	フルバックアップ	エラー	2020/10/16 09:22:37	2020/10/16 09:22:39	保存先ドライブが見つかりませんでした。エラ
1%	フルバックアップ	エラー	2020/10/16 09:28:26	2020/10/16 09:28:27	保存先ドライブが見つかりませんでした。エラ
1%	フルバックアップ	キャンセル	2020/10/16 09:30:40	2020/10/23 09:32:37	操作がキャンセルされました。
100%	フルバックアップ	完了	2020/10/15 19:57:20	2020/10/15 20:01:46	
1%	フルバックアップ	エラー	2020/10/16 09:28:43	2020/10/16 09:28:44	保存先ドライブが見つかりませんでした。エラ
100%	フルバックアップ	完了	2020/10/15 19:48:25	2020/10/15 19:52:48	
1%	フルバックアップ	エラー	2020/10/23 09:33:43	2020/10/23 09:33:45	保存先ドライブが見つかりませんでした。エラ
100%	フルバックアップ	完了	2020/10/15 10:33:38	2020/10/15 10:38:15	
100%	フルバックアップ	完了	2020/10/23 15:06:02	2020/10/23 15:12:32	

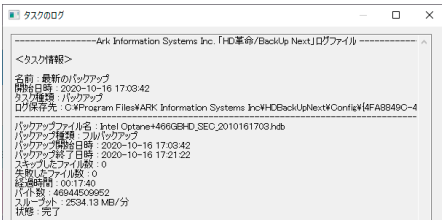
エラーの内容が表示されます

ログ上で右クリックするとメニューが表示され、各操作を行うことができます。

右クリックするとメニューが表示

2020年10月15日 20時09分のバックアップ 00:17:58 100%	フルバックアップ	完了	2020/10/15 20:09:34	2020/10/15 20:07:06
最新のバックアップ	フルバックアップ	バックアップ実行中	2020/10/16 17:03:42	

タスクを再起動：登録されたタスクの内容で、バックアップまたは復元を再度実行します。
 タスクをキャンセル：バックアップまたは復元を途中でキャンセルします。
 タスクログ：下の画面が表示されます。
 バックアップ設定：次ページのPointを参照してください。

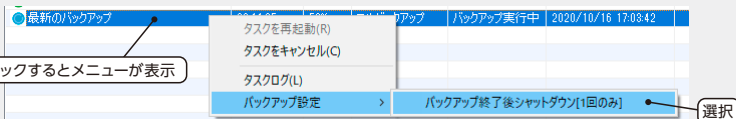


- 復元の途中でキャンセルを行うと、ファイルの整合性が取れなくなり、Windows に問題が発生する危険性があります。
- できる限り復元中のキャンセルは行わないようにしてください。

Point

バックアップの実行中にログの中で実行中のタスクを「右クリック」し、「バックアップの設定」→「バックアップ終了後シャットダウン[1回のみ]」を選択することで、バックアップ終了後にコンピューターをシャットダウンすることができます。シャットダウンは、タスクの右クリックメニューからも行うことができます。

ただし、「バックアップ完了後に実行する操作」(Next 2-36 ページ)で動作が指定されている場合でも、設定に関係なくシャットダウンが実行されます。また、「スケジュールの設定」で「イベント発生時」を選択し (Next 2-29 ページ)、「ログオン時」または「シャットダウン時」を指定している場合は実行されません。



④ ログの表示設定

ログの表示を期間や状態に応じて変更できます。タスクが多数登録されている場合に、表示する内容を絞ることでログが見やすくなります。

「ログの保存」をクリックするとログとタスクの内容をテキストファイルで保存できます。



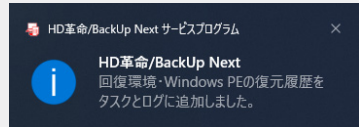
メイン画面起動時の復元タスクとログの登録

復元したタスクとログは、復元後に最初にメイン画面を起動した際に追加されます。このとき、Windows のアクションセンターには、復元する方式により以下の通知が表示されます。

●ネイティブ環境で復元時



●回復環境または Windows PE 起動用ディスクで復元時



● カレンダー

メイン画面で「カレンダーを表示」ボタンをクリックすると、バックアップ状況を示すカレンダーが表示されます。

表示される色はそれぞれ次のようになります。

バックアップカレンダー						
2020年10月						
日	月	火	水	木	金	土
27	28	29	30	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31
1	2	3	4	5	6	7

閉じる

ピンク：今日の日付
緑：バックアップが行われた日
赤：エラーが発生
黄：操作は完了したが警告あり



- カレンダー・日付の色は、エラーの赤色、警告の黄色が優先して表示されます（エラーと情報がある場合はエラーが優先）。例えば、同日に行った複数のバックアップの1つがエラーとなった場合、それ以外のバックアップが正常に行われていても赤色で表示されます。
- ただし、今日の日付を表すピンクは最優先で表示されるため、エラーの有無はログで確認してください。



保存先フォルダー名と保存ファイル名の命名規則

BackUp Nextでバックアップを行うと、以下の命名規則によって「保存先フォルダー名」と「保存ファイル名」が自動的に入力されます。なお、詳細バックアップを行う場合は任意の名前に変更可能ですが、後から見て分かりやすい名前にしておくことをおすすめします。

保存先フォルダー名：「BackUpNext_バックアップ方式_作成年月日と時刻」

- ※「バックアップ方式」の文字は選択したバックアップ方式により異なり、SB（簡単バックアップ）、NB（詳細バックアップ）、TS（タイムスライスバックアップ）となります。
- ※入力できる「保存先フォルダー名」は200文字までとなります。

保存先ファイル名：「ディスク型番_バックアップの種類_作成年月日と時刻_分類_世代数.hdb」

- ※「ディスク型番」には、初期値としてバックアップ対象のディスク名（先頭からスペースを含む22文字）が入ります。
- ※「バックアップの種類」はどのようなバックアップを行ったかにより異なり、SDK（Welcomeバックアップ、簡単バックアップのシステムディスク）、SDR（簡単バックアップのシステムドライブ）、TMS（タイムスライスバックアップ）、SEC（詳細バックアップでセクターバックアップ方式）、FIL（詳細バックアップでファイルバックアップ方式）が入ります。
- ※「分類」は、差分バックアップの場合「DIF」、増分バックアップの場合「INC」が入ります。
- ※「世代数」は、何世代目に該当するかの数字（001～）が入ります。
- ※拡張子「.hdb」ファイルの他に、同名の「.hdx」ファイルが作成されます。
- ※「保存ファイル名」として入力可能な文字数は最大で22文字までとなり、スペースも1文字としてカウントします。

タスクとログのエクスポート

登録されているバックアップの「タスク」と「ログ」の内容をエクスポート（ファイルに保存）することが出来ます。Windows PE 起動用ディスクで起動した場合、エクスポートを行うことはできません。

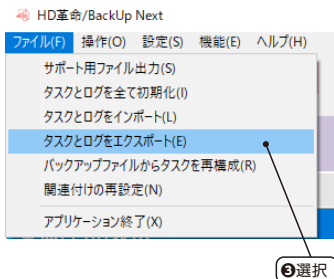
1 BackUp Next の起動

Ark ランチャーで「バックアップ・復元」→「HD 革命/BackUp Next」を選択します。



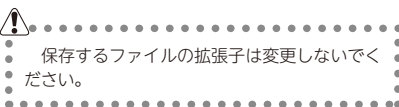
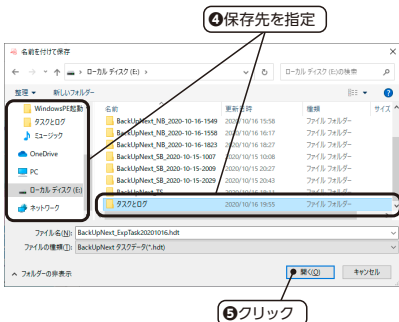
2 「タスクとログをエクスポート」を選択

メイン画面で「ファイル」メニューをクリックし、「タスクとログをエクスポート」を選択します。



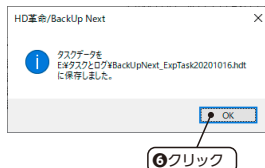
3 ファイルの保存先を指定

タスクとログの情報が記載されているファイル（拡張子が hdt）の保存先を指定します。



4 ファイルの保存

指定した場所にファイルが保存されます。



タスクとログのインポート

タスクとログのエクスポートにより保存したhdtファイルをインポートします。インポートを行うことで、OSのインストールなどを行った後でも、タスクとログをエクスポートした時点の状態に戻すことができます。Windows PE起動用ディスクで起動した場合、インポートを行うことはできません。タスクとログのインポートについての注意事項はNext 1-32ページを参照してください。

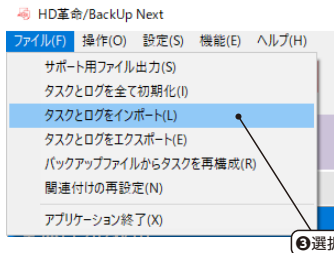
1 BackUp Nextの起動

Arkランチャーで「バックアップ・復元」→「HD革命/BackUp Next」を選択します。



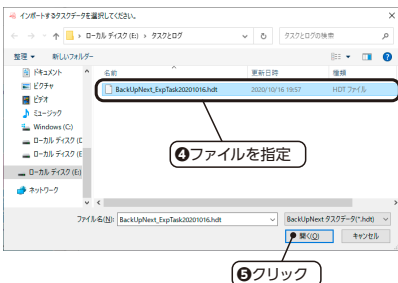
2 「タスクとログをインポート」を選択

メイン画面で「ファイル」メニューをクリックし、「タスクとログをインポート」を選択します。



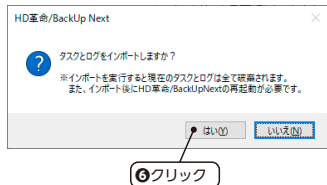
3 ファイルを指定

タスクとログの情報が記載されているファイル（拡張子がhdt）のファイルを指定します。



4 タスクとログのインポート開始

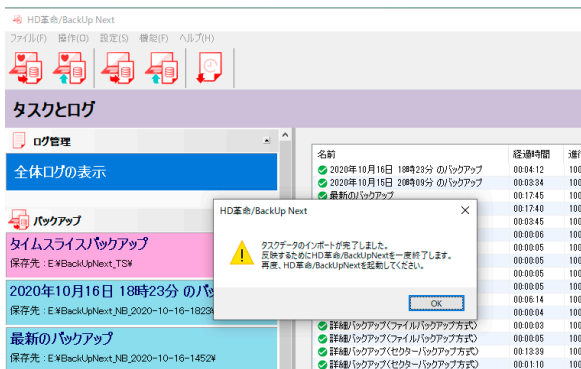
タスクとログのインポートを開始します。



- インポートを行うと現在登録されているタスクとログ、バックアップのスケジュール設定が全て破棄されます。必要であれば、事前にエクスポートしておいてください。

5 タスクとログのインポート完了

タスクとログがエクスポートした時点の状態に戻ります。



HD革命/BackUp Next

ファイル(F) 操作(O) 設定(S) 機能(F) ヘルプ(H)

タスクとログ

ログ管理

全体ログの表示

バックアップ

タイムスライスバックアップ

保存先: E:\BackUpNext_TS\

2020年10月16日 18時23分 のバックアップ

保存先: E:\BackUpNext_NB_2020-10-16-1823\

最新のバックアップ

保存先: E:\BackUpNext_NB_2020-10-16-1452\

名前

経過時間

進捗

2020年10月16日 18時23分 のバックアップ 00:04:12 100%

2020年10月16日 20時09分 のバックアップ 00:03:34 100%

最新のバックアップ 00:17:45 100%

00:17:40 100%

00:00:45 100%

00:00:06 100%

00:00:05 100%

00:00:05 100%

00:00:05 100%

00:00:05 100%

00:00:14 100%

00:00:04 100%

00:00:03 100%

00:00:05 100%

00:18:39 100%

00:01:10 100%

詳細/バックアップ(ファイル/バックアップ方式)

詳細/バックアップ(ファイル/バックアップ方式)

詳細/バックアップ(セクター/バックアップ方式)

詳細/バックアップ(セクター/バックアップ方式)

HD革命/BackUp Next

タスクデータのインポートが完了しました。
 近接するためにHD革命/BackUp Nextを一度終了します。
 再度、HD革命/BackUp Nextを起動してください。

OK



- Ver.5.1.0以降では、Ver.5.0.4以前(旧バージョンも含む)で作成したバックアップタスクのインポートを行っても、そのタスクでバックアップを継続(メイン画面で右クリックして「バックアップ」)することはできません。
- その他の注意・制限事項はNext 1-32～Next 1-34ページを確認してください。

バックアップファイルからタスクを再構成

メイン画面にタスクが登録されていないバックアップファイルからタスクを再構築することで、そのバックアップを行った時のタスクとログをメイン画面に追加することができます。タスクを再構築するには、バックアップファイル（HDB ファイル）と共に作成されるインデックスファイル（HDX ファイル）とタスクファイル（ETX ファイル）も同じ場所に保存されている必要があります。

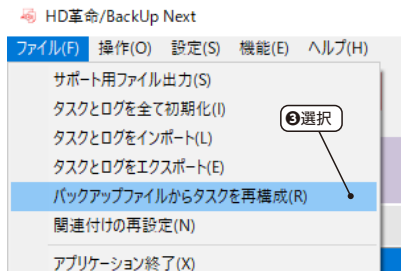
1 BackUp Next の起動

Arkランチャーで「バックアップ・復元」→
「HD革命/BackUp Next」を選択します。



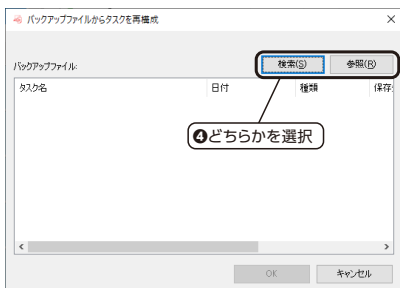
2 「バックアップファイルからタスクを再構成」を選択

メイン画面で「ファイル」メニューをクリックし、「バックアップファイルからタスクを再構成」を選択します。



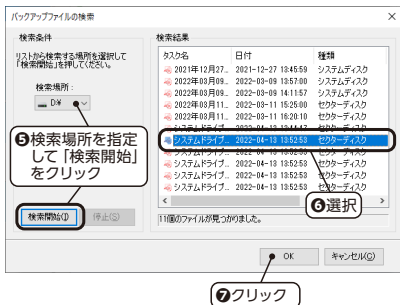
3 バックアップファイルを選択

「検索」または「参照」ボタンをクリックします。



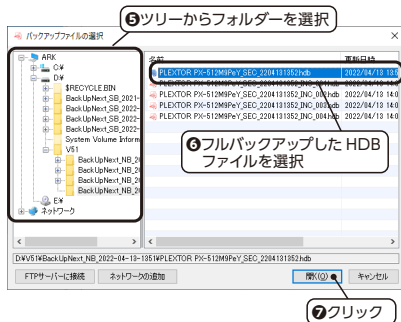
●バックアップファイルを検索

検索場所を指定して「検索開始」をクリックします。見つかったバックアップファイルが検索結果に表示されますので、再構築したいバックアップファイルを選択して「OK」をクリックします。



●バックアップファイルを参照

フォルダツリーの中から再構築したいバックアップファイルを選択して「開く」をクリックします。

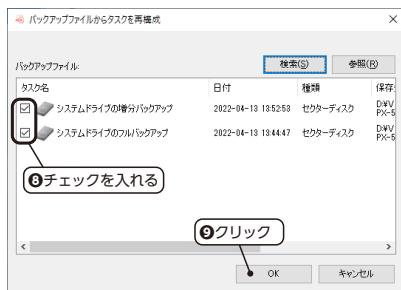


「参照」ボタンでバックアップファイル指定してタスクを再構築する場合、差分や増分のバックアップファイルは「初回フルバックアップ」した HDB ファイルを選択してください。

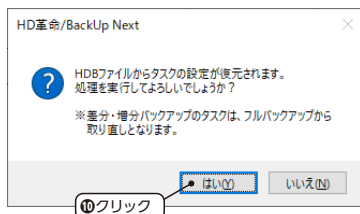
なお、タイムスライスバックアップと Ver.4 以前で作成したバックアップファイルは、タスクを再構成することができません。

4 タスクを選択

再構築するタスクにチェックを入れて「OK」をクリックします。

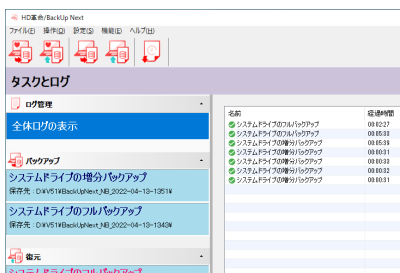


確認メッセージが表示されますので、「はい」をクリックします。



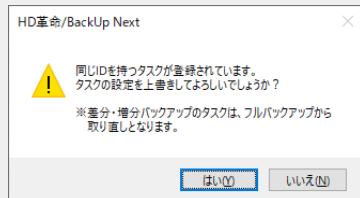
5 メイン画面に追加

再構築を行ったタスクとログがメイン画面に追加されます。



同じ ID のタスクを登録

メイン画面に同じ ID をもつタスクが既に登録されている場合は、上書きするかどうかのメッセージが表示されます。このとき、「タスクの詳細設定」で設定した内容も、上書きするタスクの内容に合わせて変更されます。



タイムスライスバックアップ

タイムスライスバックアップは、ファイルバックアップ方式で一定間隔でスケジュールを設定して増分バックアップを行う機能です。Windows PE 起動用ディスクで起動した場合、タイムスライスバックアップは使用できません。

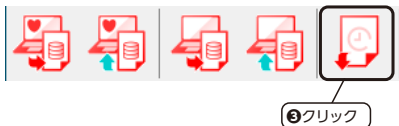
1 BackUp Next の起動

Ark ランチャーで「バックアップ・復元」→「HD 革命/BackUp Next」を選択します。



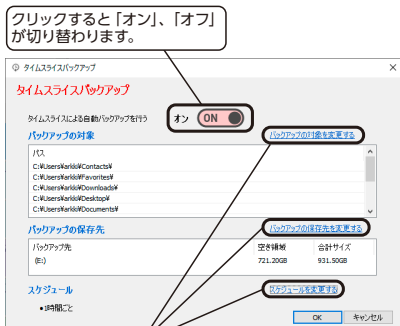
2 「タイムスライスバックアップ」の選択

ツールバーで一番右の「タイムスライスバックアップ」ボタンをクリックします。



3 タイムスライスバックアップの設定

タイムスライスバックアップのメイン画面が表示されます。スイッチを「オン」にして「OK」をクリックすることで、「タイムスライスバックアップ」のバックアップタスクが登録されます。



リンクをクリックすると、設定を変更する「詳細設定」画面が開きます。

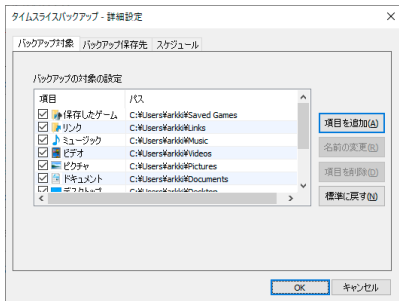
Point

タイムスライスバックアップでは、初期設定でユーザーフォルダーのいくつかの項目がバックアップ対象として指定されており、バックアップの保存先は「空き領域が一番大きいドライブ」が指定されています。これらは、各設定画面で変更が可能です。タイムスライスが「ON」の状態を設定が変更されると、フルバックアップの取り直しが行われます。

また、タイムスライスバックアップは、28日(4週間)ごとに自動的にフルバックアップの取り直しが行われるようになっています。

●詳細設定—バックアップ対象

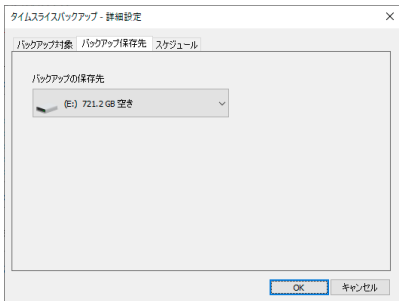
「バックアップ対象」タブでは、「ユーザーデータ」を選択します。「項目を追加」ボタンをクリックして、任意のフォルダーを追加することもできます。



タイムスライスバックアップを設定してバックアップを繰り返し行くと、バックアップ先ディスク容量が不足してファイルが保存できなくなることがあります。この状態ではバックアップを継続できませんので、保存先を変更するかバックアップファイルを削除してください。バックアップにエラーが生じた場合、メイン画面のログにエラーが記録されます。

●詳細設定—バックアップの保存先

「バックアップの保存先」タブでは、バックアップの保存先を指定します。

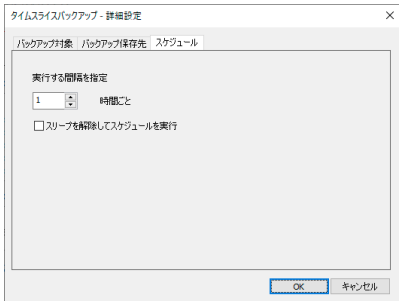


Point

タイムスライスによるバックアップファイルは、保存先として指定したドライブに作成された「BackUpNext_TS」フォルダーに保存されます。保存先ドライブの直下に作成される「TimeSliceFlag.xml」ファイルはバックアップの実行に必要なファイルとなりますので、削除しないようにしてください。

●詳細設定—スケジュール

「スケジュール」タブでは、バックアップを実行する間隔を指定します。



実行されなかったスケジュールを選択して実行

指定した時間にバックアップを行うようにスケジュールを設定していても、コンピューターがシャットダウン状態にあるような場合は実行されません。

BackUp Nextでは、実行されなかったスケジュールがある場合、ログオン（サインイン）時に一覧を表示し、選択したタスクのバックアップを実行することができます。

ここでは、スケジュールを設定したバックアップタスクが実行されなかった場合の手順を説明します。

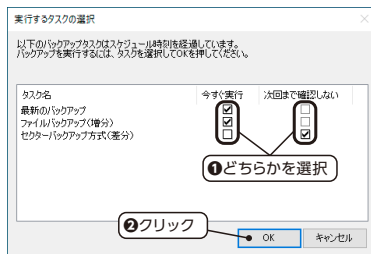
1 ログオン（サインイン）を行う

コンピューターを起動してログオン（サインイン）を行います。

2 実行するタスクの選択

「実行するタスクの選択」画面が表示されますので、「今すぐ実行」または「次回まで確認しない」のどちらかのチェックボックスにチェックを入れ、「OK」ボタンをクリックします。

「次回まで確認しない」にチェックしたタスクは、バックアップは行われずに次のスケジュールの実行時刻になるまでタスクは表示されなくなります。



Point

どちらのチェックボックスにもチェックを入れずに「OK」または「キャンセル」ボタンをクリックすると、次のログオン（サインイン）時にも「実行するタスクの選択」画面が表示されます。この画面は、表示されているタスクがなくなるまでログオン（サインイン）時に繰り返し表示されます。

3 バックアップの実行

「今すぐ実行」をチェックしたタスクのバックアップが連続して実行されます。この時のメイン画面では、実行中のタスクと実行予定のタスクが赤色で表示され、ログではバックアップ実行中と待機中であることが確認できます。

タスクとログ

ログ管理

全体ログの表示

バックアップ

最新のバックアップ

保存先: F:\BackUpNext_NB_2020-10-19-1907W

ファイルバックアップ(増分)

保存先: F:\BackUpNext_NB_2020-10-19-1417W

セクタバックアップ方式(差分)

保存先: F:\BackUpNext_SB_2020-10-19-1755W

2020年10月17日 17時55分 のバックアップ

保存先: F:\BackUpNext_SB_2020-10-17-1755W

名前	経過時間	進行率	操作	状態	開始日時	終了日時
最新のバックアップ	00:15:59	100%	増分/全範囲フル	完了	2020/10/19 19:08:40	2020/10/19
ファイルバックアップ(増分)	00:07:37	100%	増分/全範囲フル	完了	2020/10/19 14:17:34	2020/10/19
ファイルバックアップ(増分)	00:00:11	100%	増分/バックアップ	完了	2020/10/19 14:26:05	2020/10/19
ファイルバックアップ(増分)	00:02:31	100%	増分/バックアップ	完了	2020/10/19 14:27:56	2020/10/19
ファイルバックアップ(増分)	00:00:29	100%	増分/バックアップ	完了	2020/10/19 14:30:55	2020/10/19
ファイルバックアップ(増分)	00:00:30	100%	増分/バックアップ	完了	2020/10/19 14:31:52	2020/10/19
ファイルバックアップ(増分)	00:02:33	100%	増分/バックアップ	完了	2020/10/19 14:34:07	2020/10/19
セクタバックアップ方式(差分)	00:06:35	100%	差分/全範囲フル	完了	2020/10/19 19:29:46	2020/10/19
セクタバックアップ方式(差分)	00:01:00	100%	差分/バックアップ	完了	2020/10/19 19:58:33	2020/10/19
セクタバックアップ方式(差分)	00:02:46	100%	差分/バックアップ	完了	2020/10/19 19:58:33	2020/10/19
セクタバックアップ方式(差分)	00:10:05	100%	差分/全範囲フル	完了	2020/10/19 11:20:02	2020/10/19
セクタバックアップ方式(差分)	00:04:33	100%	差分/バックアップ	完了	2020/10/19 11:30:05	2020/10/19
セクタバックアップ方式(差分)	00:04:33	100%	差分/バックアップ	完了	2020/10/19 11:35:30	2020/10/19
セクタバックアップ方式(差分)	00:06:36	100%	差分/全範囲フル	完了	2020/10/19 11:40:47	2020/10/19
2020年10月17日 17時55分 のバックアップ	00:00:29	100%	フル/バックアップ	完了	2020/10/17 17:55:34	2020/10/17
2020年10月17日 17時55分 のバックアップ	00:05:35	100%	フル/バックアップ	完了	2020/10/17 18:38:17	2020/10/17
2020年10月17日 17時55分 のバックアップ	00:05:43	100%	フル/バックアップ	完了	2020/10/17 18:38:17	2020/10/17
最新のバックアップ	00:00:45	93%	増分/バックアップ	バックアップ実行中	2020/10/20 08:15:49	
ファイルバックアップ(増分)	00:00:01		増分/バックアップ	待機中		

Point

複数のバックアップタスクを選択して実行する場合、同時にバックアップが行われるのではなく順番に行われます。

実行中のタスク以外は待機中となり、1つのバックアップタスクが終了すると次のバックアップタスクが開始されるようになっています。



表示されるスケジュールの条件と制限事項

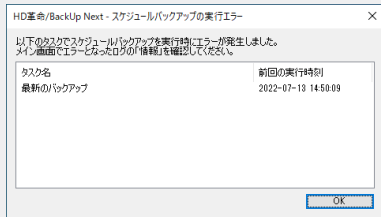
実行されなかったスケジュールバックアップが「実行するタスクの選択」画面に表示されるには、以下のような条件と制限事項があります。

- ・「実行するタスクの選択」画面に表示されるタスクは、「詳細バックアップ」で日時を設定する「1回のみ」「日単位」「週単位」「月単位」のスケジュールが対象となり、「イベント発生時」は対象外となります。
- ・「簡単バックアップ」で設定する「週に一回、バックアップを自動的に行う」のスケジュールと、「タイムスライスバックアップ」で設定されているスケジュールは対象外となります。
- ・バックアップの実行中はメイン画面が起動しますが、「Welcome バックアップ」と「バックアップの選択」画面は表示されません。
- ・スケジュールにより行われたバックアップがキャンセルやエラーで正常に完了しなかった場合は、スケジュールが実行されていないと見なされ「実行するタスクの選択」画面に表示されます。
- ・「実行するタスクの選択」画面でタスクが残った状態になっていても、スケジュールによりバックアップが実行されて正常に完了した場合は表示されなくなります。



スケジュールバックアップの実行エラー

スケジュールによるバックアップの実行時にエラーが発生すると、次のログオン（サインイン）時に以下の画面が表示されます。この画面では、エラーとなったタスク名が確認できます。



メイン画面を起動すると、該当するタスクのログにエラーが表示されています。画面を右にスクロールし「情報」欄でエラーの内容を確認してください。

操作	状態	開始日時	終了日時	情報
増分の初回フル	完了	2022/07/13 14:00:57	2022/07/13 14:06:37	
増分の初回フル	エラー	2022/07/13 14:50:09	2022/07/13 14:50:09	バックアップ対象のドライブが存在しません。エラーコ...

第3章

復元



ここでは、*BackUp Next*によってバックアップファイルから、元の状態に復元する方法について説明します。

復元方式について

BackUp NextでWindowsが起動した状態からシステムドライブの復元を行うには、「ネイティブ環境で復元」と「回復環境で復元」があります。

メイン画面の「設定」→「復元設定」タブの中で復元方式を変更できます。ここでは、復元方式の違いについて説明します。

ネイティブ環境で復元

「ネイティブ環境で復元」は従来の復元方式で、再起動後にWindowsが使用する各種サービスプログラムが起動する直前のタイミングで復元を行います。復元時は以下の画面が表示され、**BackUp Next**ではこの状態を「ネイティ

ブ環境」といいます。

基本的な制限はなく、どのような環境においても復元を行うことができますが、パーティション構成がバックアップ時から変更されている場合や復元先環境の状態によっては、上書きが正常に行えずに復元ができないことがあります。

```
Restore
F:\BackUpNext_NB_2020-10-25-1030\BackUpNext_SEC_2010251030.hdb
To
C:
D:
E:
Calc restore size...
Start Restore...
Restore No = 1/6, Disk = 0, StartSector = 2048, SectorNum = 204800
Restore...
100% elapsed: 00:00:02      BackUpNext_SEC_2010251030.hdb
Restore F:\BackUpNext_NB_2020-10-25-1030\BackUpNext_SEC_2010251030.hdb to Partit
ion[POS:2048] finish....

Restore No = 2/6, Disk = 0, StartSector = 206848, SectorNum = 32768
Restore...
100% elapsed: 00:00:01      BackUpNext_SEC_2010251030.hdb
Restore F:\BackUpNext_NB_2020-10-25-1030\BackUpNext_SEC_2010251030.hdb to Partit
ion[POS:206848] finish....

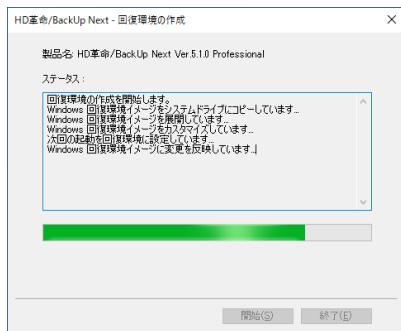
Restore No = 3/6, Disk = 0, StartSector = 239616, SectorNum = 103981026
Restore...
5% elapsed: 00:00:29      BackUpNext_SEC_2010251030.hdb
```

Point

システムドライブ以外のドライブを復元する場合や、システムドライブを別のディスクに復元する場合は、「ネイティブ環境で復元」、「回復環境で復元」のどちらが選択されていてもWindowsが起動した状態で復元が行われます。

回復環境で復元

「回復環境で復元」は新しく追加された復元方式で、再起動前に以下の画面が表示され Windows の回復パーティションから起動用イメージを作成します。作成が完了すると再起動し、そのイメージから起動して復元を行います。

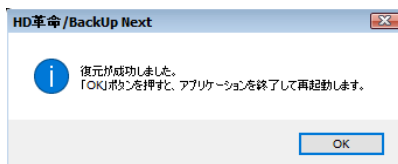
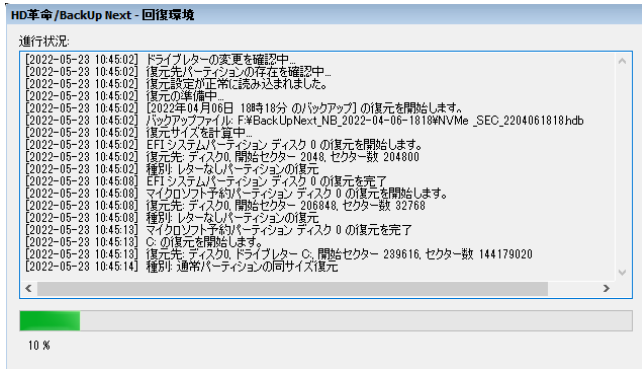


復元時は以下の画面が表示され、**BackUp Next**ではこの状態を「回復環境」といいます。「回復環境」は別のシステムで起動しているため、「ネイティブ環境」のような復元先環境の影響は受けませんが、ハードウェアを認識するためのデバイスドライバが必要となる場合があります。

なお、回復パーティションが存在しない、または使用可能な状態にない場合は、「回復環境」を起動するための起動用イメージが作成できないため、「回復環境で復元」方式は選択できません。

Point

「回復環境で復元」は、有効な「回復パーティション」が存在する環境では推奨の復元方式となります。ただし、「回復パーティション」の状態に依存するため使用できない環境もあります。この場合は、「ネイティブ環境で復元」を行うか、Windows PE 起動用ディスクを使用して復元を行ってください。



簡単復元

「簡単復元」は、「簡単バックアップ」で行ったバックアップファイルを復元する機能です。
詳細バックアップで行ったバックアップファイルは復元できません。

1 BackUp Nextの起動

Arkランチャーで「バックアップ・復元」→「HD革命/BackUp Next」を選択します。

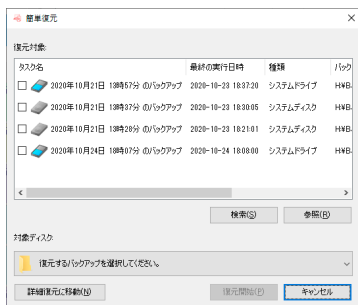


2 「簡単復元」の選択

ツールバーで左から2番目の「簡単復元」ボタンをクリックします。



「簡単復元」の操作画面が起動します。



3 復元対象の選択

一覧の中から復元対象(バックアップタスク)を選択し、「復元開始」ボタンをクリックします。



③ 復元対象

「簡単バックアップ」でバックアップしたバックアップタスクの一覧が表示されます。

③ 検索・参照

バックアップファイルを検索して追加、または直接指定して追加することができます。

③ 対象ディスク

復元先のディスクが表示されます。Windows上で復元を行う場合は、バックアップ元ディスクが自動的に選択され変更できません。

③ 詳細復元に移動

詳細復元のウィザード画面が起動します。



「簡単復元」は、バックアップを行った元の環境（バックアップ元ディスクの同じパーティション構成）に復元を行う復元方法です。

バックアップタスクを選択すると、バックアップ時の環境に合致するディスクが存在するかを検索し、見つかった対象ディスクとして指定します。対象ディスクが見つからない場合は、以下の画面のように対象ディスクの中にメッセージが表示され復元を行うことができません。

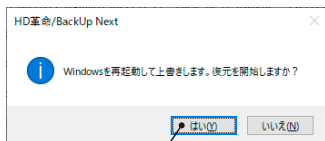
パーティションサイズの変更や、パーティションの個数を増減した場合は、「簡単復元」ではなく「詳細復元」を起動し「パーティション単位」の復元を行ってください。



4

復元の開始

確認メッセージが表示されますので、「はい」をクリックします。



1クリック

Point

「Windows PE 起動用ディスク」で復元する際に表示されるメッセージは、Windows上で復元するのとは異なり、「はい」をクリックするとすぐに復元が開始します。

Windows上で復元を行う場合は、もう一度確認メッセージが表示されますので「OK」をクリックします。

HD革命/BackUp Next



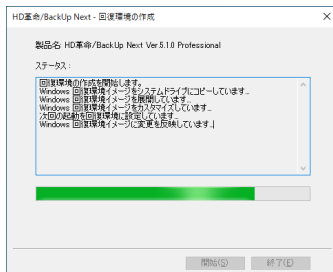
コンピュータを再起動して、復元を開始します。
※「OK」を押すと、コンピュータが再起動します。
「キャンセル」を押すと、復元を中止します。

1クリック

OK

キャンセル

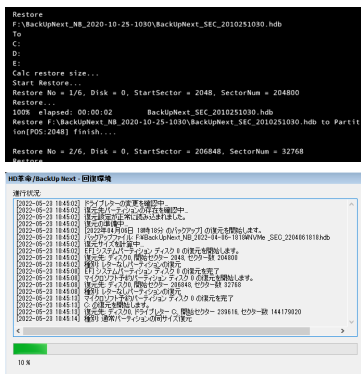
「回復環境で復元」で復元を行う場合は以下の画面が表示されます。



5

復元の実行

復元中は次のような画面で進行状況が表示されます。選択した復元方式により画面は異なります。



6

復元の完了

復元後はコンピュータを再起動します。



バックアップファイルの検索と参照

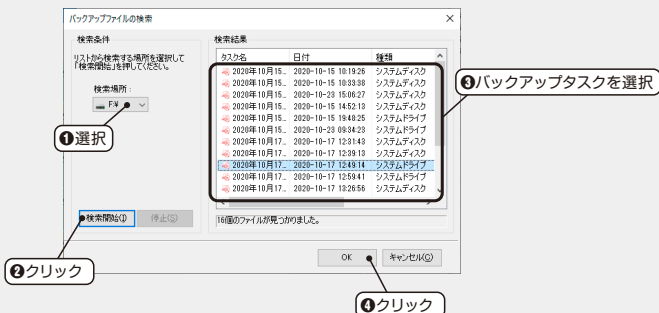
復元したいバックアップタスクが「簡単復元」の操作画面で表示されていない場合は、「検索」または「参照」ボタンをクリックして追加することができます。

●ファイルを検索して追加

「簡単復元」操作画面で「検索」をクリックすると下の検索画面が表示されます。

検索場所を選択し、「検索開始」ボタンをクリックします。

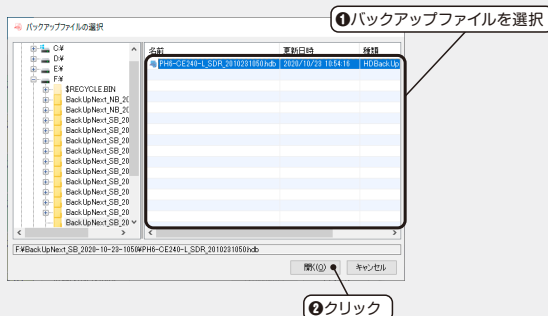
右側に追加可能なバックアップタスクが表示されますので、復元したいタスク名を選択して「OK」ボタンをクリックします。



●ファイルを指定して追加

「簡単復元」操作画面で「参照」をクリックすると下のファイル選択画面が表示されます。

フォルダーツリーで復元したいバックアップファイルを指定し、「開く」ボタンをクリックします。



詳細復元 (セクターバックアップ方式で「ディスク単位」)

「詳細復元」では、復元する対象や復元先を任意に指定して復元を行うことができます。

ここでは、セクターバックアップ方式でシステムディスクをバックアップしたタスクを選択し、元のディスクに「ディスク単位」で復元する手順を説明します。

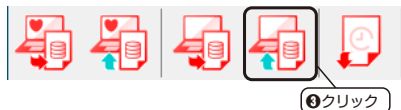
1 BackUp Nextの起動

Arkランチャーで「バックアップ・復元」→「HD革命/BackUp Next」を選択します。

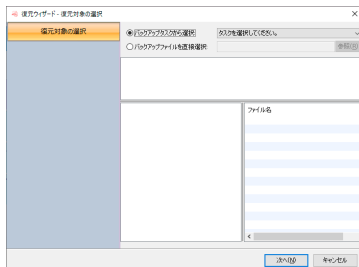


2 「詳細復元」の選択

ツールバーで右から2番目の「詳細復元」ボタンをクリックします。



「詳細復元」の復元ウィザードが起動します。



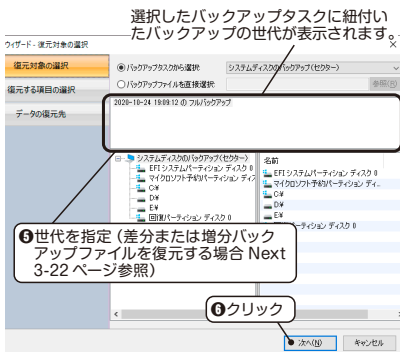
3 復元対象の選択

「復元対象の選択」タブでは、メイン画面に登録されているバックアップタスクをリストの中から選択するか、直接バックアップファイル(HDBファイル)を選択します。



- メイン画面に登録されていないバックアップタスクは「バックアップタスクから選択」に表示されません。「バックアップファイルを直接選択」でバックアップファイルを指定して復元を行ってください。

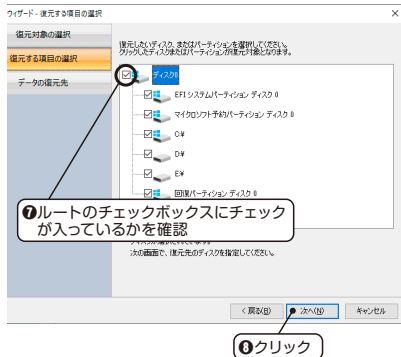
選択したバックアップタスクまたはバックアップファイルに含まれるドライブが表示されます。差分、増分の世代を指定して復元をする場合は、復元する世代を選択します。



4 復元する項目の選択

「復元する項目の選択」タブでは、復元したいディスク、またはパーティションを選択します。チェックが入っているものが復元対象となります。

この例ではシステムディスクを「ディスク単位」で復元しますので、すべてのチェックボックスにチェックを入れます。



Point

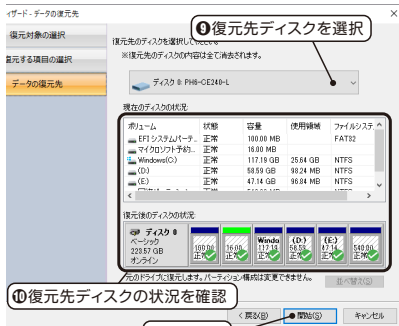
ルートのチェックボックスにチェックを入れると、すべてのドライブが選択状態となり「ディスク単位」の復元になります。

チェックが入っていない場合、「ディスク単位」ではなく「パーティション単位」の復元となり、次の「データの復元先」タブで画面の表示が異なります。

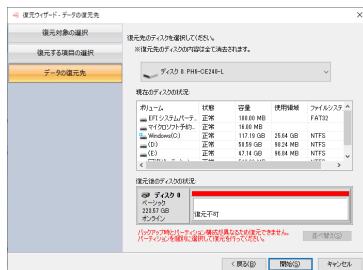
5 復元先を指定

「データの復元先」タブでは、復元先のディスクを指定します。

この例では、バックアップ元ディスクに「ディスク単位」で復元しますので、「現在のディスクの状況」で元のディスクかどうかを確認し、「開始」ボタンをクリックします。

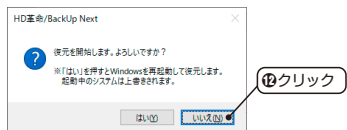


Windows 上で復元を行う場合、復元先として指定したディスクのパーティション構成がバックアップ時と異なる場合は、「ディスク単位」での復元はできません。パーティションサイズの変更や、パーティションの個数を増減した場合は、「パーティション単位」の復元を行ってください。

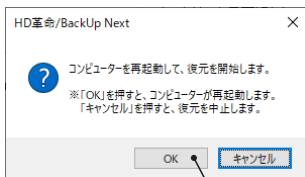


6 復元の開始

確認メッセージが表示されますので、「はい」をクリックします。



Windows上で復元を行う場合は、もう一度確認メッセージが表示されますので「OK」をクリックします。

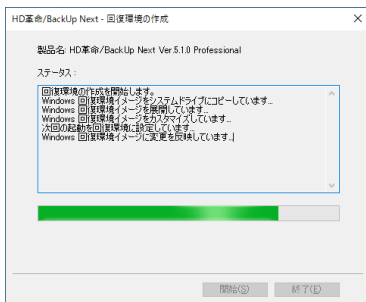


⑩クリック



- 復元を実行するとキャンセルはできません。
- 復元を中止する場合は、ここで「キャンセル」してください。

「回復環境で復元」で復元を行う場合は以下の画面が表示されます。



7 復元の実行

復元実行中は進行状況が表示されます。選択した復元方式により画面は異なります。

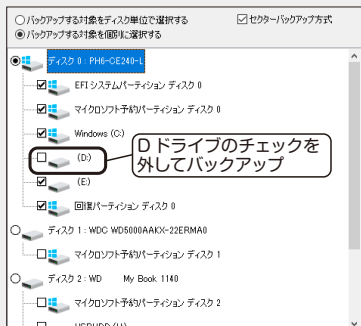
8 復元の完了

復元後はコンピュータを再起動します。



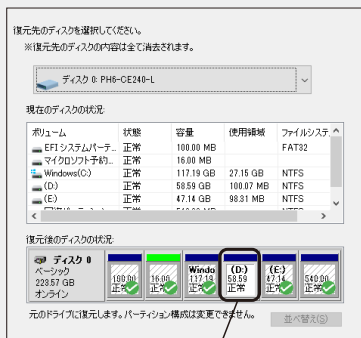
Dドライブを除いてバックアップした場合の復元

バックアップ時に「バックアップ対象を個別に選択する」を選択し、Dドライブのチェックを外してバックアップを行ったとします。



このバックアップファイルで元のディスクに「ディスク単位」で復元する場合は、Dドライブは復元対象外となります。

このとき、Dドライブに存在するファイル、フォルダーは復元後もそのまま残ります。



Dドライブは復元対象外

詳細復元 (セクターバックアップ方式で「パーティション単位」)

「詳細復元」は、復元する対象や復元先を任意に指定して復元を行うことができます。

ここでは、セクターバックアップ方式でシステムディスクをバックアップしたタスクを選択し、元のディスクに「パーティション単位」でシステムドライブ (Cドライブ) を復元する手順を説明します。

1 BackUp Nextの起動

Arkランチャーで「バックアップ・復元」→「HD革命/BackUp Next」を選択します。

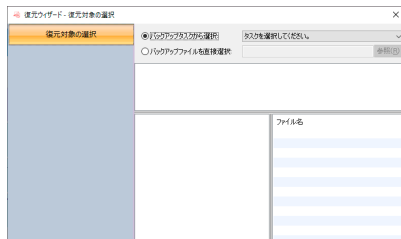


2 「詳細復元」の選択

ツールバーで右から2番目の「詳細復元」ボタンをクリックします。



「詳細復元」の復元ウィザードが起動します。



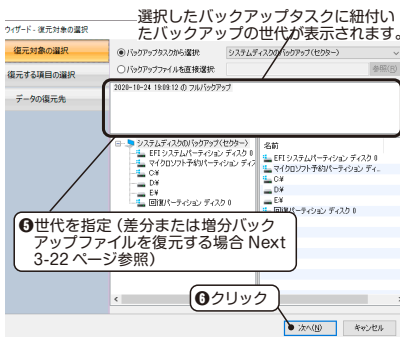
3 復元対象の選択

「復元対象の選択」タブでは、メイン画面に登録されているバックアップタスクをリストの中から選択するか、直接バックアップファイル (HDB ファイル) を選択します。



- ⚠
- メイン画面に登録されていないバックアップタスクは「バックアップタスクから選択」に表示されません。「バックアップファイルを直接選択」でバックアップファイルを指定して復元を行ってください。

選択したバックアップタスクまたはバックアップファイルに含まれるドライブが表示されます。差分、増分の世代を指定して復元をする場合は、復元する世代を選択します。



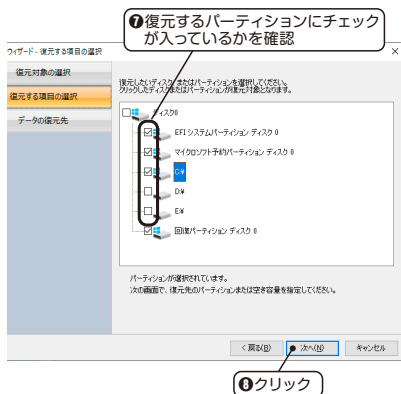
例1：システムドライブを復元する

(元のディスクにDドライブを復元する例については、次ページの④～⑧を参照)

4 復元する項目の選択

「復元する項目の選択」タブでは、復元したいディスク、またはパーティションを選択します。チェックが入っているものが復元対象となります。

この例ではシステムドライブを「パーティション単位」で復元しますので、Cドライブにチェックを入れます。



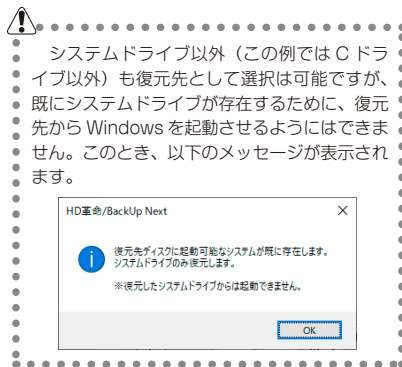
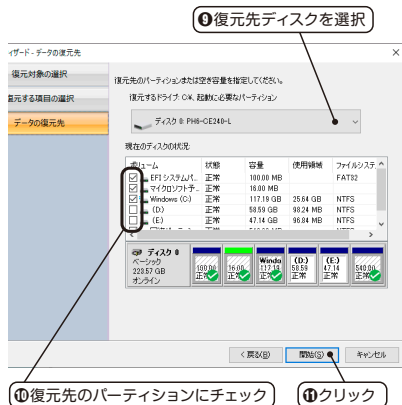
Point

システムドライブを復元する場合、Windowsの起動に必要なパーティションも同時にチェックが入ります。

5 復元先を指定

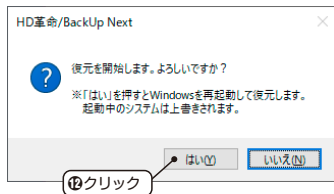
「データの復元先」タブでは、復元先のディスクと復元先のパーティションを指定します。

この例では、バックアップ元ディスクのシステムドライブに「パーティション単位」で復元しますので、「現在のディスクの状況」でCドライブにチェックを入れ、「開始」ボタンをクリックします。

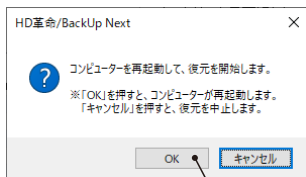


6 復元の開始

確認メッセージが表示されますので、「はい」をクリックします。



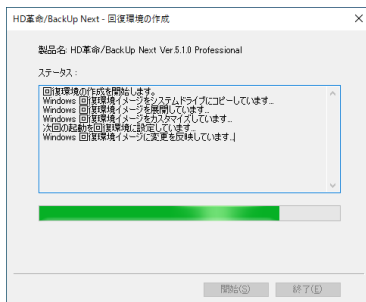
Windows上で復元を行う場合は、もう一度確認メッセージが表示されますので「OK」をクリックします。



①クリック

⚠ 復元を実行するとキャンセルはできません。
復元を中止する場合は、ここで「キャンセル」してください。

「回復環境で復元」で復元を行う場合は以下の画面が表示されます。



7 復元の実行

復元実行中は進行状況が表示されます。選択した復元方式により画面は異なります。

8 復元の完了

復元後はコンピューターを再起動します。

例2：Dドライブを復元する

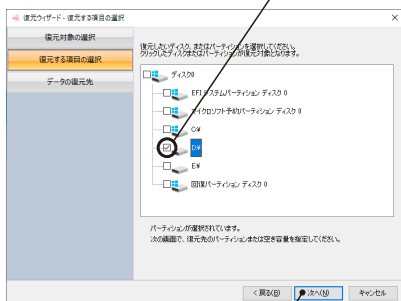
(システムドライブを復元する例については、前ページの④～⑥を参照)

4 復元する項目の選択

「復元する項目の選択」タブでは、復元したいディスク、またはパーティションを選択します。チェックが入っているものが復元対象となります。

この例では、Dドライブを「パーティション単位」で復元しますので、Dドライブにチェックを入れます。

①復元するパーティションにチェックが入っているかを確認

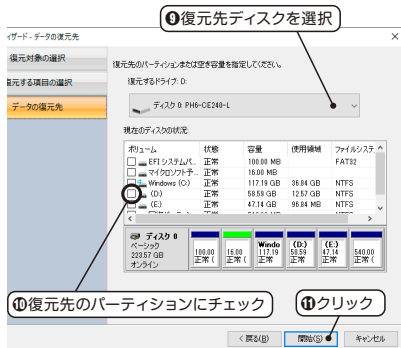


①クリック

5 復元先を指定

「データの復元先」タブでは、復元先のディスクと復元先のパーティションを指定します。

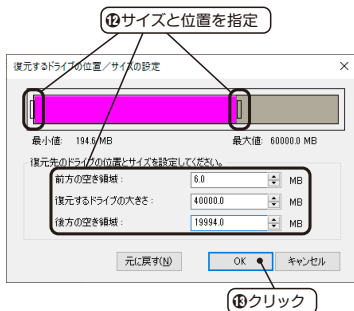
この例では、バックアップ元ディスクのDドライブに「パーティション単位」で復元しますので、「現在のディスクの状況」でDドライブにチェックを入れます。



システムドライブ以外（この例ではDドライブ）に復元を行う場合、チェックを入れると「復元するドライブの位置／サイズの設定」画面が表示されます。

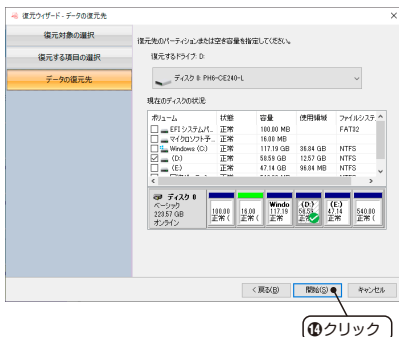
バーをマウスで操作するか、数値を入力してサイズと位置を指定します。

元のサイズで復元するには、そのまま「OK」ボタンをクリックします。



⚠ セクターバックアップ方式で差分、増分バックアップを行っている場合は、フルバックアップを指定すると、上記の画面で位置とサイズを変更できます。差分、増分のバックアップファイル指定すると、位置は変更できますがサイズを変更することはできません。

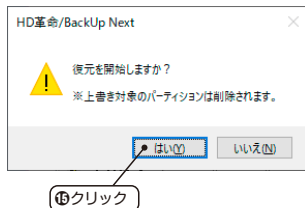
Dドライブが選択された状態となりますので、「開始」ボタンをクリックします。



6

復元の開始

確認メッセージが表示されますので、「はい」をクリックします。



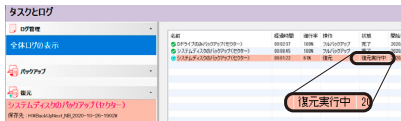
7

復元の実行

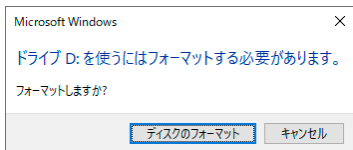
この復元手順では、Windowsが起動した状態で復元が行われます。

復元が開始すると、メイン画面で復元の「タスク」が新規に作成され、ログの「状態」列には「復元実行中」と表示されます。

復元中のタスクとログは、赤色で表示されます。



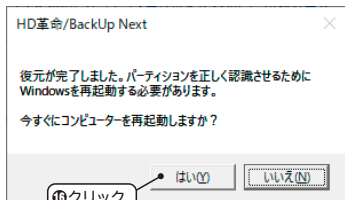
復元を行う際に、復元先として指定したドライブをフォーマットするかどうかのダイアログが表示されますが、復元後はコンピューターを再起動しますので、フォーマットは行わずそのままにしておいてください。



8

復元の完了

復元が完了するとメッセージが表示されますので、「はい」をクリックして Windows を再起動してください。

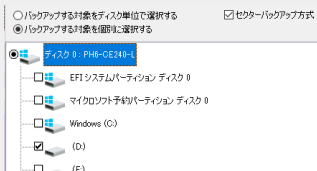


Windows を再起動せずに復元したドライブにアクセスすると、ドライブを開けない場合や上記のフォーマットを行うダイアログが表示される場合があります。

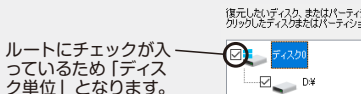


パーティションが1つしかない場合の復元

バックアップ時に「バックアップ対象を個別に選択する」を選択し、Dドライブのみバックアップを行ったとします。

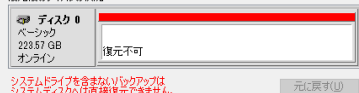


「復元する項目の選択」タブではパーティションが1つ（Dドライブ）しか選択されていませんが、ディスクのルートにチェックが入っているため「ディスク単位」として扱われます。



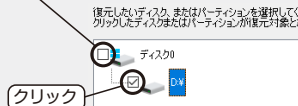
元のDドライブの位置に復元を行うため「データの復元先」タブに移動すると、「復元不可」と表示され復元ができません。

復元後のディスクの状況:



このような場合は、Dドライブのみがチェックされた状態にして「パーティション単位」の復元を行ってください。

Dドライブをクリックするとルートのチェックが外れます。





別のディスクに復元するときのディスク状況

Windows上で別のディスクに「ディスク単位」で復元する場合は、ディスクを初期化して復元が行われます。このとき、復元先ディスクの容量により「データの復元先」タブの表示が変わります。

以下に、システムディスク（ディスク0）にC、D、Eのドライブがある環境をバックアップしていったときを例として説明します。

●復元先ディスクが大きい場合

復元先ディスクが大きい場合、初期状態ではバックアップ元のディスク構成がそのまま表示されます。

このとき、ディスクの後方は「未割り当て」となります。

※復元先のディスクの内容は全て消去されます。

ディスク 1: WDC WD5000AAKX-22ERMA0

現在のディスクの状況

ボリューム	状態	容量	使用領域	ファイルシステム
マイクソフト予約	正常	15.98 MB		
空き容量	未割り当て	465.75 GB		

復元後のディスクの状況

ディスク 1	ベータック	100.00	16.00	Wind	(D:)	(E:)	50.00	242.19
465.75 GB	オンライン	正常	正常	117.1	59.59	47.14	正常	未割り

パーティションをクリックするとサイズの変更・移動を行います。

並べ替え(S)

ディスクの後方は「未割り当て」

Dドライブを除いてバックアップした場合の復元においては、Dドライブが存在していた位置に「未割り当て」ができます。

マイクソフト予約 正常 15.98 MB

空き容量 未割り当て 465.75 GB

復元後のディスクの状況

ディスク 1	ベータック	100.00	16.00	Wind	(D:)	(E:)	50.00	242.19
465.75 GB	オンライン	正常	正常	117.1	59.59	47.14	正常	未割り

パーティションをクリックするとサイズの変更・移動を行います。

並べ替え(S)

Dドライブの位置が「未割り当て」

●復元先ディスクが小さい場合

復元先ディスク容量が小さい場合は、各パーティションが自動的に縮小されます。

復元先ディスクには、バックアップ元ディスク

で各パーティションの使用領域合計よりも大きい容量が必要となり、復元先ディスクに収まらないと復元はできません。

復元先のディスクを選択してください。

※復元先のディスクの内容は全て消去されます。

ディスク 3: SPCC Sol id State Disk

現在のディスクの状況

ボリューム	状態	容量	使用領域	ファイルシステム
マイクソフト予約	正常	15.98 MB		
空き容量	未割り当て	119.24 GB		

復元後のディスクの状況

ディスク 3	ベータック	100.00	16.00	Wind	(D:)	(E:)	50.00	242.19
119.24 GB	オンライン	正常	正常	74.22	24.42	19.96	正常	正常

パーティションをクリックするとサイズの変更・移動を行います。

並べ替え(S)

ディスクに合わせて縮小

Dドライブを除いてバックアップした場合はDドライブの位置が「未割り当て」とならず、その他のパーティションが自動的に縮小され、先頭から詰めて配置されます。

現在のディスクの状況

ボリューム	状態	容量	使用領域	ファイルシステム
マイクソフト予約	正常	15.98 MB		
空き容量	未割り当て	119.23 GB		

復元後のディスクの状況

ディスク 3	ベータック	100.00	16.00	Window	(E:)	540.00	24.44	540.00
119.24 GB	オンライン	正常 (EF)	正常 (M)	32.16 GB	25.44 GB	正常	正常	正常 (H)

パーティションをクリックするとサイズの変更・移動を行います。

並べ替え(S)

Dドライブを除いて、ディスクに合わせて縮小

別のディスクに復元する場合は、「復元後のディスクの状況」のバーで各パーティションをクリックすると「復元するドライブの位置/サイズの設定」画面が表示され、パーティション構成を調整できます（差分、増分はサイズ変更不可）。



復元を開始するとドライブをフォーマットするかどうかのダイアログが繰り返し表示されますので、フォーマットは行わずにそのままにしておいてください。

復元するドライブの位置/サイズの設定

最小値: 27910.8 MB 最大値: 180001.0 MB

復元先のドライブの位置とサイズを設定してください。

前方の空き領域: 0.0 MB

復元するドライブの大きさ: 120000.8 MB

後方の空き領域: 60000.8 MB

元に戻す(B) OK キャンセル

Point

「ディスク単位」ではなく、Cドライブを「パーティション単位」で復元する場合は、「回復パーティション」を先頭に移動することができます。

HD革命/BackUp Next

回復パーティションが後方にあります。復元する際に先頭に移動しますか？

はい(Y) いいえ(N)

現在のディスク状況

ボリューム	状態	容量	使用領域	ファイルシステム
回復パーティション	正常	540.00 MB		
EFIシステム	正常	100.00 MB		
マイクロソフト	正常	16.00 MB		
Windows (C)	正常	117.19 GB	36.75 GB	
空き容量		347.81 GB		

先頭に移動された「回復パーティション」



パーティションの並べ替え

別のディスクへ「ディスク単位」で復元を行う場合は、画面下の「並べ替え」ボタンをクリックすることで「回復パーティション」の移動方法を選択できます。

「Windows PE 起動用ディスク」で起動した場合は、元のディスクに復元する場合も同様の動作となります。

復元ウィザード - データの復元先

復元対象の選択

復元する項目の選択

データの復元先

ディスク 1: WDC WD20EARX-00MVWB0

現在のディスク状況

ボリューム	状態	容量	使用領域	ファイルシステム
空き容量	未割り当て	1863.01 GB		

1 クリック

復元後のディスク状況

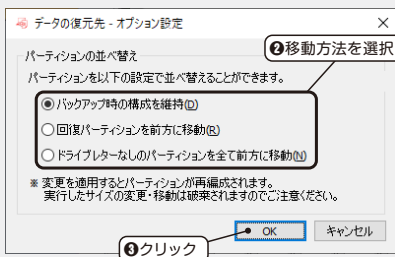
ディスク 1	パーティション	容量	状態	ファイルシステム
回復パーティション	100.00 MB	正常		
EFIシステム	100.00 MB	正常		
マイクロソフト	16.00 MB	正常		
Windows (D)	244.00 MB	正常		
Windows (E)	14.00 MB	正常		
空き容量	552.00 MB	未割り		
空き容量	1386.00 MB	未割り		

パーティションをクリックするとサイズの変更・移動を行います。初期設定に戻すには「並べ替え」を実行してください。

並べ替え(S)

戻る(B) 検索(F) キャンセル

「並べ替え」ボタンをクリックすると、以下の画面が表示されます。選択した内容により「復元後のディスクの状況」に表示されるディスクの構成が変わります。



●バックアップ時の構成を維持

バックアップ時のドライブ構成がそのまま表示されます。パーティションの構成を変更前の状態に戻す場合は、こちらを選択した状態で「OK」ボタンをクリックします。

●回復パーティションを前方に移動

Windowsによって自動的に作成されるマイクロ



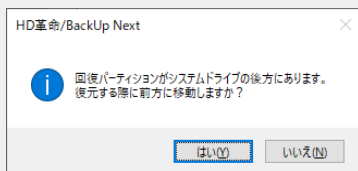
.....
 ● MBR ディスク環境をバックアップした
 ● バックアップファイルは、並べ替えを行うこ
 ● とはできません。
 ●

ソフトの「回復パーティション」のみ前方に移動します。「回復パーティション」が複数存在する場合はすべて前方に移動します。

●ドライブレターなしのパーティションを全て前方に移動

マイクロソフトの「回復パーティション」のほかに、メーカー独自のリカバリー用パーティションや、Windows以外のOSで作成されたパーティション、ドライブ文字が存在しないパーティションをすべて前方に移動します。

なお、「パーティション単位」で復元を行う場合「並べ替え」ボタンは表示されませんが、復元先ボリュームの選択時に以下のメッセージが表示され、マイクロソフトの「回復パーティション」を前方に移動することができます。



復元を行ったときのタスクの登録について

バックアップタスクを複数登録（作成）している場合、復元を行うタスクによっては、復元後に登録されているバックアップタスクが削除されてしまう場合があります。例えば、下記のような手順で操作を行うことで発生します。復元後にスケジュールを設定しているタスクが削除されてしまったような場合は、「タスクとログのインポート」機能（復元前にエクスポートしておく必要があります）を利用するか、「バックアップファイルからタスクを再構成」機能を利用してください。

《操作手順例》

- ①最初にフルバックアップを行ったとします。ここで、「タスクとログ」画面にタスクが1つ登録されます。
- ②次に、最初のフルバックアップとは別に、新しく増分バックアップを行ったとします。ここで、「ログとタスク」画面には、2つ目のタスクが登録されます。
- ③復元が必要になったときに、最初のフルバックアップを行ったタスクを選択して復元を行ったとします。
- ④最初のフルバックアップ時においては、2回目の増分バックアップは行われていないのでタスクは存在しません。そのため、復元後に「タスクとログ」画面では2つ目のバックアップタスクは存在しない（削除された）状態となります。

詳細復元（ファイルバックアップ方式）

「詳細復元」は、復元する対象や復元先を任意に指定して復元を行うことができます。

ここでは、ファイルバックアップ方式でDドライブをバックアップしたタスクを選択し、復元する手順を説明します。

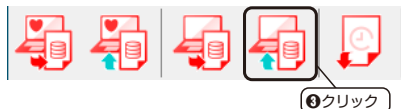
1 BackUp Nextの起動

Arkランチャーで「バックアップ・復元」→「HD革命/BackUp Next」を選択します。

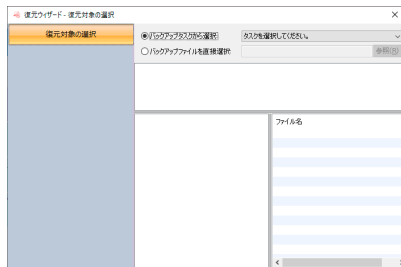


2 「詳細復元」の選択

ツールバーで右から2番目の「詳細復元」ボタンをクリックします。



「詳細復元」の復元ウィザードが起動します。



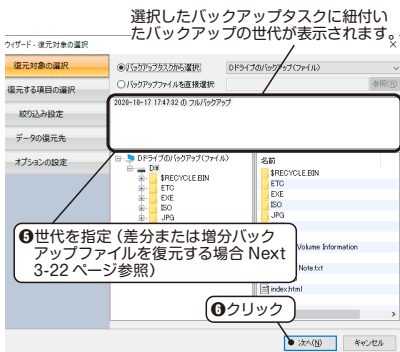
3 復元対象の選択

「復元対象の選択」タブでは、メイン画面に登録されているバックアップタスクをリストの中から選択するか、直接バックアップファイル（HDBファイル）を選択します。



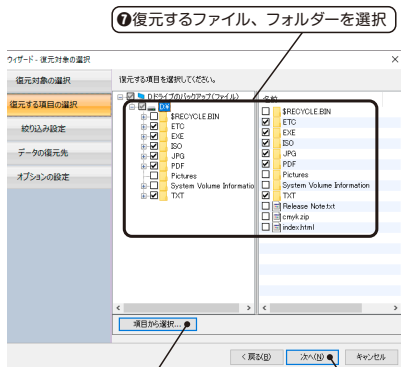
- メイン画面に登録されていないバックアップタスクは「バックアップタスクから選択」に表示されません。「バックアップファイルを直接選択」でバックアップファイルを指定して復元を行ってください。

選択したバックアップタスクまたはバックアップファイルに含まれるドライブが表示されます。差分、増分の世代を指定して復元をする場合は、復元する世代を選択します。



4 復元する項目の選択

「復元する項目の選択」タブでは、復元したいファイル、フォルダーを選択します。チェックが入っているものが復元対象となります。



バックアップ時と同様に項目を選択して復元することができます(Professional版のみ)。
設定方法はバックアップ時と同じです。

Point

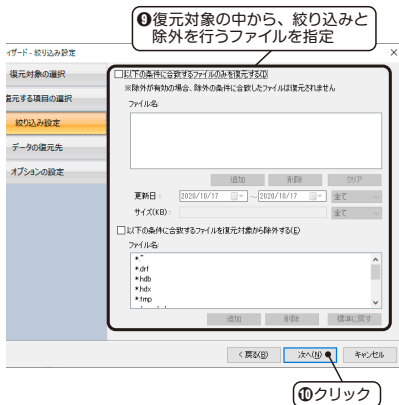
復元時にも項目を指定して復元を行うことができます。
ただし、バックアップファイルに含まれない項目(ファイル、フォルダー)を指定しても復元は行われません。

Professional版のみ

5 絞り込み設定

「ファイルバックアップ方式」でバックアップしたファイルを復元する場合、「絞り込み設定」タブで復元するファイルの中から絞り込みと除外を行うことができます。

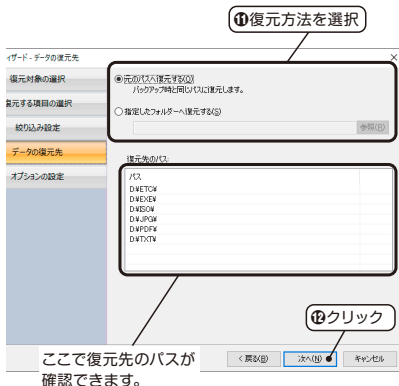
詳細についてはバックアップ時と同様なので、Next 2-21、Next 2-24ページを参照してください。



6 復元先を指定

「データの復元先」タブでは、復元先を指定します。

バックアップ時と同じパスに復元するか、指定したフォルダーに復元するかを選択できます。

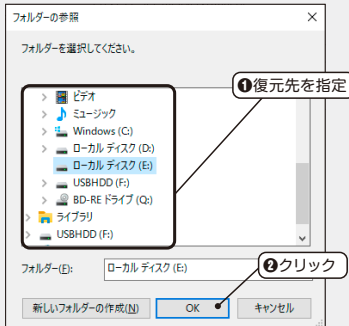


ここで復元先のパスを確認できます。

- 「指定したフォルダーへ復元する」を選択した場合、復元先パスの長さは260文字までとなります。

Point

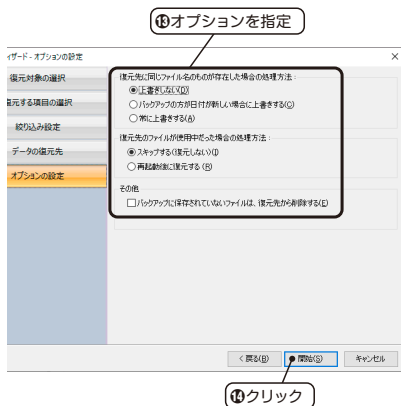
指定したフォルダーへ復元する場合は、「参照」ボタンをクリックして「フォルダーの参照」画面で復元先を指定します。



7 オプションの選択

「オプションの設定」タブでは、復元に関するオプションを設定します。オプションの詳細については、Next 2-35ページを参照してください。

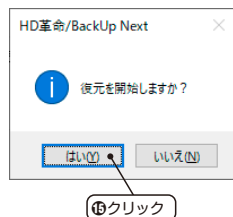
処理方法を確認し、「開始」ボタンをクリックします。



8

復元の開始

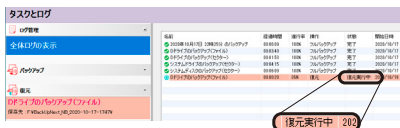
確認メッセージが表示されますので、「はい」をクリックします。設定したオプションの内容で復元が開始します。



9

復元の実行

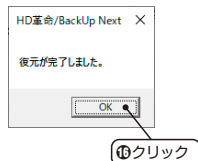
復元が開始すると、メイン画面でバックアップの「タスク」が新規に作成され、ログの「状態」列には「復元実行中」と表示されます。復元中のタスクとログは、赤色で表示されます。



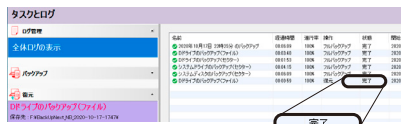
10

復元の完了

復元が完了するとメッセージが表示されますので、「OK」をクリックします。



バックアップが完了すると、ログの「状態」列には「完了」と表示されます。



タスク名	状態	開始時刻	終了時刻	経過時間	エラー	詳細
C:\Program Files\Windows Defender\Windows Defender.exe	完了	10/10/2020 10:10:10	10/10/2020 10:10:10	00:00:00	0	
C:\Program Files\Windows Defender\Windows Defender.exe	完了	10/10/2020 10:10:10	10/10/2020 10:10:10	00:00:00	0	
C:\Program Files\Windows Defender\Windows Defender.exe	完了	10/10/2020 10:10:10	10/10/2020 10:10:10	00:00:00	0	
C:\Program Files\Windows Defender\Windows Defender.exe	完了	10/10/2020 10:10:10	10/10/2020 10:10:10	00:00:00	0	
C:\Program Files\Windows Defender\Windows Defender.exe	完了	10/10/2020 10:10:10	10/10/2020 10:10:10	00:00:00	0	
C:\Program Files\Windows Defender\Windows Defender.exe	完了	10/10/2020 10:10:10	10/10/2020 10:10:10	00:00:00	0	
C:\Program Files\Windows Defender\Windows Defender.exe	完了	10/10/2020 10:10:10	10/10/2020 10:10:10	00:00:00	0	
C:\Program Files\Windows Defender\Windows Defender.exe	完了	10/10/2020 10:10:10	10/10/2020 10:10:10	00:00:00	0	
C:\Program Files\Windows Defender\Windows Defender.exe	完了	10/10/2020 10:10:10	10/10/2020 10:10:10	00:00:00	0	
C:\Program Files\Windows Defender\Windows Defender.exe	完了	10/10/2020 10:10:10	10/10/2020 10:10:10	00:00:00	0	

Point

ログの「状態」列には、復元の動作についての情報が表示されます。「キャンセル」や「エラー」と表示されている場合は、復元が正常に完了していません。また、復元が完了しても「完了（警告あり）」や「完了（情報あり）」と表示されることがあります。

このような場合は、ログを右にスクロールして、「情報」列の表記を確認してください。



復元先に「Windows」または「Program Files」が指定された場合の注意

「Windows」と「Program Files」フォルダーには、Windowsやアプリケーションを動作するための重要なファイルが保存されています。

バックアップ時に「Windows」や「Program Files」を含んでバックアップし、「元のパスへ復元する」を選択して復元を行うと、Windowsやアプリケーションが正常に動作しなくなる恐れがあるため、右の注意メッセージが表示されます。

なお、このような形で復元を行ってもWindowsの修復や環境移行はできませんので、復元は行わないようにしてください。

HD革命/BackUp Next



復元先として「Windows」または「Program Files」フォルダーが指定されています。このまま復元を行うと、Windowsが起動できなくなる場合や、アプリケーションが正しく動作しなくなる場合があります。復元先として指定しますか？

※別のフォルダーに復元を行う場合は、「いいえ」をクリックして「指定したフォルダーに復元する」を選択してください。

はい(00)

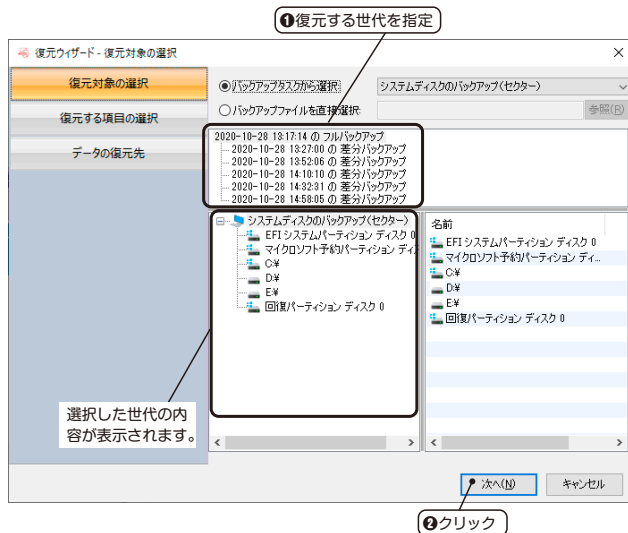
いいえ(00)

差分、増分バックアップの復元

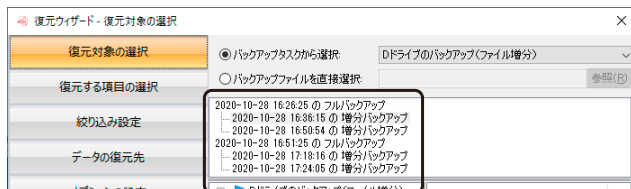
BackUp Nextで差分バックアップまたは増分バックアップしたバックアップファイルを復元する場合、復元対象の選択画面でどの世代のファイルを復元するか指定することができます。

1 世代の指定

復元する差分バックアップ、または増分バックアップの世代を指定します。指定した世代ファイルにより下のツリーの内容が変わります。



バックアップ時に「サイクル設定」を設定している場合は、サイクルごとにツリーで表示されます。



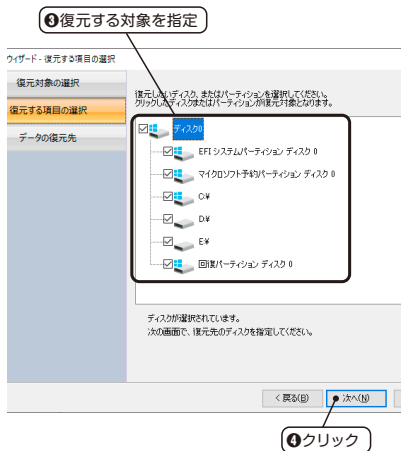
同じバックアップタスクで繰り返しフルバックアップを行っている場合は、フルバックアップとして表示されます。



フルバックアップとして表示されます。

2 復元する項目の選択

セクターバックアップ方式でバックアップしている場合は、復元したいディスク、またはパーティションを選択します。



⚠ 差分、増分バックアップファイルを復元する場合、位置とサイズの設定はできません。

ファイルバックアップ方式でバックアップしている場合は、ファイル、フォルダーを選択します。



以降の操作は、各復元方法のページを参照してください。

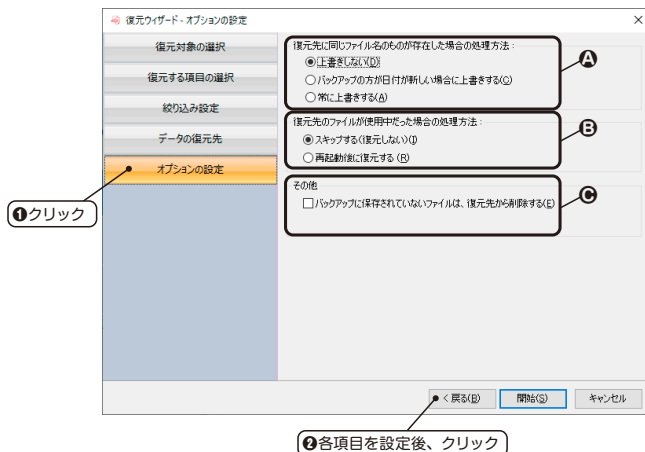
復元オプションの設定 (ファイルバックアップ方式の復元)

ファイルバックアップ方式でバックアップした場合、ファイルの処理に関するオプションを指定することができます。

ここでは、各オプションの動作について説明します。

「オプションの設定」を選択

復元ウィザードで「オプションの設定」タブをクリックします。



A 復元先に同じファイル名のものが存在した場合の処理方法

ファイルバックアップ方式でのバックアップでは、復元時に同名のファイルが存在する場合、その処理方法を選択します。

● 上書きしない

同名のファイルが存在した場合は上書きせず、現在のファイルが保持されます。

の「更新日時」を比較し、バックアップしたファイルの「更新日時」が新しい場合のみ上書きされます。

- バックアップファイルの日付が新しい場合に上書きする
バックアップしたファイルと現在のファイル

● 常に上書きする

同名のファイルが存在する場合は、常にバックアップしたファイルで上書きされます。

③ 復元先のファイルが使用中だった場合の処理方法

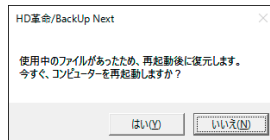
復元を行うファイルが開かれていたり、ほかのアプリケーションでロックされていたりすると、そのまま復元はできません。ファイルが使用中だった場合の処理方法を選択します。

● スキップする（復元しない）

使用中のファイルをスキップして復元が続きます。スキップしたファイルは、復元後にタスクのログで確認できます。

● 再起動後に復元する

使用中のファイルを再起動後に復元します。このときに右のメッセージが表示されますので、コンピュータを再起動してください。



Point

復元先のフォルダーに復元するために一時的に「_Ark」のフォルダーが作成されますが、このフォルダーは復元後に自動的に削除されます。

④ その他

復元を行う場合の動作を選択します。

- バックアップに保存されていないファイルは、復元先から削除する
バックアップしたときのファイル構成で復元

が行われます。
バックアップ時に存在していないファイルは削除されますので注意が必要です。

Point

オプション名および文中ではファイルと表記されていますが、フォルダーにおいてもファイルと同じ処理が行われます。

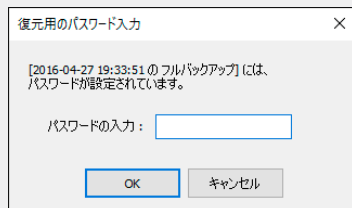


復元時のパスワード入力

バックアップのオプション設定でパスワードを設定した場合は、復元時にパスワードを入力する画面が表示されます。

ここで正しいパスワードを入力することで、復元を行うことができます。

なお、パスワードを忘れてしまった場合、復元を行うことはできません。



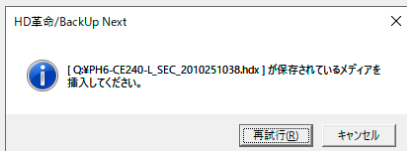


複数のメディアに分かれたバックアップファイルを復元する

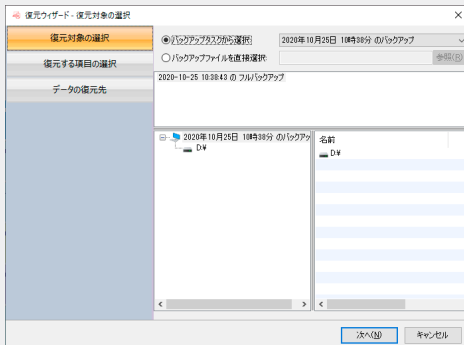
DVDやBDメディアにバックアップする場合、複数枚のメディアに分割されてバックアップファイルが書き込まれることがあります。

複数枚のメディアにわたったシステムドライブの復元を行う場合は、USBハードディスクなどにフォルダーを作成し、その中にバックアップファイル（HDBファイル）とインデックスファイル（HDXファイル）をすべてコピーし、そのハードディスク上のファイルを指定することで、メディアを入れ替えることなく復元を行うことができます。

なお、復元時には最初に1枚目のメディアに存在するバックアップファイル（HDBファイル）を指定します。すると次のようなメッセージが表示されますので、インデックス（HDXファイル）が存在する最後のメディアを挿入します。



インデックスが正しく読み込まれると、バックアップしたドライブ、フォルダー、ファイルが表示されます。ここで、復元するファイルを選択します。



復元を開始すると、指定されたファイルが含まれたメディアの挿入メッセージが表示されます。このとき、Windows上で復元する時は右の画面のメッセージが表示され、コンピューターの再起動後に復元を行う場合はNext 3-5ページの**5**の画面でメッセージが表示されます。



復元の途中でメディアの入れ替えが発生することがあります。その場合は要求されたメディアをドライブに挿入してください。メディアの入れ替えの際は、要求されたメディアとは違うメディアだと先に進めませんので、メディアの順番に間違いがないか確認してください。



スケジュールの再設定

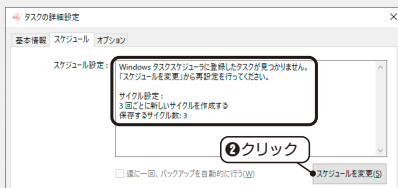
スケジュールでバックアップを行っているバックアップタスクを選択して復元を行うと、復元後にスケジュールの再設定が必要となる場合があります。

スケジュールの再設定は、以下の手順で行うことができます。

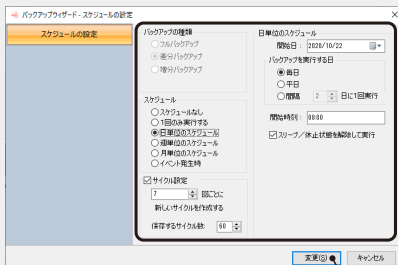
- 1 **BackUp Next**のメイン画面でバックアップタスクを選択し、画面右側の「詳細設定」ボタンをクリックします。



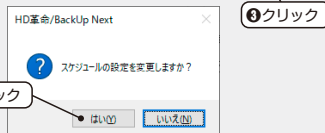
- 2 「タスクの詳細設定」画面が起動し、スケジュールが無効となっている場合は、「スケジュール設定」に「Windows タスクスケジューラに登録したタスクが見つかりません。」と表示されています。再設定を行うには、「スケジュールを変更」ボタンをクリックします。



- 3 「スケジュールの設定」タブのみが表示されたバックアップウィザードが起動します。スケジュールを設定し「変更」ボタンをクリックします。

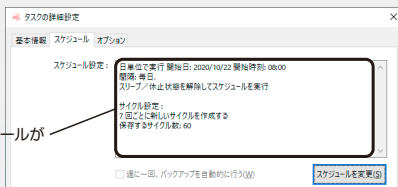


- 4 確認メッセージが表示されますので、「はい」をクリックします。



- 5 再設定したスケジュールでバックアップが行われます。

変更されたスケジュールが確認できます。



バックアップファイルの内容確認 (バックアップファイルのマウント)

BackUp Nextでバックアップしたバックアップファイル（HDB ファイル）を仮想ドライブとしてマウントし、中のファイル、フォルダーの確認、取り出しを行うことができます。

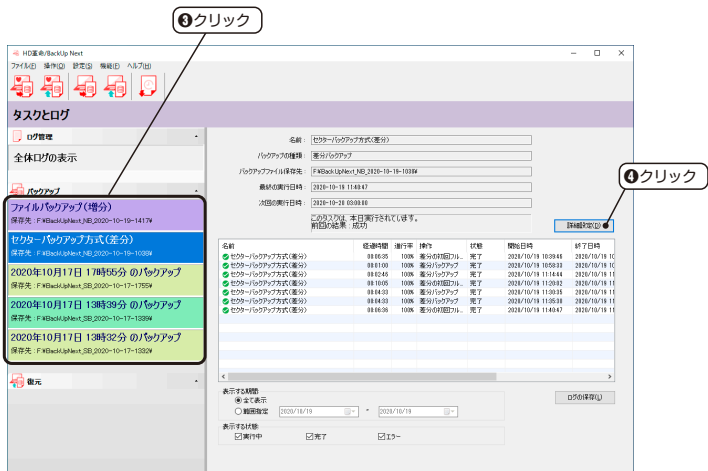
1 BackUp Nextの起動

Arkランチャーで「バックアップ・復元」→
「HD革命/BackUp Next」を選択します。



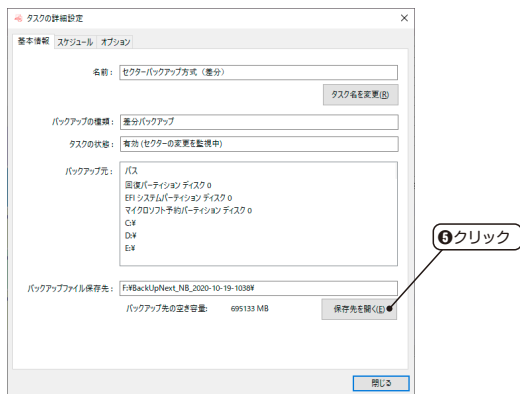
2 バックアップタスクの選択

マウントを行いたいバックアップファイルがあるタスクを1つ選択し、「詳細設定」ボタンをクリックします。



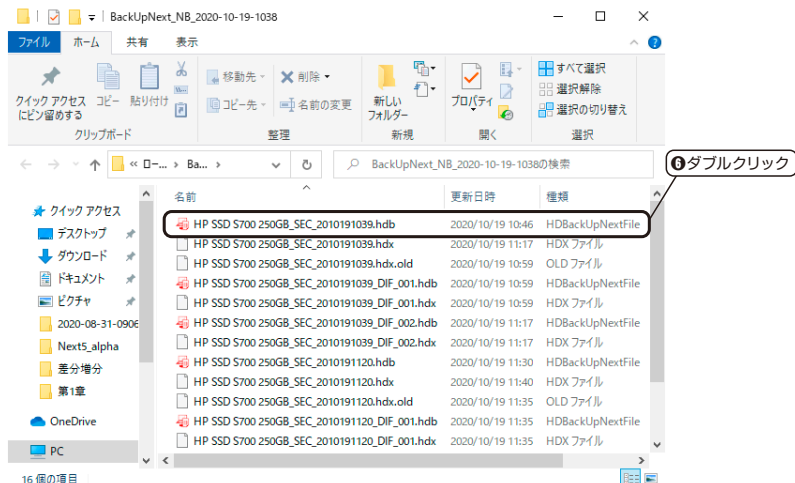
3 保存先を開く

「基本情報」タブで、「保存先を開く」ボタンをクリックします。



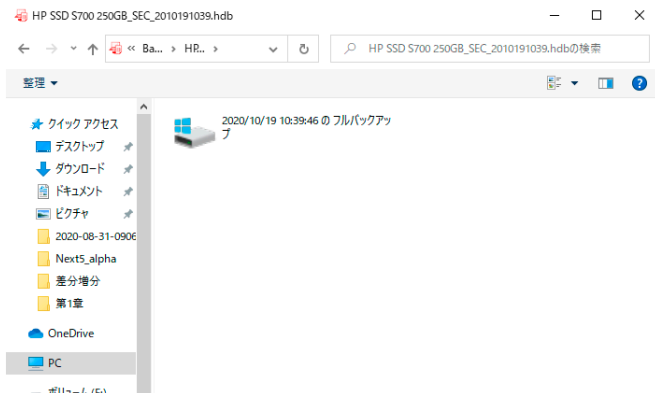
4 バックアップファイルのマウント

HDB ファイルをダブルクリック (または右クリック→「開く」) を選択) します。



5 仮想ドライブの表示

バックアップファイルがマウントされ、仮想ドライブが開きます。この仮想ドライブは、Windowsの「エクスプローラー」と同様に操作ができます。



マウントした仮想ドライブに対してファイルの追加や削除はできません。

Point

フルバックアップした HDB ファイルだけではなく、差分、増分の HDB ファイルもマウントできます。この場合は、その世代におけるフルバックアップ（基本となるフルバックアップに差分または増分バックアップファイルが足された）状態でマウントされます。



第 4 章

Windows PE 起動用ディスクで 起動してバックアップ・復元



ここでは、Windows PE 起動用ディスクでコンピュータを起動し、ドライブのバックアップ、復元を行う方法について説明しています。

Windows PE 起動用ディスクで起動してバックアップ

あらかじめ作成した「Windows PE 起動用ディスク」でコンピューターを起動し、バックアップを行うことができます。一部機能は制限されますが、基本的な操作方法是Windowsにインストールした **BackUp Next** と同様です。

1 コンピューターの起動

Windows PE 起動用ディスクからコンピューターを起動します (Next 1-12 ページ参照)。

2 BackUp Next の起動

Ark ランチャーで「バックアップ・復元」→「HD 革命 / BackUp Next」を選択します。



3 バックアップ方法の選択

ツールバーで「簡単バックアップ」または「詳細バックアップ」ボタンをクリックします。

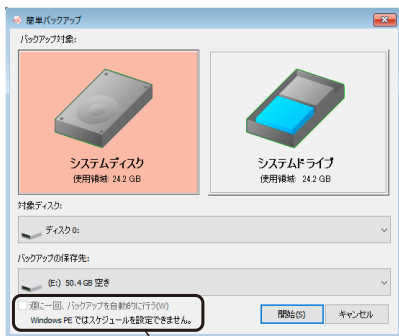


- Windows PE 起動用ディスクで起動してバックアップを行う場合、タイムスライスバックアップは使用できません。

4 バックアップ対象の選択

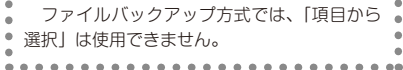
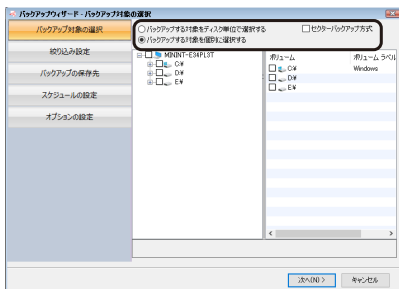
●簡単バックアップ

Windows 上で操作するのと同様に、バックアップ対象として「システムディスク」または「システムドライブ」の画像ボタンをクリックしてバックアップを行います。



Windows PE 起動用ディスクで起動してバックアップを行う場合、スケジュールの設定はできません。

Windows上で操作するのと同様に、「セクターバックアップ方式」または「ファイルバックアップ方式」を選択し、バックアップウィザードに沿ってバックアップを行います。

[illegible]

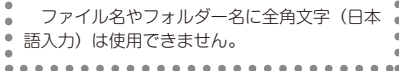
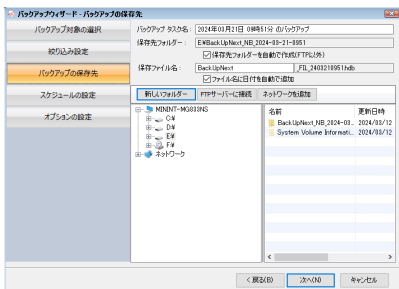
バックアップ/リカバリ - バックアップ/リカバリの保存先

バックアップ対象の選択 | **バックアップの保存先** | スケジュールの設定 | オプションの設定

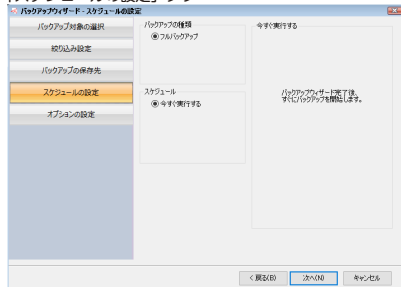
保存先フォルダー: E:\Backup\Agent_Backup_2024-09-12-1010
☒ 保存先ファイル名に自動で日付(YYYYMMDD)を付与
 保存先ファイル名: BackupAgent_1560_24091210105adb
☒ ファイル名に日付を自動で追加
☐ ネットワーク経由

名前	更新日時
System Volume Information	2024/09/12

< 戻る(B) | 次へ(N) > | キャンセル

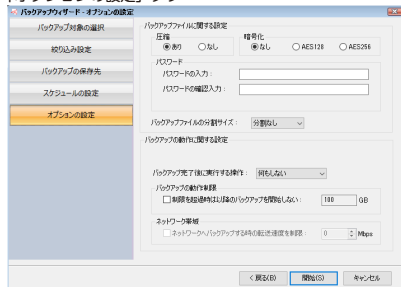


「スケジュールの設定」タブ



Windows PE 起動用ディスクで起動してバックアップを行う場合、スケジュールの設定はできません。

「オプションの設定」タブ



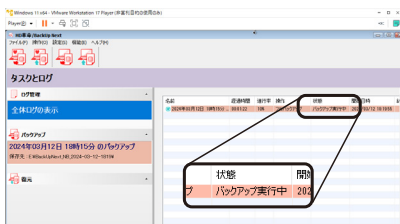
Windows PE 起動用ディスクで起動してバックアップを行う場合、以下のオプションは設定できません。

- ・バックアップ方式と一時ファイル（画面に表示されません）
- ・バックアップ完了後に実行する動作の「スリープ」と「休止状態」
- ・ネットワーク帯域

5

バックアップの実行

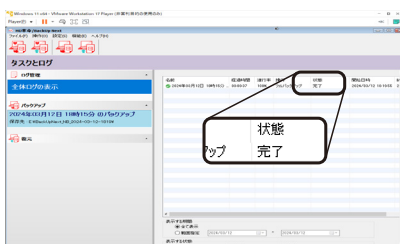
バックアップが開始すると、メイン画面でバックアップの「タスク」が新規に作成され、ログの「状態」列には「バックアップ実行中」と表示されます。



6

バックアップの完了

バックアップが完了すると、ログの「状態」列には「完了」と表示されます。



Windows PE 起動用ディスクで起動してバックアップを行ったタスクは、仮想ディスク上に作成されるため、コンピュータを再起動すると失われます。

Windows PE 起動用ディスクで起動して復元

あらかじめ作成した「Windows PE 起動用ディスク」でコンピューターを起動し、復元を行うことができます。一部機能は制限されますが、基本的な操作方はWindowsにインストールした **BackUp Next** と同様です。

1 コンピューターの起動

Windows PE 起動用ディスクからコンピューターを起動します（Next 1-12ページ参照）。

2 BackUp Nextの起動

Arkランチャーで「バックアップ・復元」→「HD革命/BackUp Next」を選択します。



3 復元方法の選択

ツールバーで「簡単バックアップ」または「詳細バックアップ」ボタンをクリックします。



4 復元対象の選択

●簡単復元

Windows上で操作するときと同様に一覧の中から復元対象（バックアップタスク）を選択します。



- Windows PE 起動用ディスクで起動して復元を行う場合は、Windows上でバックアップしたタスクは登録されていません。
- 「検索」または「参照」ボタンをクリックしてタスクを追加してください。



「簡単復元」を行う場合の対象ディスク

「簡単復元」は、バックアップを行った環境（同じディスク、同じパーティション構成）でなければ復元を行うことができません（Windows上での「簡単復元」を参照）。

タスクを選択すると、バックアップ時の環境に合致するディスクが存在するかを検索し、見つかった対象ディスクとして指定します。

このとき、ディスク型番の後ろに「バックアップ元のシステム」と表示されています。

対象ディスク

ディスク 0: PH6-CE240-L (バックアップ元のシステム)

Windows PE 起動用ディスクで起動した場合、バックアップ時の環境に合致するディスクが見つからないと、次の復元先候補として空（ディスク全体が未割り当て）のディスクが対象ディスクとして指定されます。

このとき、ディスク型番の後ろに「空ディスク」と表示されています。

対象ディスク

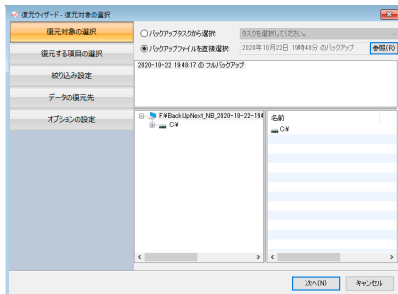
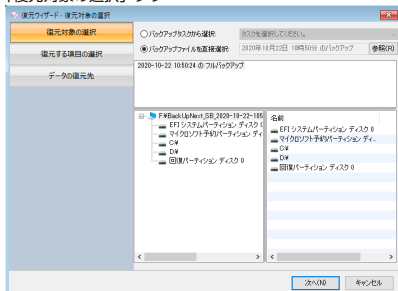
ディスク 0: PH6-CE240-L (空ディスク)

「空ディスク」と表示されているディスクに復元を行うことができますが、ディスク容量が異なるディスクに復元を行う場合は、復元先ディスク容量が小さいと各パーティションが自動的に縮小され、復元先ディスク容量が大きいと、各パーティションは元のサイズのまま復元され、後ろが「未割り当て」となります。パーティションの位置、サイズ調整はできません。

●詳細復元

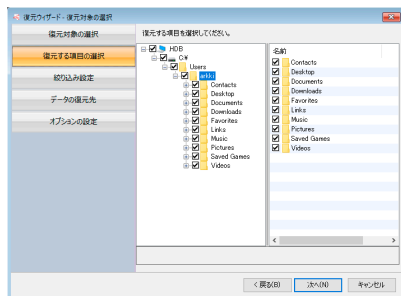
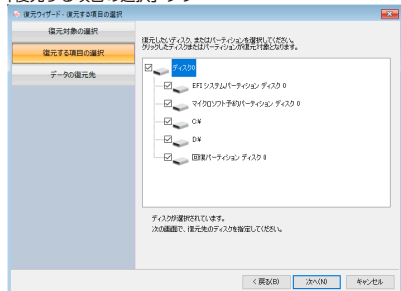
Windows上で操作するときと同様に、復元ウィザードに沿って復元を行います。以下の画面は、選択したオプションにより異なる場合があります。

「復元対象の選択」タブ

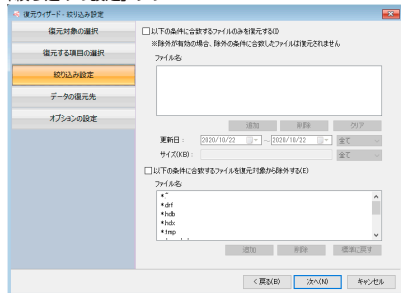


- セクターバックアップ方式でバックアップしたファイルを、詳細復元の「ディスク単位」で復元する場合は、元のシステムディスクであってもディスクを初期化して復元を行います。
- そのため、D ドライブを除いてバックアップしても（Next 3-9 ページ参照）、D ドライブのデータを残して復元することはできません（元の D ドライブがあった位置は「未割り当て」となります）。

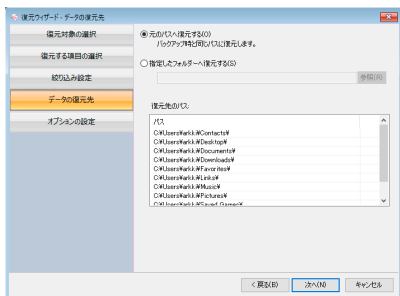
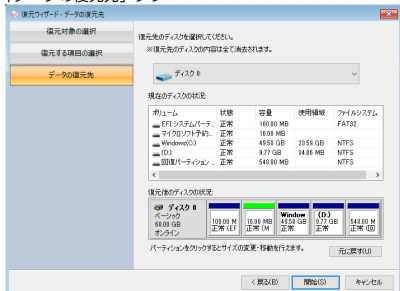
「復元する項目の選択」タブ



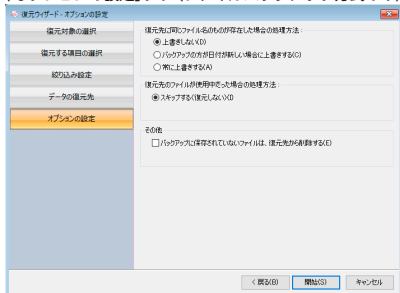
「絞り込みの設定」タブ



「データの復元先」タブ



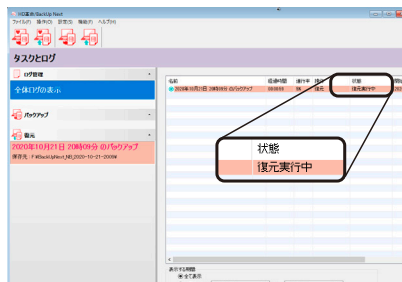
「オプションの設定」タブ (ファイルバックアップ方式のみ)



- 「再起動後に復元する」のオプションは選択できません (オプションが表示されません)。

復元が開始すると、メイン画面で復元の「タスク」が新規に作成され、ログの「状態」列には「復元実行中」と表示されます。

復元中のタスクとログは、赤色で表示されます。



Windows PE 起動用ディスクで起動して復元を行う場合、コンピューターを再起動せずに復元が開始します。

復元が完了すると、ログの「状態」列には「完了」と表示されます。



Windows PE 起動用ディスクで起動して復元を行ったタスクは、仮想ディスク上に作成されるため、コンピューターを再起動すると失われます。

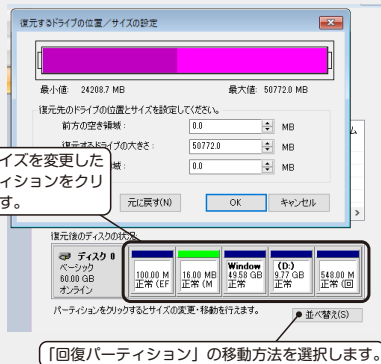


元のディスクに復元する場合のパーティション操作

Windows PE 起動用ディスクで起動して「詳細復元」を行う場合、基本的な動作はWindows上で「別のディスクに復元するときのディスク状況」(Next 3-15ページ参照)と同じになります。

元のシステムディスクに対して、ディスクを初期化してから復元しますので、位置とサイズの設定を行うことができます(差分、増分はサイズ変更不可)。

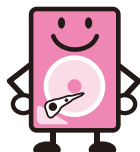
「復元後のディスクの状況」のドライバーで操作するパーティションをクリックすると「復元するドライブの位置/サイズの設定」画面が表示されますので、任意の位置とサイズに変更してください。



「回復パーティション」の移動方法を選択します。

第5章

ツール



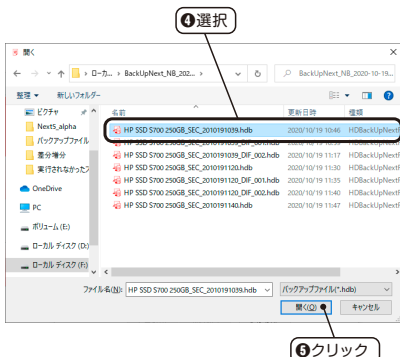
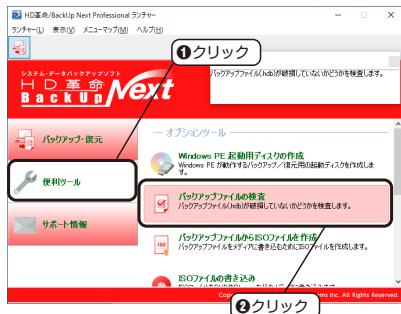
ここでは、HD革命/BackUp Nextを便利にお使いいただくための各種ツールの使い方について説明しています。

バックアップファイルの検査

「バックアップファイルの検査」ツールは、バックアップファイル（拡張子「hdb」）の検査を行い破損がないかなどを確認することができます。

1 「バックアップファイルの検査」を選択

Arkランチャーで「便利ツール」→「バックアップファイルの検査」を選択します。

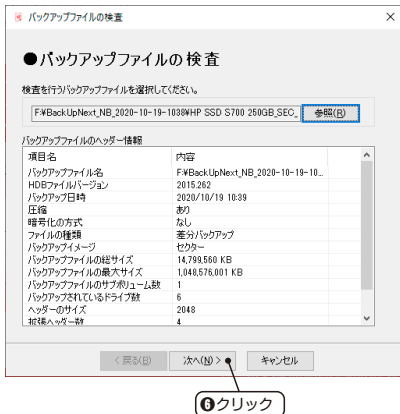
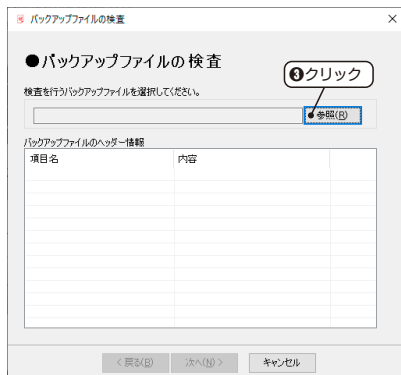


Point

差分と増分のバックアップファイルも選択することができます。

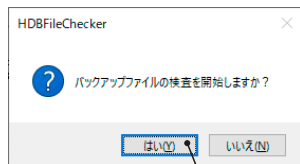
2 バックアップファイルを選択

「参照」をクリックしバックアップファイルを選択します。



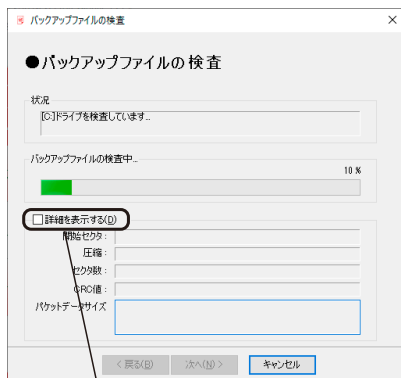
3 検査の開始

バックアップファイルの検査を開始します。

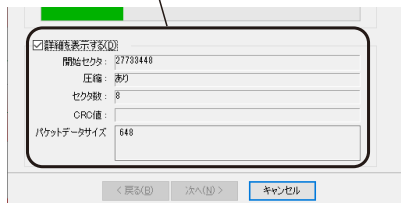


4 検査の実行

検査中は進行状況が表示されます。バックアップファイルのサイズによっては検査に時間がかかります。



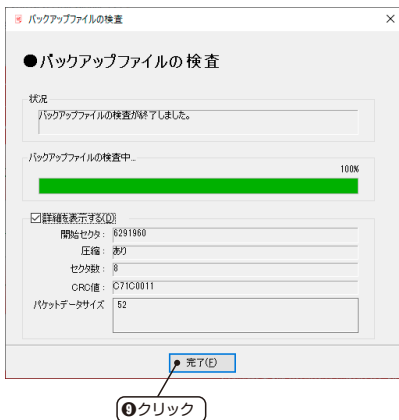
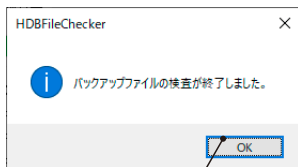
チェックを入れると詳細情報が表示されますが、検査の時間が増加します。



5 結果の表示

検査の結果が表示されます。

検査で異常が見つかったファイルは復元できません。



バックアップファイルから ISO ファイルを作成

ハードディスクにバックアップを行ったバックアップファイル（拡張子「hdb」のファイル）からISOイメージファイルを作成します。

1 「バックアップファイルから ISO ファイルを作成」を選択

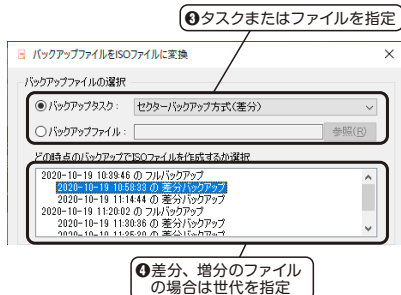
Arkランチャーで「便利ツール」→「バックアップファイルからISOファイルを作成」を選択します。



2 タスクまたはファイルを選択

バックアップタスクまたはバックアップファイルを選択します。

差分、増分バックアップファイルは、その事典までISOファイルに含めるかを選択できます。

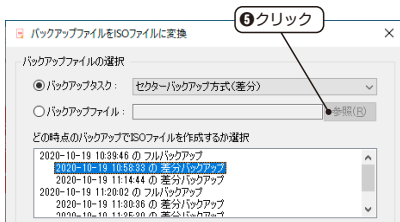


Point

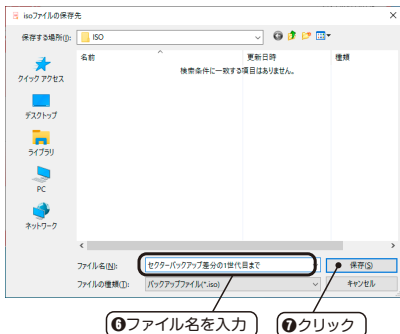
バックアップファイル（HDB ファイル）を直接選択する場合は、「フルバックアップ」したバックアップファイルを選択します。差分や増分のHDB ファイルは選択できません。

3 ISO ファイルの保存先を選択

「参照」をクリックし作成するISOファイルの保存先を選択します。



ISOファイルのファイル名を入力して「保存」をクリックします。

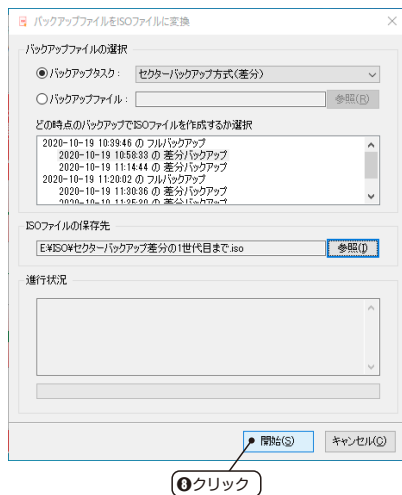


Point

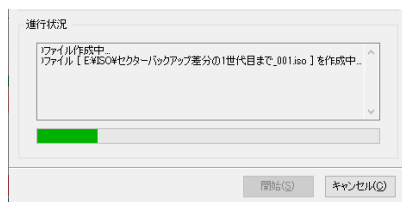
作成される ISO ファイルのサイズは、バックアップファイル（HDB ファイル）の分割サイズ（2-20 の d）と同じサイズに分割されて（*_001.ISO、*_002.ISO、……）作成されます。

4 ISO ファイルの作成開始

「開始」をクリックするとISOファイルの作成が開始します。

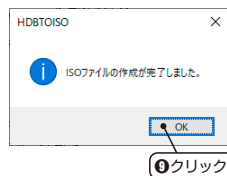


作成中は進行状況が表示されます。バックアップファイルのサイズによっては、作成に時間がかかります。

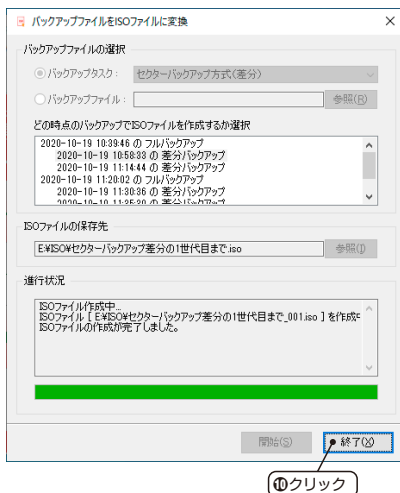


5 ISO ファイルの作成完了

作成が完了するとメッセージが表示されますので、「OK」をクリックします。



「終了」をクリックするとISO作成ツールが終了します。



ISO ファイルの書き込み

Next 5-4ページの「バックアップファイルからISOファイルを作成」機能で作成したISOファイルをメディアに書き込むことができます。なお、ISOファイルであれば、他のアプリケーションで作成したファイルにも対応しています。

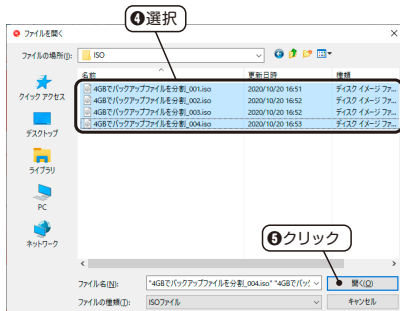
1 「ISOファイルの書き込み」を選択

Arkランチャーで「便利ツール」→「ISOファイルの書き込み」を選択します。



2 ISOファイルを追加

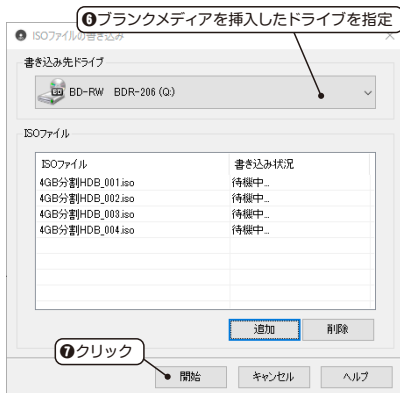
「追加」をクリックし、ISOファイルを追加します。



3 書き込みの開始

書き込み先ドライブが複数存在する場合は、書き込み前にドライブを指定します。

ブランクメディアをドライブに挿入して「開始」をクリックすると、メディアへの書き込みが開始します。

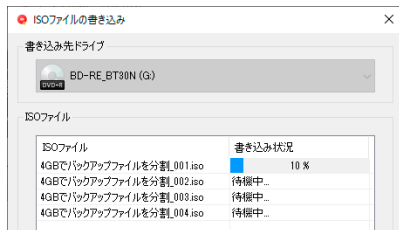


Point

ISO ファイルを複数追加することで、連続して書き込みを行うことができます。

4 メディアへの書き込み

メディアへの書き込み中は、進行状況が表示されます。



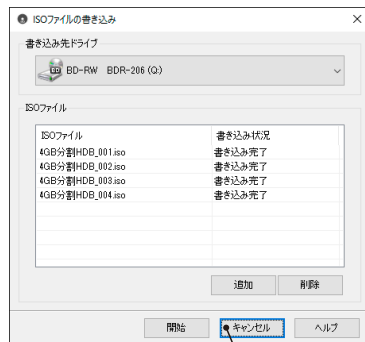
Point

複数の ISO ファイルを書き込む場合、1 つの書き込みが完了するとメディアがイジェクトされ、次のメディアの待機状態となりますので、新しいメディアを挿入してください。

5

書き込みの完了

書き込みが完了するとメディアがイジェクトされます。同じISOファイルをもう一度書き込む場合は、メディアを交換して「開始」をクリックします。



① 終了する場合にクリック

「キャンセル」をクリックするとISOの書き込みツールが終了します。



- 書き込み可能な BD-R/RE メディアは、2 層 (DL) までの対応となります。3 層と 4 層 (XL) には対応していません。

メディアの消去

起動CDの作成時にCD-RW、DVD±RW、BD-REメディアを使用することができますが、使用する前にメディアの消去を行う必要があります（CD-R、DVD±R、BD-Rメディアの場合は消去の必要はありません）。

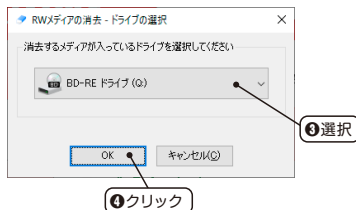
1 「メディアの消去」を選択

Arkランチャーで「便利ツール」→「メディアの消去」を選択します。



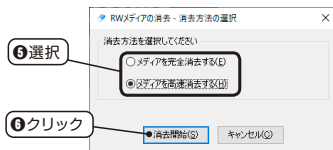
2 ドライブを選択

消去するメディアを挿入したドライブを選択します。



3 消去方法を選択

消去方法を選択します。



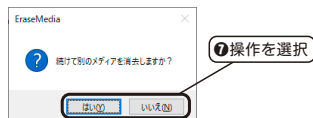
4 消去の実行

消去中は次の画面が表示されます。完全消去の場合、完了までに時間がかかります。



5 消去の終了

消去終了後、次のメッセージが表示されます。別のメディアを消去するときは「はい」、メディアの消去を終了するには「いいえ」をクリックします。



Point

RW/RE メディアの消去方法

- メディアを完全消去する…メディア全体を完全に消去します。メディア全体を消去するため時間がかかります。
- メディアを高速消去する…メディアのトラック情報を消去することにより高速に消去します。

パーティションツール

選択したディスク、またはパーティションの削除やフォーマットを行うことができます。また、MBRディスク環境では、アクティブパーティションを変更することもできます。

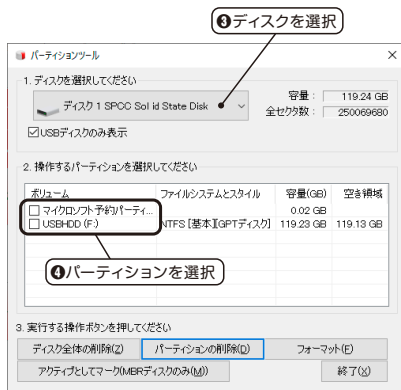
1 「パーティションツール」を選択

Arkランチャーで「便利ツール」→「パーティションツール」を選択します。



2 ディスクとパーティションの選択

「パーティションツール」の操作画面が起動しますので、操作するディスクとパーティションを選択します。

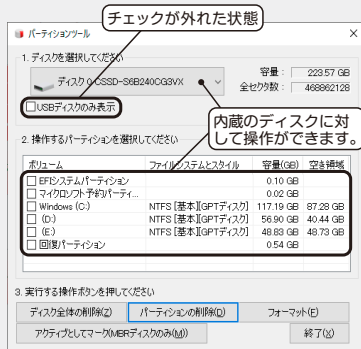


USB ディスクのみ表示

「パーティションツール」では、起動時に「USBディスクのみ表示」のオプションにチェックが入っています。これは、内蔵ディスクとUSBディスクとの識別をやすくして、可能な限り誤ったディスクを削除しないようにすることを目的としています。

なお、「USBディスクのみ表示」のチェックを外すと、内蔵ディスクも含めてすべてのディスクが表示されるようになります。内蔵ディスクを操作する場合は、チェックを外してからディスクを選択してください。

USB ハードディスクまたはUSB メモリーが接続されていない状態で「USBディスクのみ表示」のチェックが入っている場合は、ディスクが空欄となり選択ができません。USBディスクを削除する場合は、接続してから「パーティションツール」を起動してください。



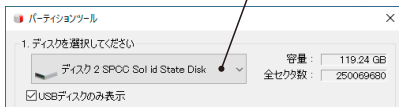
●ディスク全体の削除

ディスク全体の削除を行う場合は、選択されているディスクを確認し「ディスク全体の削除」ボタンをクリックします。

「ディスク全体の削除」では、選択されているパーティションの有無にかかわらず、すべてのパーティションが削除されます。

Windows上で操作を行う場合は、起動中のシステムドライブを削除対象として選択することはできません。

ここで選択されているディスクが対象となります。

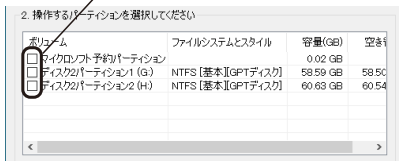


- ディスク全体の削除を行うと、コンピューターを初期状態に戻す回復ドライブ（リカバリーデータ）も削除されてしまいます。
- OSの再インストールを行う場合は、削除する前に「回復ドライブ」や「リカバリーディスク」を作成しておいてください。

●パーティションの削除とフォーマット

パーティションの削除とフォーマットを行う場合は、チェックボックスにチェックを入れてから「パーティションの削除」または「フォーマット」ボタンをクリックします。

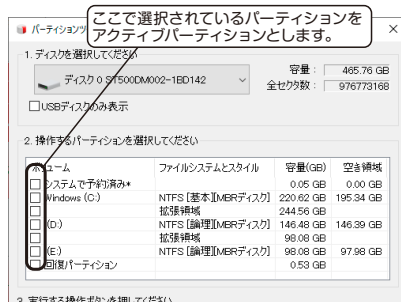
ここで選択されているパーティションが対象となります。



- 「マイクロソフト予約パーティション」は、GPT ディスクの環境でパーティションを作成すると自動的に作成されるパーティションです。
- また、システムドライブの場合は、このほかに「EFI システムパーティション」と「回復パーティション」が作成されますが、Windows上で操作を行う場合は、「パーティションツール」では対象として選択できません。

●アクティブとしてマーク（MBRディスクのみ）

MBRディスク環境でアクティブパーティションを変更する場合は、「アクティブとしてマーク（MBRディスクのみ）」ボタンをクリックします。アスタリスク（*）マークがついているのが、アクティブパーティションとなります。

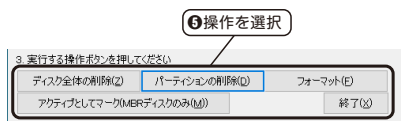


- アクティブパーティションはOSの起動用として指定されたパーティションですが、インストール時に自動的に設定されています。そのため、問題がない限りアクティブパーティションを変更する必要はありません。

例えば、上記画像において「システムで予約済み」から「Cドライブ」にアクティブパーティションを変更すると、次のWindows起動時に「An operating system wasn't found」というようなメッセージが表示されWindowsは起動できなくなります。

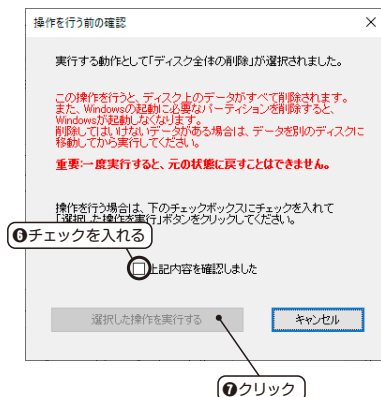
3 操作の確認

対象を選択して各操作ボタンをクリックします。



操作が始まる前に確認ダイアログが表示されます。

選択した操作によりメッセージが異なりますので、確認してから操作を実行するようにしてください。



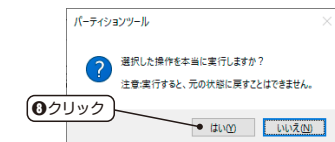
Point

チェックを入れないと「選択した操作を実行する」のボタンは押せません。

4 操作の開始

もう一度確認メッセージが表示されますので、実行する場合は「はい」をクリックします。

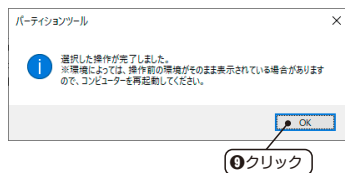
操作の実行中はコマンドプロンプトの画面が開き、選択した操作が実行されます。



これ以降は、操作をキャンセルできません。操作を止める場合は、ここで「いいえ」をクリックして「パーティションツール」を終了してください。

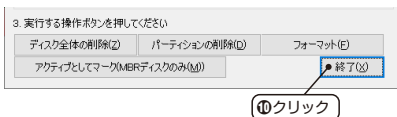
5 操作の完了

操作が完了すると次のメッセージが表示されますので、「OK」をクリックします。

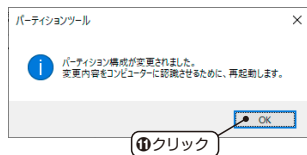


6 コンピューターの再起動

操作画面に戻りますので、「終了」ボタンをクリックします。



上で操作は終了となります。「OK」をクリックしてコンピューターを再起動してください。



ドライブ情報の取得

コンピュータに接続してあるディスクの情報を取得し、表示することができます。

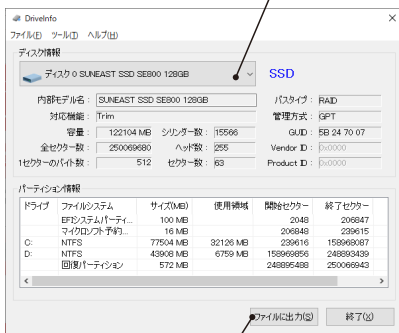
1 「ドライブ情報の取得」を選択

Arkランチャーで「便利ツール」→「ドライブ情報の取得」を選択します。



2 ドライブ情報の取得

③ 情報を表示させたいディスクを選択



Point

「ツール」メニューを開き、Windowsの起動に関わる情報（GUID、MBR）を操作することができますが、Windowsの状態に問題がないときは使用しないでください。

コンピューター情報の取得

コンピューターに関する情報を取得し、表示することができます。

この機能は、Windows PE 起動用ディスクで起動した Ark ランチャーには表示されません。

1 「コンピューター情報の取得」を選択

Ark ランチャーで「便利ツール」→「コンピューター情報の取得」を選択します。



2 コンピューター情報の取得

③各タブをクリックして各情報を表示

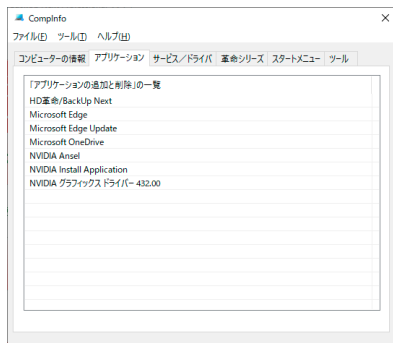


Point

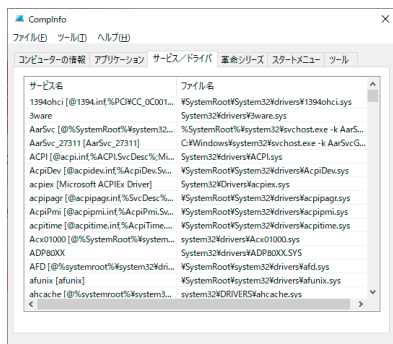
「スタートメニュー」タブでチェックしたメニューをWindowsのデスクトップに作成することができます。「ツール」タブで「ディスクの管理」「タスクスケジューラ」ほかのWindowsの機能呼び出すことができます。



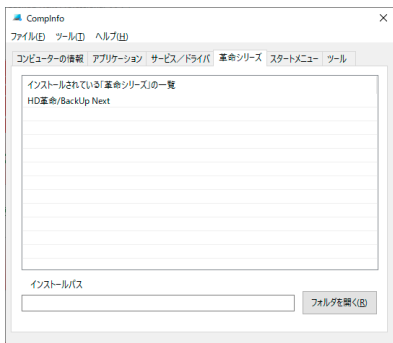
「コンピュータの情報」タブ



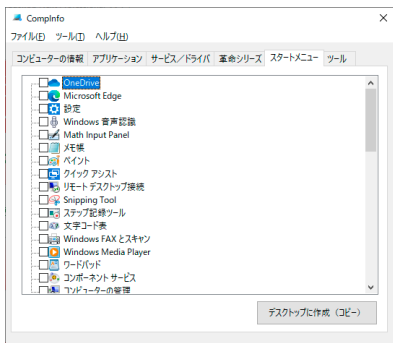
「アプリケーション」タブ



「サービス/ドライバ」タブ



「革命シリーズ」タブ



「スタートメニュー」タブ



「ツール」タブ

アップデータの確認

インターネットに接続できる環境にある場合、製品によっては起動時に「更新確認ツール」が起動することがあります。この場合、製品の最新アップデータが公開されていますので、「更新確認ツール」からアップデータのダウンロードとインストールを行うことができます。アップデータのダウンロードを行うには、製品の登録が必要です。

製品の登録と「更新確認ツール」について

●革命シリーズ製品を初めて登録する場合

革命シリーズ製品を初めてユーザー登録する場合は、「更新確認ツール」で入力したメールアドレスがそのまま新規のユーザーIDとして登録されますので、間違いがないように確認いただき入力してください。なお、「更新確認ツール」によるユーザー登録は「仮登録」の状態となり、メールアドレス、パスワード、シリアル番号のみが登録されます。

「仮登録」の状態は、アップデータのダウンロードは可能ですが、サポートへの問い合わせやオンラインショップでの優待販売などのサービスがご利用いただけません。



「更新確認ツール」で登録を行うと、入力したメールアドレス宛に「自動更新の手続き完了のお知らせ」という件名でメールが送信されます。このメールが届いていない場合は、入力したメールアドレスが間違っている可能性があります。

「本登録」には、「更新確認ツール」で入力したメールアドレスとパスワードの入力が必要となりますので、メールアドレスの間違いにより「本登録」が行えない場合は、シリアル番号をご用意いただき、ユーザーサポートまでご連絡ください。

Web サイト (<https://www.ark-kakumei.jp/selectregist>) にて残りの項目を入力して「本登録」を行ってください。「本登録」を行う場合は、「革命シリーズ」のユーザー登録が済みの方で「製品追加登録」をクリックし、「仮登録」で入力したメールアドレス、パスワードを入力してください。

●すでに革命シリーズ製品の登録を行っている場合

すでにユーザー登録されている場合は、登録されているメールアドレスとパスワードを入力することで製品の追加登録を行います。

ユーザー登録されているメールアドレスと異なるメールアドレスを入力した場合は、別のユーザーIDとして登録されます。この場合、前述の「革命シリーズ製品を初めて登録する場合」と同様となります。



アップデータのダウンロードや優待販売は、登録したシリアル番号とメールアドレス、パスワードが一致しないとご利用いただくことができません。問題がなければ、「更新確認ツール」の画面ですでにユーザー登録しているメールアドレスとパスワードを入力し、同じユーザーIDへの製品追加登録という形にしてください。

「更新確認ツール」による登録と確認の流れ

1 更新確認ツール

「更新確認ツール」でメールアドレスとパスワードを入力します。

製品をご利用いただきありがとうございます。①メールアドレスとパスワードを入力

製品名: _____

ユーザ登録情報

ユーザID(メールアドレス) _____

パスワード _____

パスワード(確認用) _____

シリアル番号 _____

②入力後にクリック ユーザ登録

ユーザIDにはメールアドレス(6～60文字)を入力してください。
パスワードは半角英数字6～18文字です。

弊社WEBにて「ユーザ登録」がお済みの場合にはユーザ登録したユーザIDを入力してください。確認のメールを「ユーザID」欄宛にお送りしますので、スペル間違いなど無いようにお願いします。

更新情報 閉じる

2 更新処理への移動

登録が終了するとメッセージが表示されますので、「OK」をクリックします。

AutoUpper

レジストリ登録が完了しました。更新処理に移動します。

③クリック OK

3 更新処理

画面が変わりますので、「更新」をクリックします。

更新確認ツール

ユーザ登録情報

ユーザID _____

パスワード _____

シリアル番号 _____

更新データ問合せ完了

更新データがあります。更新を行う場合は「更新」ボタンを押してください。

④クリック

今日は更新しない 更新情報 更新 閉じる

4 ダウンロードとインストール

アップデートファイルが自動的にダウンロードされ、アップデートのインストールが開始されます。

Point

「更新確認ツール」は、Ark ランチャーの「サポート情報」→「アップデートの確認」から起動することができます。

更新確認プログラム

更新データがありませんでした。終了します。

⑤クリック OK

ネットワークドライブの割り当てと IP アドレスの設定

作成した Windows PE 起動用ディスクから起動し、ネットワークドライブを使用するバックアップ・復元を行う場合は「ネットワークドライブの割り当て」が必要です。Windows 上での「ネットワークドライブの割り当て」と異なり、バックアップ・復元の実行前に毎回行う必要があります。

また、DHCP サーバーがないようなネットワークの場合、「ネットワークの詳細設定」によって固定 IP アドレスを設定することができます。

1 コンピューターの起動

Windows PE 起動用ディスクからコンピューターを起動します (Next 1-12 ページ参照)。

2 「ネットワークドライブの割り当て」を選択

Ark ランチャーで「便利ツール」→「ネットワークドライブの割り当て」を選択します。

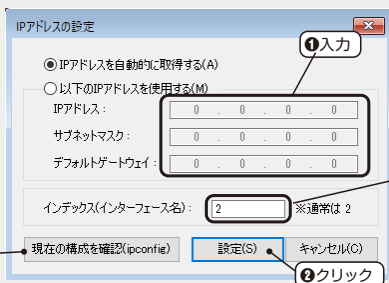


IP アドレスの設定

DHCP サーバーが存在しないネットワーク環境で固定 IP アドレスを割り当てる必要がある場合、Ark ランチャーで「便利ツール」→「IP アドレスの設定」を選択し、任意の IP アドレスを割り当てることができます。

「IP アドレスの設定」画面で、ネットワーク環境に応じた IP アドレスを入力します。

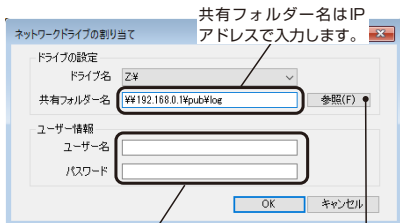
「ipconfig」コマンドを実行した結果が表示されます。



ネットワークデバイスが複数接続されているようなとき、「2」では正しく設定できない場合があります。その場合は、3、4、5...と変更してみてください。

3 共有フォルダーを選択

共有フォルダー名に直接ネットワークパスを入力するか、「参照」をクリックして共有フォルダーを指定します。



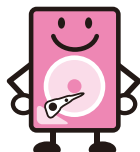
ネットワークドライブにログオンパスワードが必要な場合は、ユーザー名とパスワードを入力します。

共有するフォルダーをツリーの中から選択し、「OK」をクリックします。



第 6 章

参考資料



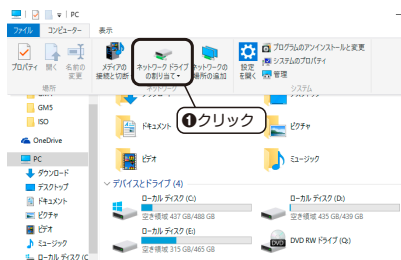
ここでは、*BackUp Next*をご利用いただく際に参考となる Windows の操作について説明しています。

ネットワークドライブの割り当て

以下に示す操作により、「ネットワークドライブの割り当て」を行うことができます。ここでは、ネットワークハードディスクに作成した共有フォルダー「databackup」に対してネットワークの割り当てを行っています。

1 「ネットワークドライブの割り当て」を選択

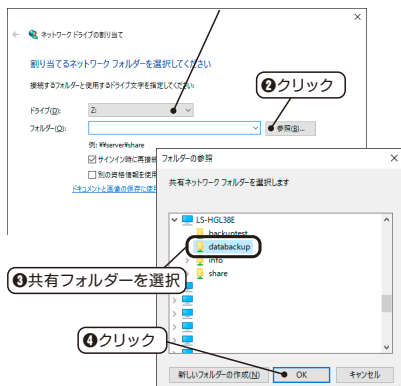
コンピューター（PC）を開き、画面上部にある「ネットワークドライブの割り当て」をクリックします。



2 共有フォルダーの指定

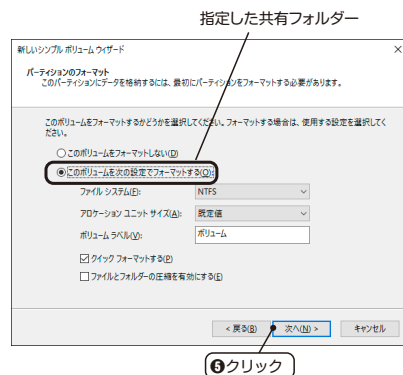
「参照」をクリックし、割り当てを行うフォルダーを選択します。

使用するドライブ文字を指定できます。

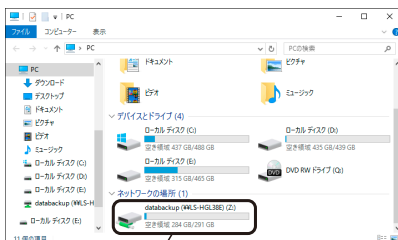


3 ネットワークドライブの割り当て

「完了」をクリックするとネットワークのドライブの割り当てが実行されます。



「コンピューター」を開くと「ネットワーク」の場所にドライブが表示されます。

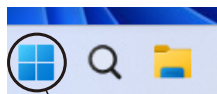


ネットワークドライブの共有フォルダー「databackup」に Z ドライブが割り当てられています。

ディスクの初期化とパーティションの作成

1 ディスクの初期化

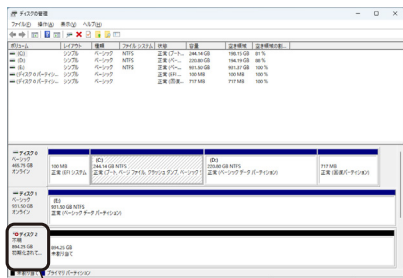
初期化したいハードディスクを接続し、「ディスクの管理」を起動します。



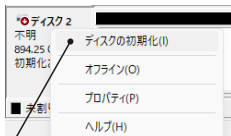
①「スタート」ボタンにマウスポインタを移動し、マウスを右クリック（左ではありません）

②「ディスクの管理」をクリック

ネットワーク接続
ディスクの管理
コンピュータの管理
ターミナル
ターミナル (管理者)
タスク マネージャー
設定
エクスプローラー
検索
ファイル名を指定して実行

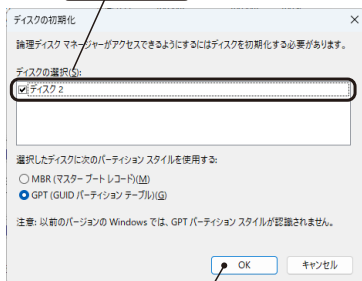


③「初期化されていません」の表示部を右クリック



④表示されたメニューで「ディスクの初期化」をクリック

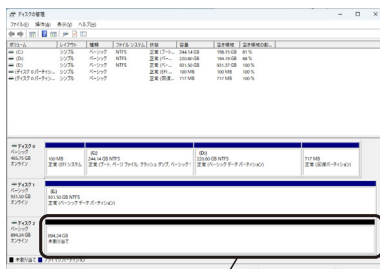
⑤ディスクを選択



⑥「OK」をクリックすると、初期化が開始

2 パーティションの作成

初期化に続いて、「ディスクの管理」からパーティションを作成することができます。

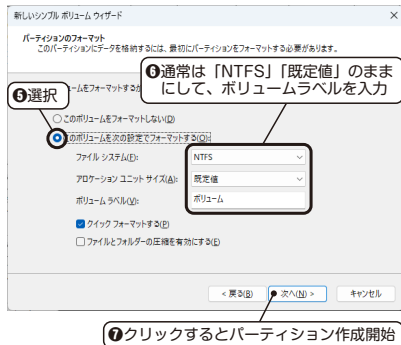
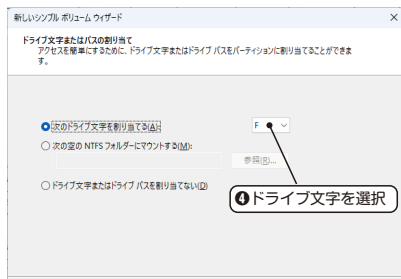
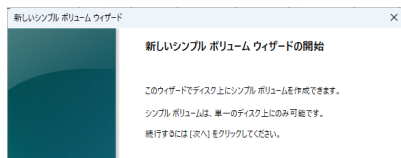


①「未割り当て」を右クリック

②「新しいシンプルボリューム」をクリック

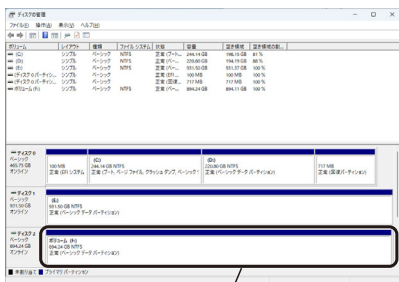
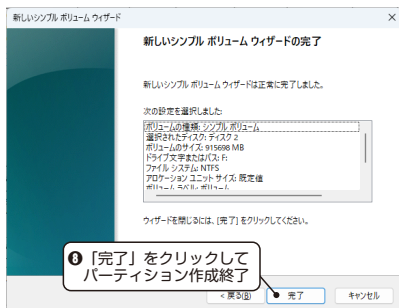


「新しいシンプル ボリューム ウィザード」が起動します。



Point

サイズが32GB以上のときは「FAT32」は選択できません。
「クイックフォーマットする」にチェックを入れると、フォーマット時間を短縮できます。



作成されたパーティション



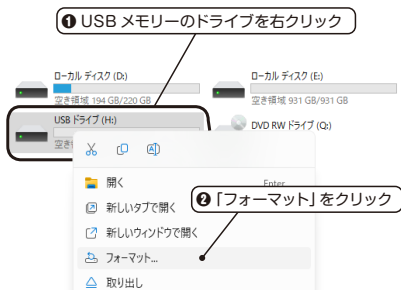
「フォーマット中」と表示されている間は、パーティション操作はせずに、終了するまでお待ちください。

USB メモリーのフォーマット

USB メモリーをフォーマットするには、以下の操作を行います。

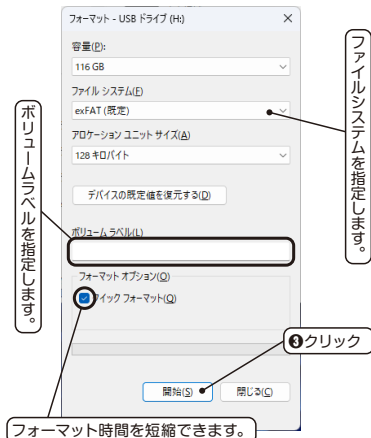
1 USBメモリーの選択

コンピュータ（マイ コンピュータ）でUSBメモリーのドライブを右クリックします。



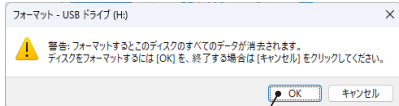
2 オプションの選択

オプションを指定して「開始」をクリックします。



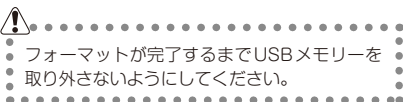
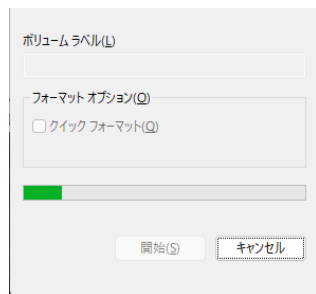
3 USBメモリーのフォーマット

フォーマット開始前に確認メッセージが表示されます。

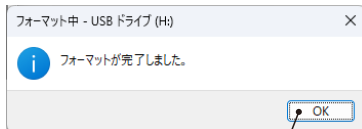


4 フォーマットしてよいかを確認し、クリック

フォーマット中は進行状況が表示されます。



「OK」をクリックして、フォーマットが完了です。



6 クリック

回復ドライブの作成

USBメモリーにコンピューターを初期状態に戻すための「回復ドライブ」を作成する手順を示します。USBメモリーは、環境により異なりますが8GB～32GBの容量が必要です。

1 USBメモリーの接続

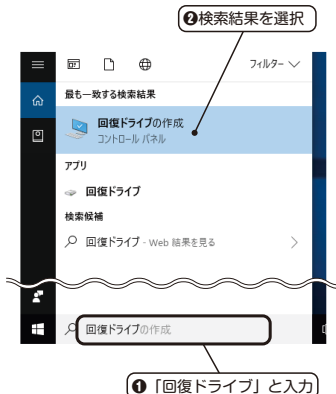
コンピュータ（マイ コンピュータ）でUSBメモリーのドライブを右クリックします。

2 「回復ドライブの作成」を選択

「回復ドライブの作成」を選択してアプリを起動します。

●Windows 10の場合

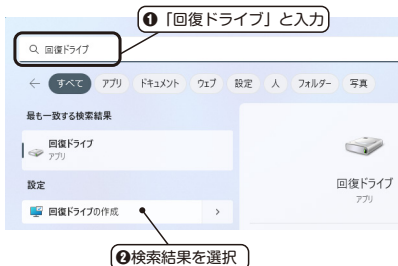
タスクバーの検索ボックスに「回復ドライブ」と入力し、検索結果から「回復ドライブの作成」またはアプリの「回復ドライブ」を選択します。



⚠ メーカー製のコンピューターでは、インストールされているメーカー製アプリの中で作成できるようになっていることがあります。

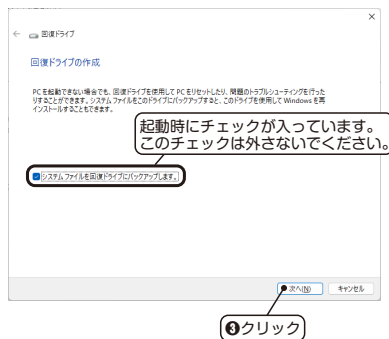
●Windows 11の場合

「スタート」ボタンをクリックして検索ボックスに「回復ドライブ」と入力し、検索結果から「回復ドライブの作成」またはアプリの「回復ドライブ」を選択します。

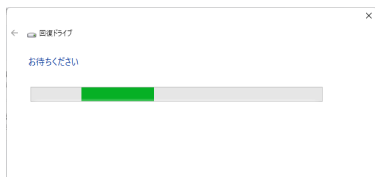


3 回復ドライブの作成

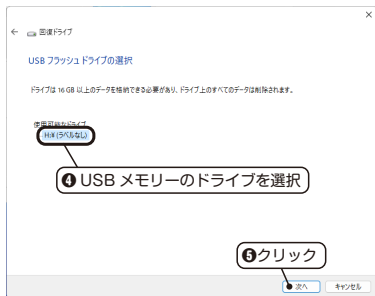
「回復ドライブの作成」画面が起動しますので、「次へ」をクリックします。



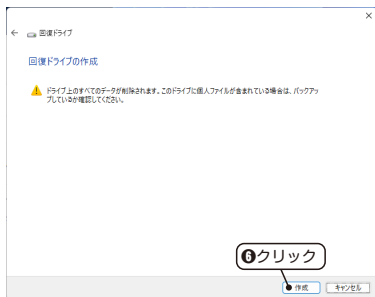
しばらくの間、「お待ちください」と表示されます。コンピューターによっては時間がかかることがあります。



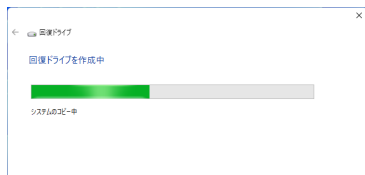
USBメモリーを接続したドライブを選択して「次へ」をクリックします。USBメモリー以外のUSBデバイスは接続を外しておくことをおすすめします。



USBメモリー内のデータが削除されますので、必要なデータが残っていないか確認してください。「作成」をクリックすると、実際に作成が開始されます。

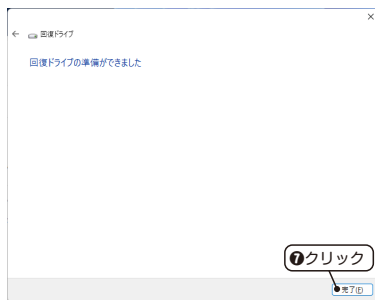


作成中は進行状況が表示されます。



作成が終了すると「回復ドライブの準備ができました」の画面に変わります。

「完了」をクリックします。



- ⚠
- 画面内に「回復パーティションを削除します」と表示されている場合、クリックするとハードディスク内の「回復パーティション」が削除されてしまいます。Windows上でパソコンを初期化することができなくなりますので、必要がない限り選択しないようにしてください。

ここで作成した「回復ドライブ」のUSBメモリーは、作成したコンピューター専用となり、他のコンピューターで使用することはできません。別のコンピューターで作成する場合は、もう1つUSBメモリーを用意して同様の手順を行ってください。

「回復ドライブ」を使用したコンピューターの初期化方法は、お使いのコンピューターのマニュアルやメーカーのWebサイトにご確認ください。

- ・本ユーザーズ・マニュアルはPDFファイルとして提供しており、Adobe Reader（Adobe社の閲覧ソフトウェア）を使用し、オンラインマニュアルとしてご利用いただくことができます。
- ・Microsoft[®]、Windows[®]11、Windows[®]10、Windows[®]8.1、Windows[®]8、Windows PEは米国Microsoft Corporationの、米国および他の国における登録商標または商標です。
- ・その他の会社名、商品名は、それぞれの会社の登録商標または商標です。

HD 革命 /BackUp Next Ver.5 ユーザーズ・マニュアル

2024 年 4 月 1 日 第 5 版発行

編 集 株式会社アーク情報システム

発 行 ファンクション株式会社

〒 351-0022 埼玉県朝霞市東弁財 3-17-16

© 2020 Ark Information Systems, Inc. © 2020 Function, Inc.

著作権法の範囲を超え、本書を無断で複写、複製、転載することを禁じます。